

令和6年度
障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

障害者芸術文化活動普及支援事業
報告書

障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

令和6年度

2025年3月

令和6年度
障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

はじめに

「障害者芸術文化活動普及支援事業」は、2017（平成29）年度からスタートし、今年度で8年目の実施となりました。

今年度、本事業を実施する「障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）」は46ヶ所、それら支援センターをブロック単位でサポートする「障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）」は7ヶ所に置かれました。

障害者による文化芸術活動の推進に向け、2023（令和5）年3月に策定された「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」の計画期間の2年目にあたる今年度は、センターの活動も充実して幅を広げています。

本書が、本事業を知っていただくきっかけになるとともに、各地での障害のある人の芸術文化活動支援の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、本書の発行にご協力をいただいたすべての皆さまへお礼を申し上げます。

障害者芸術文化活動普及支援事業
連携事務局
（特定非営利活動法人アートNPOリンク、株式会社precog）

目次

02 はじめに

03 目次

04 障害者芸術文化活動普及支援事業とは

06 支援センター・広域センター一覧

09 支援センター・広域センターの取り組み

10 北海道・北東北ブロック

12 広域センター アールブリュット推進センター Gently（ジェントリー）

14 北海道 福祉とアーツ北海道

16 青森県 青森アール・ブリュットサポートセンター（AASC）

18 岩手県 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあと

20 南東北・北関東ブロック

22 広域センター 南東北・北関東ブロック広域センター

24 宮城県 障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）

26 山形県 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

28 福島県 はじまりの美術館

30 茨城県 茨城県障害者芸術文化活動支援センター

32 栃木県 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

34 群馬県 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん

36 南関東・甲信ブロック

38 広域センター 南関東・甲信障害者アートサポートセンター

40 埼玉県 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター

アートセンター集（基幹型）

42 埼玉県 ART（s）さいほく（特色型）

44 千葉県 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

46 東京都 東京アートサポートセンター Rights（ライツ）

48 神奈川県 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

50 山梨県 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

52 長野県 ザワメキサポートセンター

（長野県障がい者芸術文化活動支援センター）

54 東海・北陸ブロック

56 広域センター 東海・北陸ブロック障害者

芸術文化活動広域支援センター

58 新潟県 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

60 富山県 富山県障害者芸術活動支援センター

ばーと◎とやま（BE=ART ◎ TOYAMA）

62 石川県 文化・芸術活動支援センターかける

64 福井県 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと

66 岐阜県 岐阜県障がい者芸術文化支援センター [TASC ぎふ]

68 静岡県 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

131 連携事務局の取り組み

140 数値で見る実績

70 愛知県 あしよげふセンター（愛知県障害者芸術文化活動支援センター）

72 三重県 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

74 近畿ブロック

76 広域センター 障害とアートの相談室

78 滋賀県 アール・ブリュット インフォメーション & サポートセンター

80 京都府 artspace co-jin

82 大阪府 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

84 兵庫県 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

86 奈良県 奈良県障害者芸術文化活動支援センター

88 和歌山県 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

90 中国・四国ブロック

92 広域センター 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

94 鳥取県 あいサポート・アートセンター

96 島根県 島根県障がい者文化芸術活動支援センター

アートベースしまねいろ

98 岡山県 岡山県子ども・福祉部障害福祉課

100 広島県 広島県アートサポートセンター

102 徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

104 香川県 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

106 愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター

108 高知県 薬工ミュージアム 分室

110 九州ブロック

112 広域センター 九州障害者アートサポートセンター

114 福岡県 FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）

116 佐賀県 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC

118 長崎県 長崎県障害者芸術文化活動支援センター

120 熊本県 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

122 大分県 おおいた障がい者芸術文化支援センター

124 宮崎県 宮崎県障がい者芸術文化支援センター

126 鹿児島県 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター

（KADAC / カダック）

128 沖縄県 沖縄県障害者芸術文化活動支援センター（ricca / りっか）

障害者芸術文化活動普及支援事業とは

障害のある人が芸術文化を享受し、多様な芸術文化活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することをねらいとした中間支援事業です。

2014（平成26）年度から3年間を通じて全国12ヶ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウを元に、2017（平成29）年度から支援の対象を絵画や陶芸などの美術分野に加えて、演劇や音楽、舞踊などの舞台芸術分野にも広げ、2020（令和2）年度からは美術、音楽、演劇、舞踊などの多様な芸術文化活動を対象として実施しています。

活動地域に応じて、都道府県「障害者芸術文化活動

主な事業支援

障害者芸術文化活動普及支援事業では、支援センターが都道府県の支援拠点として相談支援や人材育成、関係者のネットワークづくり、芸術文化活動に参加する機会の確保、情報収集発信など多様なサポートを展開して

支援センター（支援センター）」、ブロック「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」、全国「連携事務局」といった支援拠点を設置しています。

同時に、これらの支援センター、広域センター、連携事務局のネットワークを構築し、県境を越えて広域でも連携しつつ、地域での振興を図りながら全国規模で本事業を推進しています。

また、毎年都道府県が持ち回りで開催する「全国障害者芸術・文化祭」や、同芸術・文化祭と連携する各自治体の「障害者芸術・文化祭のサテライト開催事業」、障害者総合福祉推進事業といった厚生労働省の他事業との連携で、障害のある人の芸術文化活動の振興を相乗的に図っています。

います。さらに障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）は、全国を7つのブロックに分け、ブロック内の支援センターや支援センターが設置されていない都道府県のサポートを行っています。



「世界のまじわりとひろがり展」鑑賞の様子
（やまがたアートサポートセンターら・ら・ら）



「みんなのディスコ」
（徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター）

1 都道府県レベルにおける活動支援

「障害者芸術文化活動支援センター（支援センター）」

1. 障害者芸術文化活動支援センターの設置

ア 都道府県内における相談支援（芸術文化活動における支援方法、創造環境の整備、権利の保護、鑑賞支援等）

イ 芸術文化活動を支援する人材の育成等

ウ 関係者のネットワークづくり

エ 芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保

オ 情報収集・発信（都道府県内の実態把握、情報発信）

カ 事業評価及び成果報告のとりまとめ

2. 支援センターの機能強化

地域のニーズを踏まえ、文化施設等に出向いて行う相談やアドバイス、福祉施設と文化施設等の他分野が連携する取組への支援等

2 ブロックレベルにおける広域支援

「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」

ア 都道府県の支援センターに対する支援

イ センター未設置都道府県の事業所等に対する支援

ウ 芸術文化活動に関するブロック研修の開催

エ ブロック内の連携の推進

オ 芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保

カ 自治体の基本計画策定の推進

キ 事業評価及び成果報告のとりまとめ

3 全国レベルにおける活動支援

「連携事務局」

ア 広域センター等に対する支援

イ 全国連絡会議の実施

ウ 全国の情報収集・発信

エ 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等

オ 障害者団体、芸術団体等との連携

支援センター・広域センター一覧

支援センター 46 ヶ所には数字、広域センター 7 ヶ所にはアルファベットを振った。

北海道・北東北ブロック

A **北海道** アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

- 01** **北海道** 福祉とアーツ北海道
- 02** **青森県** 青森アール・ブリュットサポートセンター (AASC)
- 03** **岩手県** 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあと

南東北・北関東ブロック

B **宮城県** 南東北・北関東ブロック広域センター

- 04** **宮城県** 障害者芸術活動支援センター@宮城 (愛称: SOUP)
- 05** **山形県** やまがたアートサポートセンターら・ら・ら
- 06** **福島県** はじまりの美術館
- 07** **茨城県** 茨城県障害者芸術文化活動支援センター
- 08** **栃木県** とちぎアートサポートセンター TAM [タム]
- 09** **群馬県** 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふあん

南関東・甲信ブロック

C **埼玉県** 南関東・甲信障害者アートサポートセンター

- 10** **埼玉県** 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター
アートセンター集 (基幹型)
- 11** **埼玉県** ART (S) さいほく (特色型)
- 12** **千葉県** 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり
- 13** **東京都** 東京アートサポートセンター Rights (ライツ)

- 14** **神奈川県** 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター
- 15** **山梨県** YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター
- 16** **長野県** ザワメキサポートセンター
(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

東海・北陸ブロック

D **新潟県** 東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

- 17** **新潟県** 新潟県障害者芸術文化活動支援センター
- 18** **富山県** 富山県障害者芸術活動支援センター ぱーと◎とやま
(BE=ART◎TOYAMA)
- 19** **石川県** 文化・芸術活動支援センターかける
- 20** **福井県** 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと
- 21** **岐阜県** 岐阜県障がい者芸術文化支援センター [TASC ぎふ]
- 22** **静岡県** 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと
- 23** **愛知県** あしよげふセンター (愛知県障害者芸術文化活動支援センター)
- 24** **三重県** 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

近畿ブロック

E **奈良県** 障害とアートの相談室

- 25** **滋賀県** アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター
- 26** **京都府** art space co-jin
- 27** **大阪府** 国際障害者交流センター ビッグ・アイ
- 28** **兵庫県** ひょうご障害者芸術文化活動支援センター
- 29** **奈良県** 奈良県障害者芸術文化活動支援センター
- 30** **和歌山県** 和歌山県 福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

中国・四国ブロック

F **高知県** 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

- 31** **鳥取県** あいサポート・アートセンター
- 32** **島根県** 島根県障がい者文化芸術活動支援センター
アートベースしまねいろ
- 33** **岡山県** 岡山県子ども・福祉部障害福祉課
- 34** **広島県** 広島県アートサポートセンター
- 35** **徳島県** 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
- 36** **香川県** 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES
- 37** **愛媛県** 愛媛県障がい者アートサポートセンター
- 38** **高知県** 藁工ミュージアム 分室

九州ブロック

G **福岡県** 九州障害者アートサポートセンター

- 39** **福岡県** FACT (福岡県障がい者文化芸術活動支援センター)
- 40** **佐賀県** 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC
- 41** **長崎県** 長崎県障害者芸術文化活動支援センター
- 42** **熊本県** 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館
- 43** **大分県** おおいた障がい者芸術文化支援センター
- 44** **宮崎県** 宮崎県障がい者芸術文化支援センター
- 45** **鹿児島県** 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター
(KADAC/カダック)
- 46** **沖縄県** 沖縄県障害者芸術文化活動支援センター (ricca/リッカ)

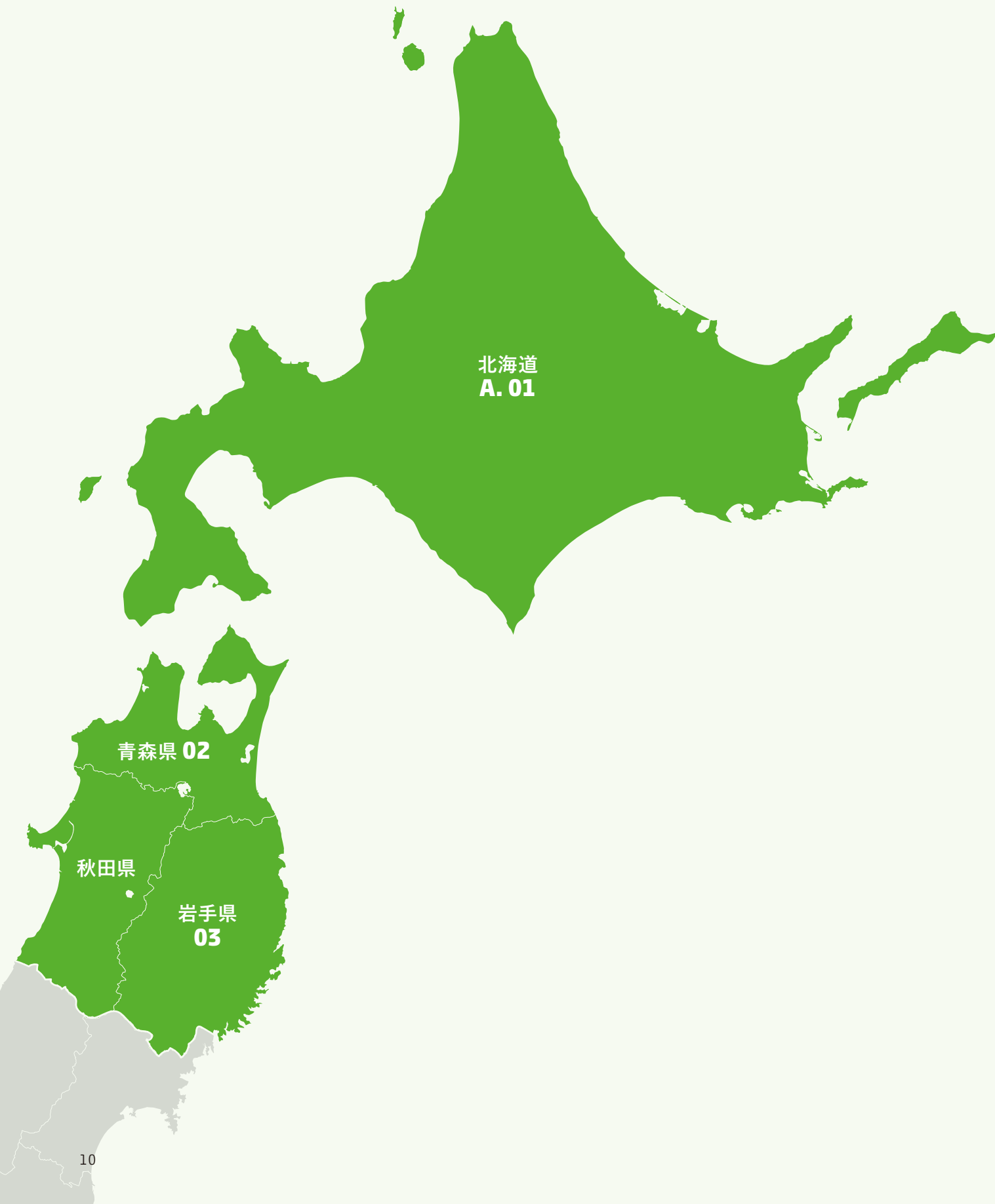


支援センター・広域センターの 取り組み

北海道・北東北ブロック

A アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

広域センター運営団体：社会福祉法人ゆうゆう



北海道

担当課：保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

01 福祉とアーツ北海道

支援センター運営団体：社会福祉法人ゆうゆう

青森県

担当課：健康医療福祉部障がい福祉課

02 青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

支援センター運営団体：社会福祉法人あーど

岩手県

担当課：文化スポーツ部文化振興課

03 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

支援センター運営団体：社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

秋田県

担当課：健康福祉部障害福祉課調整・障害福祉チーム

| ブロック内の状況

北海道・北東北ブロック広域センター：アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

広域センターと青森県は2017（平成29）年度より、岩手県は2018（平成30）年度より同じ団体が継続的に実施しており、安定した連携関係の下、各センターの悩みや弱点、要望等を把握し、それぞれの課題を踏まえたきめ細かい事業展開を行ってきた。2024（令和6）年度は長らく待たれていた北海道に設置され、ブロック内の支援センターは1道2県となった。残る秋田県では、2024（令和6）年度に「秋田県障害者芸術文化活動支援センターの設置

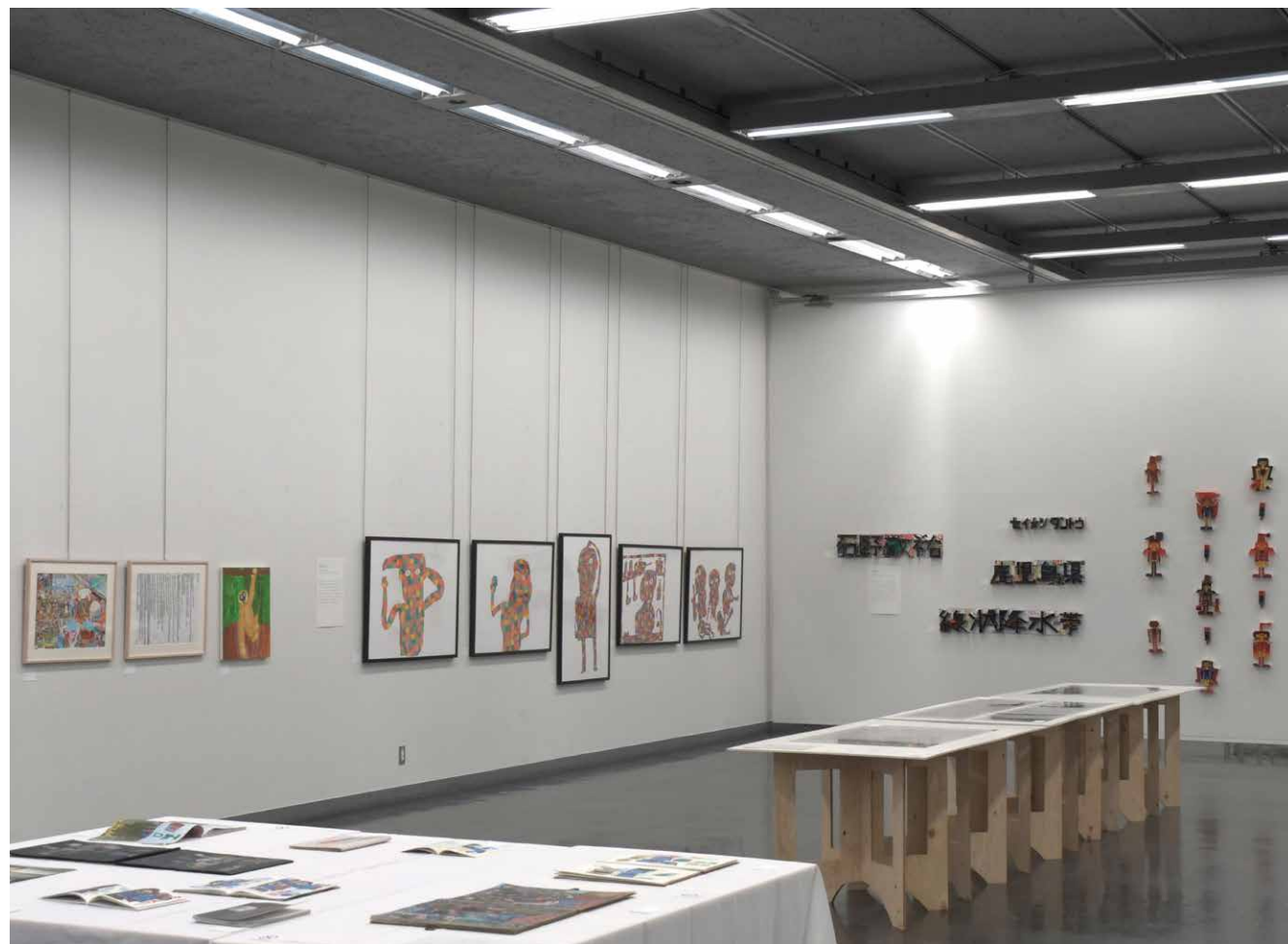
に向けた検討会」を設置し、県内の福祉団体や有識者による協議を経て、2025（令和7）年度の支援センター設置が決定した。
また当ブロック全体の取り組みとして、前年度に続き視察研修を実施した。今年度は他ブロックのセンターを訪問することで、参加者にとって当ブロック内にはない事例や取り組みを学び知見を広げる機会となった。

アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18 社会福祉法人ゆうゆう内
TEL: 0133-22-2896 FAX: 0133-23-0811
E-mail: gently@yu-yu.or.jp URL: http://gently-artbrut.com/



Pick Up! グッとくるー日本のアール・ブリュットー



「グッとくるー日本のアール・ブリュットー」会場風景

ねらい 北海道は日本の最北に位置していることもあり、日本中の優れたアール・ブリュット作家の作品を見られる機会は多くない。今年度から立ち上がった北海道の支援センター「福祉とアーツ北海道」のスタートアップ支援として、センターの発信を高めるために「グッとくるー

内容 北海道支援センター主催の「北海道障がい者のアート展」と同時開催で、高い創造力を持ち国内外で注目されている全国の障害のある作家たち12名の展覧会を開催した。北は北海道から南は鹿児島まで、幅広い地域からふだん北海道では見ることのできない作品を集め展示。いずれも身近にある素材を使って力強く表現さ

日本のアール・ブリュットー」展を開催した。北海道において当事者が作品を鑑賞する機会を広げ、また多くの人に障害者の質の高い作品に触れてもらうことで、障害者の芸術文化活動への関心を高め、その普及や理解を促進することを目指した。

れており、写真では伝わらないスケール感や表現の繊細さを体感し、自由な表現を楽しめる展覧会を提供した。話題性が高まり多数の来場者を得ると同時に、「障害者のアートに対する意識が変わった」という声も多く寄せられ、障害者の芸術文化活動への理解の促進に大きく貢献した。

今年度の課題と目標

2024（令和6）年度は、北海道に支援センターがようやく設置され、未設置の秋田県も2025（令和7）年度設置に向けて設置検討委員会を開催し、当事者団体らとともにセンターのめざす姿を協議することになっている。後発の2団体が順調にスタートできるよう、すでに稼働している2団体とも連携しながらブロック全体で取り組みを高め

ていく。
これに向けて2024（令和6）年度は他ブロックの視察およびサポートブックの読み合わせを計画した。センター同士が互いの事業について話し合うことで、それぞれが抱える課題解決と、今後めざすビジョンの検討に役立ててもらう。

今年度の成果と展望

北海道支援センターのスタートアップ支援の一つとして、センター設置の発信を高めるために、障害者の魅力ある作品を全国から集めた「グッとくるー日本のアール・ブリュットー」展を福祉とアーツ北海道主催の公募展と同時開催した。これにより話題性を高め、多くの来場者にセンターをアピールすることに成功した。

ブロック関係者に向けた取り組みとして、2年目となる視察研修では、南東北・北関東ブロックの福島県支援センター「はじまりの美術館」を訪問し、他県センターの取り組みを通じて知見を広げることができた。秋田県に対しては視察研修や検討委員会のフォローアップを行い、2025（令和7）年度の支援センター設置が決定した。



左／ブロック視察研修の様子（はじまりの美術館でのレクチャー）
右／地域生活サポートセンターパッソ（社会福祉法人安積愛育園）での視察研修の様子



実施一覧

●各支援センターに対する支援 [4/1～3/31] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [ブロック研修① サポートブック勉強会（オンライン）7/10 ブロック研修② 合理的配慮・情報保障勉強会（オンライン）7/19 ブロック研修③ 研修会の作り方（オンライン）9/25] [ブロック視察研修 福島・はじまりの美術館、8/8] ●参加する機会の確保 [「グッとくるー日本のアール・ブリュットー」11/21～11/24] [アール・ブリュットショウケース2024 オンライン「舞台上がれ!」2/5]

広域センター運営団体 社会福祉法人ゆうゆう

「ひとりの想いを文化にする」をビジョンに「福祉を福祉で完結しない」「ないものはつくる」という想いに立ち、地域のあらゆる人たちの暮らしを創造していくことをめざした福祉実践を展開している。

福祉とアーツ北海道

〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18 社会福祉法人ゆうゆう内
TEL：0133-22-2896 FAX：0133-23-0811
E-mail：arts@yu-yu.or.jp URL：https://fukushitoarts.com



Pick Up! 支援者研修「はじめのいっぽ」



支援者研修「はじめのいっぽ つくる!ワークショップ」の様子

ねらい 北海道ではこれまで、支援者が創作について学ぶことができる研修が少なく、研修を希望する声が多くあり、そのようなニーズに応えるため、支援者研修を開催した。主な対象を、芸術表現活動に関心があるが、なかなか取り組むことができずにいる支援者等とした。研修に参加することで、基本的な知識だけでなく、それま

内容 創作活動をどのように進めたらいいかわからないという声に応え、支援者を対象に「はじめのいっぽ」を体験できる研修として美術「つくる!ワークショップ」と音楽「かなでる!ワークショップ」を開催した。「つくる!」では、基本的な知識として、安価なものから高価なものまで、さまざまな画材を実際に体験し、また、参加者が持参した

で経験したことのなかったさまざまな支援の方法や関わり方を知り、取り組みへのハードルを下げることで障害のある人の芸術文化活動の広がりを期待する。また、参加者同士が交流し、互いにつながることで関係者のネットワークの広がりを促し、障害のある人の芸術表現活動のさらなる活性化につなげたい。

障害当事者の作品の紹介や、悩みを相談する場も設けた。「かなでる!」では、一般的な音楽理論を忘れて自由に音で表現することや、視線を合わせたり音で応答したりするような言葉を介さないコミュニケーションの方法や関わり方を学んだ。どの参加者も熱心に取り組み、質疑応答にも積極的に、満足度の高い研修となった。

今年度の課題と目標

設置初年度となる北海道の支援センターとして、障害者の活動や取り組みが持つ意義および価値を地域社会に伝えるため、道内全体の取り組みを発信する拠点としての大きな役割を期待されている。そのため、支援の体制と環境の整備を行い、支援センターの活動について周知を図る。

今年度の成果と展望

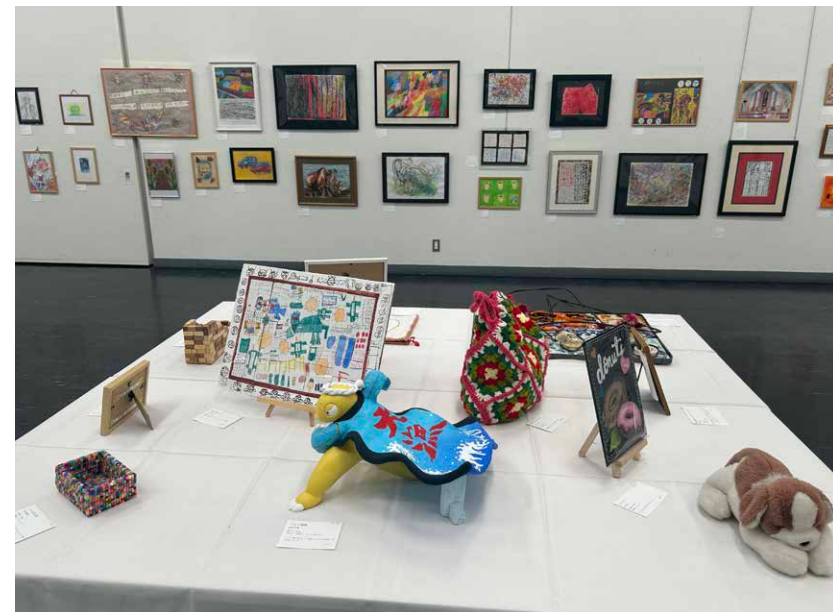
計画していた事業をバランスよく実施し、当事者や支援者のニーズに応えるとともに、支援センターについて周知することができた。また、広域センターから引き継いだ事業やノウハウなどがあったためスムーズに事業を行うことができ、「北海道障がい者のアート展」等では、相談支援の利用から参加につなげることができた。一方、

また、北海道はこれまで支援センターが未設置であったことから、特に支援者に向けての研修が実施できていなかった。地域における支援者の人材育成を行うことで、当事者の学ぶ環境の整備や芸術文化活動の広がりを期待する。

支援者の人材育成に対するニーズが高く、定員を超える申込があったことや、発表の機会への参加しやすさの工夫といった次の課題も見えてきた。次年度では、今年度の事業へ参加した当事者や支援者とのつながりの展開を考えながら、さまざまな活動を支えるサポートを発展的に継続していく。



左／「ゴーオンステージVol.1」での記念撮影
右／「北海道障がい者のアート展～みんなのイメージネーション～」展示風景



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] [北海道教育大岩見沢校授業「シアターマネジメント」5/13～7/14 (合計4回)] ●人材育成 [北海道の福祉とアートシリーズ、5/8～3/7 (合計6回)] [支援者研修はじめのいっぽ つくる!ワークショップ、9/29 かなでる!ワークショップ、9/29] [誰でも利用しやすい函館美術館についての意見交換会、3/11～3/12] ●関係者のネットワークづくり [福祉とアーツ北海道フォーラム、11/23] ●参加する機会の確保 [北海道障がい者のアート展～みんなのイメージネーション～、11/21～11/24] [ゴーオンステージvol.1、2/11] ●情報収集・発

信 [事例報告 多様な障がい者を受け入れるためのプロジェクト設計、3/6]

支援センター運営団体 社会福祉法人ゆうゆう

「ひとりの想いを文化にする」をビジョンに「福祉を福祉で完結しない」「ないものはつくる」という想いに立ち、地域のあらゆる人たちの暮らしを創造していくことをめざした福祉実践を展開している。

青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

〒037-0017 青森県五所川原市漆川字鍋懸 147-2

TEL：0173-26-1021 FAX：0173-26-1021

E-mail：aasc@aorld.com URL：https://aorld.jp/aasc



Pick Up! 企画展「ココロでみる景色」、ワークショップ「ココロでつくる景色」



「ココロでみる景色」展示会場

ねらい 2023（令和5）年度に開始した作品保管サービスとあわせて、それらの作品を活用して地域活動を行うことにより、障害がある方の社会参加の機会拡大を図る。同時に、障害の有無にかかわらず、あらゆる地域住民が共

内容 企画展では、障害がある方の作品と地域のアーティストの作品を展示した。ワークショップでは、地域の視覚障害者福祉会の方々を含む参加者を対象に、造形を楽しむワークショップを実施した。津軽金山焼の粘土

に時間と空間を楽しめる垣根のない場を創出する。また、ギャラリー開設を広く周知すると同時に、障害者の創作活動が地域活性化や共生社会の推進に寄与する可能性について啓発を行う。

でそれぞれが思い思いにイメージした形状のオブジェを制作。焼物体験の後は、併設カフェでのピザづくり体験も実施した。

今年度の課題と目標

昨年度は、青森県立美術館等から過去に公募展へ応募した作品への出展依頼があった。しかし既に廃棄された作品も多く、作品保管サービスの充実が今後の課題である。また、センターを訪れる方々に紹介するため、専用展示場で作品展示を行ったが、今後は一般に公開する

今年度の成果と展望

今年度は、作品発表の機会となる公募展「ありのままの表現展2024」と、コミュニティギャラリー開設を記念した企画展「ココロでみる景色」、ワークショップ「ココロでつくる景色」を軸に事業を進めた。今後の企画展・ワークショップでは、障害の有無にとられない内容を追求していく。次年度は県内での巡回展も予定。「ありのままの表現展」では過去最多の307点の応募があった。今

機会を増やしていくことが求められる。今年度は作品収集において目標数を決めて交渉を増やしていき、データ管理の設備を整える。また、専用展示場の一般公開を実施する。

後は個人作家への周知を広める取り組みも考えていく。作品保管サービスにおいては提供規模拡大のため、専用保管場所の設置、データ整理を行った（現在の保管サービス利用点数は寄託66点、寄贈1点）。今後、保管場所のさらなる拡大が見込まれる。人材育成では視察研修への参加やワークショップを実施し、職員の体験機会を設けた。次年度は講師を招いての研修会を実施予定である。



左／「ありのままの表現展」展示会場Aの様子

右／「ありのままの表現展」展示会場Bの様子



実施一覧

●相談支援〔相談窓口、4/1～3/31（合計18回）〕●人材育成〔ワークショップ「ココロでつくる景色」11/2〕●参加する機会の確保〔企画展「ココロでみる景色」11/2～11/10〕〔ありのままの表現展2024、2/6～2/13〕●情報収集・発信〔作品保管及びデータ管理、4/1～3/31〕

支援センター運営団体
社会福祉法人あーんど

2017（平成29）年度より障害者芸術文化活動普及支援事業を受託し、青森県五所川原市に設置された青森アール・ブリュットサポートセンターを拠点に、県内の障害者による創作活動の支援を行っている。主な事業内容として、相談支援、県内の作品を集めた展覧会の開催、創作や権利保護等に関するセミナーの開催等を行いながら、県内の芸術文化活動の活性化をめざした事業を実施している。

岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

〒020-0114 岩手県盛岡市高松3-7-33

TEL: 019-656-7081 FAX: 019-681-2514

E-mail: kadarto@iwate-fukushi.or.jp URL: https://www.instagram.com/kada_rto



Pick Up! 第32回岩手県障がい者文化芸術祭



「ふれあい音楽祭2024」の様子

ねらい 作品および発表を希望する全ての個人・団体のための発表の場をつくることをねらいとした。

応募・参加いただく方々の活動意欲を今後もつないでい

内容 ①「応募作品展」：県内の障害のある人の、日頃の文化芸術活動の成果を発表する機会として、障害のある個人、団体等を対象に実施した公募展である。絵画、書道、写真、工芸、文芸の5部門で開催し、応募総数は342点（絵画120、書道21、写真17、工芸169、文芸15）となった。
②「記念式典（応募作品展表彰式）」：応募作品展入賞者（最優秀賞、優秀賞、特別賞、佳作、努力賞）へ賞状を授与した。
③「ふれあい音楽祭2024」：障害の有無にかかわらず、

くことができるよう、応募作品全てを展示すること、音楽祭への参加を希望する全ての個人・団体の発表の場を設ける。

県内で舞台芸術に関する活動を行っている個人または団体による、歌、楽器演奏、ダンス等を発表していただいた。応募団体は18団体、観覧者数は76名となった。遠方により参加が難しい方や、重い障害のため会場でのパフォーマンスが難しい方には、動画（合唱、楽器演奏、ダンスなどのパフォーマンスを撮影したもの）で発表いただくステージを用意した。

今年度の課題と目標

岩手県では、障害のある人の芸術作品の商品化や、作品の二次利用等に関する相談が増加傾向にある。作家や作品の尊厳を守るため、権利保護の理解を深める研修会を引き続き開催する必要があると考えられる。権利保護に関連する相談内容は、個別性が高く複雑な事案もあるため、法律分野の専門家の助言等を受けながら、

今年度の成果と展望

各種研修会やワークショップの受講者数は、多方面からの広報（協力委員や県の担当課と連携等）や気軽に参加しやすくなるような研修名へタイトルの変更を行い、昨年度を上回る受講者数となった。相談件数が年々増えており、障害者の創作・表現活動への関心や、当センターの認知度が少しずつ高くなってきているものと捉えている。

丁寧に対応することが重要である。

また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各種研修会やワークショップの受講者数が減少している現状を踏まえ、広報活動の強化や、施設・事業所等の繁忙期を避けた開催スケジュールの見直し等を行う。

今年度から新たに実施した「出向いて行く相談」では、初年度ということもあり、進め方等で課題はあったが、相談者の抱える悩みや相談事に対し、丁寧に対応することができた。著作権や権利保護等に関する相談の増加が今後も見込まれるため、外部アドバイザーと連携しながら対応していく。



左／創作活動支援の「ものさし」を作るワークの様子
右／カードゲーム「知財でポン!」の体験



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [出向いて行く相談・専門的知見によるアドバイスの実施について、1/9～2/7・1/27～2/27（合計3回）] ●人材育成 [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～しる・つながる・ひろげる～、8/5] [創作活動に関する権利保護研修会、9/5] [障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス、10/24～2/27（合計4回）] [ワークショップ 教えて!板垣さん!、2/21] [やってみっぺ!障害のある人のアート支援、2/21] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会] ●参加する機会の確保 [第32回岩手県障がい者文化芸術祭応募作品展、11/14～12/1 同展 記念式典（応募作品展表彰式）11/24] [第32回岩手県障がい者文化芸術祭ふれあい音楽祭

2024、11/30] ●情報収集・発信 [作家及び作品や取組事例の調査について、7/24・3/4]

支援センター運営団体

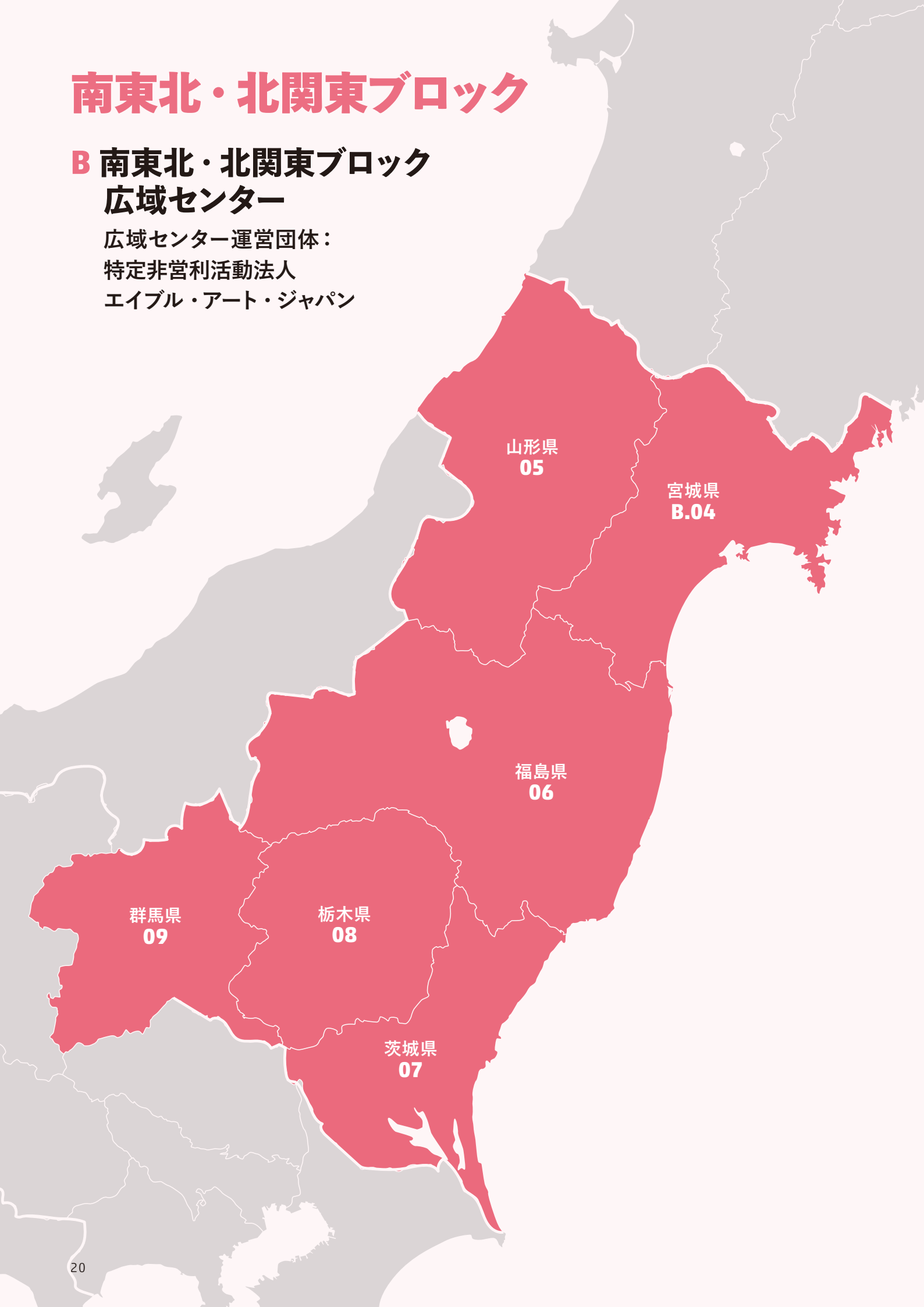
社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、またはその有する能力に応じ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に設立された。2018（平成30）年に「岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあると」を開設した。

南東北・北関東ブロック

B 南東北・北関東ブロック 広域センター

広域センター運営団体：
特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン



宮城県

担当課：健康福祉部障害福祉課企画推進班

04 障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）

支援センター運営団体：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局

山形県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

05 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

支援センター運営団体：社会福祉法人愛泉会ぎやらりーら・ら・ら

福島県

担当課：保健福祉部障がい福祉課

06 はじまりの美術館

支援センター運営団体：社会福祉法人安積愛育園

茨城県

担当課：福祉部障害福祉課

07 茨城県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：茨城県福祉部障害福祉課

栃木県

担当課：保健福祉部障害福祉課

08 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

群馬県

担当課：健康福祉部福祉局障害政策課社会参加推進係、地域創生部文化振興課文化企画係

09 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん

支援センター運営団体：特定非営利活動法人工房あかね

ブロック内の状況

南東北・北関東ブロック広域センター：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

南東北・北関東ブロックは、6県全てに支援センターが設置されている。各県の支援センターの設置年は、宮城県（2014[平成26]年～）・栃木県（2017[平成29]年～）・福島県（2019[平成31]年～）・山形県（2020[令和2]年～）・群馬県（2023[令和5]年～）・茨城県（2023[令和5]年～）である。事業予算は大きく開きがあり、担当する職員の職歴は1～7年である。広域センターは2021（令和3）年度に設置、当法人が担当している。センターの稼働年数、予算、経験値が多様化しているため、研修の設計を工夫して

いる。具体的には、各支援センターに共通する課題はブロック研修で対応し、固有の課題は広域センターが個別の伴走支援を行うとともに、支援センター担当者による実践研修「出稽古」を実施している。また、2年目となる茨城県支援センター（行政直営・新規担当者）に重点を置いて伴走支援を行った。具体的には、機運醸成のためのシンポジウム等の開催、2025（令和7）年度から一部の事業を民間委託するための相談支援を実施した。

南東北・北関東ブロック広域センター

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉4-1-50 1階

TEL: 070-5328-4208 FAX: 022-774-1576

E-mail: soup@ableart.org URL: https://soup.ableart.org/



Pick Up! シンポジウム「いまここで起きている」 & ワークショップ「ブリコラージュあつまってつくる」



シンポジウム「いまここで起きている」の様子（水戸市民会館）



ワークショップ「ブリコラージュあつまってつくる」の様子（水戸芸術会館）

ねらい 茨城県支援センターは、2023（令和5）年に設置され行政が直接運営している。予算規模や経験値に課題があったため、2024（令和6）年度も引き続き広域センターが事業を企画し伴走した。シンポジウム&ワークショップ、茨城県自閉症協会50周年記念事業の展覧会を同時期開催とし、2年目となる支援センターの認知向上とネットワーク形成を図る。

内容 ①シンポジウム「いまここで起きている」（公開型）：事例報告およびディスカッションを行った（参加者78名、講師：ブロック内各県支援センター担当者、茨城県実践者）。②ワークショップ「ブリコラージュあつまってつくる」（公開型）：障害のある人や関係者、関心のある人々が出会い交流できる場として、ワークショップを企画・運営した

今年度の課題と目標

①支援センター担当者が「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」を把握し、活動の弱点領域を自覚化しそれに取り組めるようにする。例として、評価・相談支援・著作権・文化施設や教育行政との連携等がある。②支援センターと自治体担当者が「協働型評価」を通じて連携を強化し、活動の弱点領域

①シンポジウムでは、茨城県支援センターのあるべき機能や未来像を具体的に共有し、活発に意見交換する。②ワークショップには障害のある人等が参加し、コロナ禍後の交流の場とする。③研修では、先進的な複合文化施設である水戸芸術館にサポートを依頼し、支援センター担当者を対象として鑑賞・アクセス支援に関する知見を共有する。

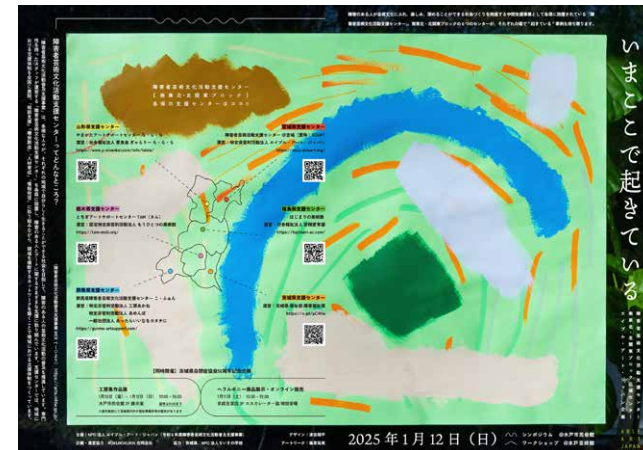
（参加者65名、ファシリテータ：BOB ho-ho）。

③研修（非公開）：音楽・演劇・美術の複合文化施設のツアーおよび講義・意見交換を通じて、文化施設側の理念・機能・事業・アクセスプログラムに関する現状と成果・課題に触れた（参加者19名、講師：水戸芸術館職員〔現代美術監督・音楽課・総務課、教育普及〕）。

に対する具体的な計画や指標を立てて取り組み、振り返りによって定量・定質的に評価できるようになる。③支援センター間のコミュニケーションを円滑にし、互いの知恵や課題を分かち合う機会をつくる。これらにより、支援センターとして必要な技術を蓄え、障害のある人たちが芸術文化活動に参加することができる環境をつくる。

今年度の成果と展望

①ブロック会議と研修（5回）、なんでも相談会（2回）、実践研究「出稽古」（5件）を実施し、支援センター担当者と自治体担当者らが積極的に参加し学びを得た。②研修の協働型評価（2回）では、広域センターから地域ごとの重点項目を提示し、年度当初にそれを補うための計画と指標をつくり、年度末に評価を行った。体得度にばらつきがあるが、協働型評価の意味と価値を知ってもらう



シンポジウム&ワークショップのチラシ

実施一覧

●各支援センターに対する支援〔キックオフ会議（オンライン）6/13〕〔群馬県支援センターへの支援 茨城県支援センターへの支援 福島県支援センターへの支援 山形県支援センターへの支援、6/13～3/31 ※群馬県支援センターへの支援のみオンライン〕〔なんでも相談会（オンライン）7/16・10/15〕〔第1回会議（各支援センターの近況の情報共有、意見交換）8/6 第2回会議、9/9 第3回会議、1/13 第4回会議、3/3 第5回会議、3/26 ※全てオンライン〕●芸術文化活動に関するブロック研修〔第1回研修「自治体と支援センターと協働で評価目標をつくろう!」（オンライン）8/6 第2回研修「あなたはどうか対応する？相談支援のケーススタディ検証会」（オンライン）9/9 第3回研修①シンポジウム「いまここで起きている」（公開型）1/12 第3回研修②「文化施設におけるアクセシビリティを考える」1/13 第4回研修「自治体と支援センターと協働で評価目標をつくろう!」（オンライン）3/3 第5回研修「障害のある人と著作権」（オンライン）3/26〕〔福島県支援センター（出稽古先：群馬県）10/28～10/29 栃木県支援センター（出稽古先：宮城県）11/11～11/13 実践研究「出稽古」山形県支援センター（出稽古先：栃木県）11/20～3/19（合計3回） 群馬県支援センター（出稽古先：宮城県）11/13～11/14 宮城県支援センター（出稽古先：山形県）12/17～

ことができた。③実践研究「出稽古」の発表会を通じて支援センターの存在を社会的に発信し、かつ茨城県の機運醸成を図るためにシンポジウム等を行った。これらにより支援センター担当者らは、第2期計画に沿った総合的な環境整備に取り組むことができる視点やマネジメントスキルを醸成しつつある。



第3回研修「文化施設におけるアクセシビリティを考える」の様子（水戸芸術館）

12/19〕●参加する機会の確保〔ワークショップ「ブリコラージュあつまってつくる」1/12（合計2回）〕●自治体における基本計画策定の推進〔茨城県との情報交換（オンライン）11/7〕●その他〔相談支援業務（宮城県・全国含む）4/1～3/31（合計789回）〕〔第1回広域センターミーティング、5/14 第2回、9/25 第3回、1/22 ※全てオンライン〕〔全国連絡会議における報告（オンライン）3/13〕

広域センター運営団体

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

アートを通じてすべての人が幸せに生きることのできる社会の実現をめざして、1994（平成6）年に誕生した。Empowerment可能性を広げる、Createつくりだす、Networkつなぐ、つながる、Access参加する、Advocacy支援する、これら5つの活動の視点を軸に、主な活動として、障害のある人の芸術文化活動にかかわる相談支援、人材育成・啓発事業、エイブルアート・カンパニー（著作権マネジメント事業）、創作活動の機会の提供（アトリエ・スタジオ事業）、作家の発掘や作品の発表機会の創出、鑑賞支援事業（美術と手話プロジェクト／ミュージアム・アクセス・センターモデル普及事業）などがある。

障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉4-1-50 1階

TEL：070-5328-4208 FAX：022-774-1576

E-mail：soup@ableart.org URL：http://soup.ableart.org/



Pick Up! 相談から生まれた活動の伴走型支援



あいの実デザインプロジェクトワークショップの様子（社会福祉法人あいの実ストロベリー）



あいの実デザインプロジェクト成果展示（せんだいメディアテーク）
展示構成・協力：大江よう（TEXT） 撮影：三浦晴子

ねらい 相談窓口には日々、さまざまな個人・団体からあらゆる相談が寄せられる。相談件数はここ数年で160～170件を推移しているが、対応回数は年々増えて800回近くになった。相談内容からニーズや課題の把握ができ、相談支援は事業の大事な柱の一つとなっている。

内容 医療的ケア児者の福祉サービス事業を担う社会福祉法人あいの実から、アート活動についての相談が寄せられたことをきっかけに、支援センターとしてまだ支援ができていなかった医療的ケア児者とのアート活動に伴走した。活動の資金獲得のための助成金申請をサポートし、地域のデザイナーと協働してデザインプロジェクトを立ち上げた。テキスタイルデザイナーの大江よう氏を

多様化する相談に対し、今年度は特にこれまで支援センターがアプローチできていなかった個人・団体からの相談や、初めて問い合わせのあった相談者に対し、必要に応じて伴走支援を行い、これまで支援の届いていなかった人たちとの活動に注力することを意識した。

ファシリテータに、医療的ケアを必要とする方が、自ら作業に関わった実感を得られるプロセスを重視したプロダクトの制作を試行するワークショップを実施。また、その成果を「障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」で展示発表した。特徴的な什器と展示方法で、初めて医療的ケア児者の活動に触れたという声もあった。

今年度の課題と目標

①相談支援：初めて相談のあった個人・団体に対して、丁寧な聞き取りと必要に応じて伴走支援を行う。②人材育成：多様なジャンルや活動の幅を意識して研修のテーマを設定する。③関係者のネットワークづくり：支援や活動の調査ができていない空白地域の解消に取り組む。生涯学習事業の参加者等に本事業について周知する。

協力委員会を開催し、官民の福祉・文化・教育分野との連携の機会をつくる。④参加の機会の確保：県や市が主催の共生社会推進や社会包摂に関わる事業と連携し、障害のある人の参画に協力する。⑤情報収集・発信：県内で行われる関連するイベント情報について、SNSを通じて積極的に広報協力を行う。

今年度の成果と展望

①相談支援：件数はのべ165件（前年度比93%）、対応回数は789回（前年度比141%）。医療的ケア児者の支援をする社会福祉法人の相談からプロジェクトの伴走に発展した。②人材育成：関わりの少なかった「きょうだい児」の参加があった。美術・造形表現だけでなく、ダンスや演劇、企画、記録活動など、多様な表現を共有し合う研修会を開催した。③関係者のネットワークづくり：生涯学



宮城県令和6年度障害者アート作品を通じた相互理解促進業務、展覧会関連イベント（仙台パルコ本館）

実施一覧

●相談支援 [相談支援業務、4/1～3/31（合計789回）] ●人材育成 【企画協力】障害当事者とのアクセシビリティ調査（宮城県文化振興財団）8/8 [SOUPの研修2024第1回「他者の『よくわからない』行為や出来事を捉え直す、そのわからなさを楽しむ方法を考える」（オンライン）11/1 第2回「障害のある人のアートの活用事例と著作権について学ぼう」2/26 第3回「表現する人集合！活動内容とその意義をシェアしよう」（オンライン）3/27] [仙台・宮城ミュージアムアライアンス研修会第1回「ミュージアムにおける『合理的配慮』を考える」11/6] 【企画協力】社会包摂研修（アウトリーチ担い手育成事業）（宮城県文化振興財団）12/16] 【企画協力】仙台・宮城ミュージアムアライアンス研修会第2回「仙台市博物館で『DEAI』をともに考える」2/12] ●関係者のネットワークづくり [仙台市・生涯学習を通じた共生社会推進事業障害者の生涯学習事業コンソーシアム委員および事業実施、7/3～2/13（合計12回）] [宮城県教育委員会「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」連携コンソーシアム委員、7/9～2/12（合計4回）] 【企画協力】みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会「芸術銀河2024」「写奏（うつしかなみ）カメラワークショップ」7/8～3/4] 【企画協力】仙台市市民文化事業団「リラックス・パフォーマンス」8/25 [令和6年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務協力委員会、10/28] ●参加する機会の確保 【協力】宮城県令

習事業との連携が進み、生涯学習プログラムの参加者が芸術文化活動へ参加する動きが生まれた。④参加する機会の確保：作品の展示数が限られた県主催の公募展から作家を選定し、「見本市」で大々的に紹介した。⑤情報収集・発信：facebookとInstagramでのべ80回の広報協力を行った。



SOUPの研修2024第3回「表現する人集合！活動内容やその意義をシェアしよう」（オンライン）の様子

和6年度障害者アート作品を通じた相互理解促進業務における中間支援、4/1～3/31] [障害のある人の発表・鑑賞・二次利用・商品販売等の支援、4/1～3/31（合計21回）] [第7回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市「きいて、みて、して、見本市。」1/31～2/5] 【企画協力】仙台市市民文化事業団第4回パフォーマンスフェスティバル「どなたでもどうぞ！おながたいけんコンサート」3/8]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン
東北事務局

アートを通じてすべての人が幸せに生きることのできる社会の実現をめざして、1994（平成6）年に誕生した。Empowerment可能性を広げる、Createつくりだす、Networkつなぐ、つながる、Access参加する、Advocacy支援する、これら5つの活動の視点を軸に、主な活動として、障害のある人の芸術文化活動にかかわる相談支援、人材育成・啓発事業、エイブルアート・カンパニー（著作権マネジメント事業）、創作活動の機会の提供（アトリエ・スタジオ事業）、作家の発掘や作品の発表機会の創出、鑑賞支援事業（美術と手話プロジェクト／ミュージアム・アクセス・センターモデル普及事業）などがある。

やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

〒990-0033 山形県山形市諏訪町一丁目2番7号

TEL：023-674-8628 FAX：023-664-2118

E-mail：g.lalala@y-aisenkai.or.jp URL：https://www.y-aisenkai.com/info/lalala/



Pick Up! 「世界のまじわりとひろがり／第一部見える世界と見えない世界のまじわり」



「世界のまじわりとひろがり展」でのワークショップで、盲学校の児童生徒と美術大学の学生たちがペアになり、さまざまな素材を手で触れて創作する様子

ねらい 2022（令和4）年より2年間、当センターのアーティスト派遣事業により、山形県立山形盲学校小学部の児童生徒と、東北芸術工科大学総合美術コースの学生が交流し、互いに影響し合い、創作活動を行う場を継続している。今回は、ワークショップを通して両者が対話しながらギャラリーの壁に創作を行い、展示発表する機会をつくる。アートを介して対話を深めながらお互いの世

内容 山形県立山形盲学校、東北芸術工科大学総合美術コースとの協働事業として、展示のためのワークショップを2回実施した。「『ら・ら・ら』な世界をひろげよう」と題して、盲学校の児童生徒と美術大学の学生たちがペアになり、さまざまな素材を手で触れて感じ想像しながら、好きな形や物語をギャラリーの壁面に表現。一人ひとりの思考の痕跡が、壁面にいきいきとしたリズ

| 今年度の課題と目標

課題としては、障害のある方が表現活動を行うことができる場や専門的な人材の不足、芸術文化を楽しむための支援が十分ではなく、文化的な生活を送るための選択肢が少ないことが昨年度から継続して挙げられる。美術大学を中心に芸術文化事業が増え、それらに関わる人材が県内各地域に分散してきているが、福祉に関わる人材はまだまだ少ない。福祉事業所、文化芸術施設、教育、企業、アーティスト、デザイナー等が連携するため

界が出会い、広がっていくことの楽しさを表現したい。そして、アートは特別なものではなく、対話を通して表現し、想いをシェアする機会にもなるということを実践したい。また、作品や制作過程を発表したり、鑑賞者も展覧会に参加できる機会をつくることで、五感を使い表現する経験からアートが持つ可能性の一つを感じてもらう。

ムを生み出した。参加者：山形県立山形盲学校小学部5名・中学部4名、東北芸術工科大学総合美術コース8名、ワークショップ企画・展示ディレクション：石沢恵理氏（東北芸術工科大学専任講師、ワークショップデザイナー）。その後、「ぎやらりーら・ら・ら」で展示発表を実施。制作過程の動画を流し取り組みを発信し、さまざまな素材を壁や窓に貼る体験コーナーを設置した。

の中間支援機能が必要である。

目標は、文化芸術、産業、教育等の他分野との連携を行い、人材育成に力を入れ表現活動に寄り添う人材を育てること（継続3年目）、また、鑑賞支援について県内の芸術文化や行政関係者が学ぶ機会をつくり、さまざまな障害のある方の利用しやすさを考えること、ネットワークをつくることをめざした。

| 今年度の成果と展望

2年目となるアーティスト派遣事業では、継続できる取り組みとなることをめざし職員研修や活動支援を行った。その結果、参加団体とアーティストの関係性が構築され、2023（令和5）年度実施の4団体が独自事業として継続。2024（令和6）年度は新規5団体が県内3地域で実施し、各地域においてのモデルケースとなり活動が広がる可能性につながった。また、福祉以外の分野との連携（芸術文化、産業）による研修会を年間2回実施し、参加者の幅



左／展覧会の来場者が体験コーナーで創作を楽しんでいる様子
右／「山形県の文化施設におけるアクセシビリティ向上を考える」研修会の様子



実施一覧

●**相談支援** [相談支援、4/1～3/31] [おめでとう&相談day、11/4～11/12(合計6回)] ●**人材育成** [県内3地域での展覧会のための作品相談会（協力、共催）5/10～10/21(合計7回)] [アトリエら・ら・ら、6/1～3/31(合計4回)] [山形ビエンナーレ2024 まちのおくゆき ～ことばとからだの温泉ダンスワークショップ～（協力）6/2～9/6（合計7回）] [公募展事前相談会きざしをみつけるまなざし、7/26] [美術大学生の社会教育における実践実習、7/31～11/13(合計7回)] [アーティスト派遣事業「まなび舎ら・ら・ら-アート×福祉が出合う場づくり-」10/22～3/25(合計22回)] 「山形県の文化施設におけるアクセシビリティ向上を考える、12/19」[まなび舎ら・ら・ら×こうふくでミーティング vol.6 コラボ企画「Good Job!をつくるには？」3/5] ●**関係者のネットワークづくり** [アドバイザー会議（オンライン）、7/31・3/24] [やまがたアートサポートネットワーク会議、3/20] ●**参加する機会の確保** [世界のまじわりとひろがり／第一部見える世界と見えない世界のまじわり／第二部人とアートとテクノロジーのまじわり、7/29～10/13] [山形ビエンナーレ2024 ひとひのバレード～茂吉

が広がった。特に鑑賞支援研修会では、県内2地域の学芸員、博物館・図書館担当者、県行政4課（福祉、文化芸術、教育、企画調整）の参加があり、県内の各方面に取り組みを広げるネットワークができた。これらの活動を通して各地域のエンパワーメントが高まり、地域社会における多様性の理解を深め、互いを尊重し合える包容力のある地域づくりをめざしていく。

と空と女将のうた～、9/7・9/8] [いいいろいろ展、9/20～9/29] [つるおかひょうげんの花（県公募展入賞作品、企画展巡回）10/5～10/14] [きざしとまなざし公募展・企画展2024、10/31～11/13] [米沢わたしとあなたの表現展（県公募展入賞作品巡回、企画展巡回）1/11～1/19] [みんなが喜ぶGoodJob!をつくるには、3/14～5/2] ●**情報収集・発信** [やまがたのきざしとまなざし企画展取材、6/1～9/30] ●**事業評価及び成果報告のとりまとめ** [アドバイザー会議の開催と、ホームページやSNSで活動報告のレポートを発信、4/1～3/31]

支援センター運営団体
社会福祉法人愛泉会 ゐやらりーら・ら・ら

障がいのある方が地域で共に生きる社会の実現に向けて事業を展開。2011（平成23）年に障がいのある方の作品を発信する場「ぎやらりーら・ら・ら」開設、2016（平成28）年から「やまがた障がい者芸術活動推進センター」、2020（令和2）年から「やまがたアートサポートセンターら・ら・ら」設置。新たな価値創造の発信を続け互いを尊重し理解し合える包容力のある地域社会創造をめざす。

はじまりの美術館

〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町4873

TEL：0242-62-3454 FAX：0242-23-8185

E-mail：otoiawase@hajimari-ac.com URL：https://hajimari-ac.com/consultation/



Pick Up! 福祉とアート出会い事業「アルテ」



福祉とアート出会い事業「アルテ」で、社会福祉法人心愛会コパンに美術作家の馬場泰さんをお呼びした表現活動の様子

ねらい「表現活動を始めてみたい」「今行っている活動をもっと充実させたい」と考えている福祉事業所に向け、アーティストとの交流の場をつくる事業「福祉とアート出会い事業『アルテ』」をスタートした。次年度以降、より広く公募のかたちが取れるように、今年度はモデル事

内容 今年度はモデル事業として2つの法人に参加していただいた。まず、現状や課題をそれぞれヒアリングし、希望に沿ったアーティストを当センターから3名ずつ推薦した。その中から選ばれたアーティストが実際に事業所に赴き、事業所の方々と創作活動を行った。社会福祉法人安積愛育園のパッソ（地域生活サポートセン

業として2法人3事業所で実施した。アーティストが福祉の現場の利用者の方やスタッフと出会うことで、福祉と表現がお互いの分野について知り、学び合い、日々の活動の中に新しい動きが生まれることをねらいとした。

ター）と、モンティ（グループホーム）には、根本裕子氏（陶芸家）が訪れ、粘土を使った造形活動をそれぞれ3回に分けて実施した。もう一つの参加法人である社会福祉法人心愛会コパンには、馬場泰氏（美術作家）が参加し、さまざまな道具を使った表現活動を4回に分けて行った。

今年度の課題と目標

昨年度も課題として挙げた作家調査と事業所訪問、そして関係者とのネットワーク構築を今年度の目標にした。事業所訪問の手段としては、昨年度、山形県支援センター「やまがたアートサポートセンターら・ら・ら」の武田氏からお話を伺い、福島県でもアーティストの事業所派遣事業を実施することをめざした。一昨年度実施した

今年度の成果と展望

昨年度、課題として挙げた協力委員会の設置について、県の担当課と検討することができた。その中で、メンバーを固定した委員会を組織するのではなく、県内でこの分野に関心のあるさまざまな方が参加できるかたちが望ましいという方向性が見えてきた。次年度以降、かたちにして

福島県内の事業所向けアンケートでは「創作活動を行ってみたいができていない」「創作活動を行ってはいけるが、さらなる充実を図りたい」という事業所が多かった。アーティスト派遣事業に取り組むことで、それらのニーズにも応えていく。

いけるように検討を進めている。また、本事業を通して関わりのあった福島県内の店舗の方が、障害のある方の表現に興味を持ってくださり、相談・実践につながった。展示や商品企画の相談から実施までできたことは、これまでの活動の積み重ねを感じられる成果となった。



左／「unico file vol.5 星 清美展ギャラリートーク」の様子

右／暮しの良品いげた 空き地商店アート企画 第1回「暮しと風」での作家との交流会の様子



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31 (合計70回)] ●人材育成 [博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会、3/4] [cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会、3/11] ●関係者のネットワークづくり [鳥取県・鳥の劇場視察研修、1/26～1/28] ●参加する機会の確保 [暮しの良品いげた 空き地商店アート企画 第1回「暮しと風」5/16～8/26 第2回「暮しとひかり」12/13～12/24] [unico file vol.5 星 清美「きりんの首はどこまでのびる?」2/8～3/23] [国見町で きになるまちなか美術館、2/15～3/16] [福祉とアート出会い事業「アルテ」3/3～3/31] ●情報収集・発信 [ホームページ、SNSなどでの情報発信、

4/1～3/31 (合計51回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [第三者との共同評価、3/31] [報告書の作成、3/31]

支援センター運営団体 社会福祉法人 安積愛育園

各ライフステージに応じた「一人ひとりが望む生活と自己実現に向けた支援」を基本理念とし、また、社会的役割に「安心して暮らせる街づくり」を掲げる。各事業所・各職域が連携を図り、利用される皆さま一人ひとりを中心としたサービスを提供し、この機能が地域の中で関係機関等と有機的なネットワークを構築していくことで皆さまの自己実現につなげていくものとする。

茨城県障害者芸術文化活動支援センター

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978-6 TEL：029-301-3357 FAX：029-301-3370

E-mail：shofuku-kikaku@pref.ibaraki.lg.jp

URL：https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/shofuku/kikaku/shofuku/8.html



Pick Up! ナイスハートふれあいフェスティバル2024



「ナイスハートふれあいフェスティバル2024」でのステージ発表のフィナーレ

ねらい 障害者が自身の文化活動について発表できる場を提供し、障害者が行う芸術文化活動について県民の理解と認識を深め、障害者の社会参加の促進を図る。

内容 障害者が自身の文化活動について発表できる場を提供し、障害者が行う芸術文化活動に対する理解と認識を深め、障害者の社会参加の促進に努めた。

障害者による音楽・ダンス・演劇等の発表や配信、活動動画等の配信、障害者の作成した作品等の展示「ナイスハート美術展」（絵画、写真、書道、陶芸・工芸の4部門）、障害者福祉施設等で作成した作品の販売を行った。総来場者数は3,178名となった。

今年度の課題と目標

障害の有無にかかわらず、全ての人が相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現が求められる一方、障害のある人に対する理解や配慮が十分でなく、結果として障害のある人の自立と社会参加が難しい現状がある。

障害者自身の生活の質を高め、潤いある生活の実現のため、障害者の文化芸術活動への参加を支援するとともに、既存の枠にとらわれない自由で豊かな表現の基につくり出された作品の展示を通じて、障害者に対する理解促進を図る。

今年度の成果と展望

研修会では、他事業所の先進的な取り組みや視覚障害のある人の芸術鑑賞を通じて、新たな視点を学び、支援者の考え方の幅を広げることができた。また、意見交換を通じて参加者同士の交流を促進し、障害者芸術文化活動を支える人材の顔の見える関係の構築のきっかけをつくることできた。

「ナイスハートフェスティバル」や巡回展の開催により、障害者が自身の文化活動を発表する場を提供し、芸術文化活動への理解促進と社会参加の推進に寄与した。現状として、作品を展示する場や才能・技術を磨く経験を積む場が限定的であることから、今後、専門家とのワークショップや個展の開催、企業との連携推進等による社会的な認知度の向上を図る。

上／「ナイスハートふれあいフェスティバル2024」のチラシ
下／「障害のある人がつくった作品展」のチラシ。「ナイスハートふれあいフェスティバル2024」の受賞者作品を展示

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [障害者の文化・芸術活動に係る支援者研修会、12/10] ●参加する機会の確保 [ナイスハートふれあいフェスティバル2024、12/5～12/9] [障害のある人が創った作品展、12/17～2/20 (合計4回)] ●情報収集・発信 [障害者の芸術文化活動に関する調査、2/17～3/31] [障害者の芸術文化活動に関するアンケート、2/17～3/31]

支援センター運営団体
茨城県福祉部障害福祉課

本県では、障害者が文化芸術活動、スポーツまたはレクリエーションを行うことは、障害者の生活の質を高めるとともに、自立や社会参加を促進するうえで大きな意義があると考えます。障害者の文化活動を発表する場や芸術文化活動を鑑賞する機会の提供に努めるなど、障害者の芸術文化活動を支援しています。

とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 もうひとつの美術館内
TEL: 080-3001-8088 FAX: 0287-92-8088
E-mail: tam@nactv.ne.jp URL: https://tam-mob.org/



Pick Up! 「Viewing展」 および「TAM デジタルアーカイブ」



「TAM デジタルアーカイブ」撮影風景

ねらい 障害のある方の表現を広く知ってもらう機会を創出し、多様な表現方法から生み出される多彩な作品や、創作の背景や作家や支援者の思い、支援の実例に触れてもらうことを目的とした。

参加型展覧会「Viewing展」では、障害のある方の作品の魅力を実際に見て感じて知ってもらう機会とし、

内容 主に栃木県内で創作活動をする障害のある方から作品を公募し、入選した258点を展示紹介する「Viewing展2025」を開催した。開催期間中には昨年度に制作した動画6本を会場で上映し、作品だけでなく、創作活動をする作家の姿や言葉、創作活動を支援する

「TAM デジタルアーカイブ」では、障害のある作家が創作をしている様子や本人や周りの支援者のインタビューを通じて、表現活動に関する理解や関心を深めるきっかけとした。さまざまな表現を知ること、身近にある表現に目を向けるきっかけとなることや、支援のあり方や日々の実践へのヒントとなることもめざした。

人の姿を深く知る機会となるようにした。アーカイブ事業では昨年度から引き続き、創作活動を行っている福祉事業所を紹介する動画1本と、選考委員賞に選ばれた作家の創作の様子等を紹介する動画5本を制作しYouTubeで公開している。

今年度の課題と目標

本事業も8年目となり、人材育成の面で成果を上げている。参加者は、障害のある方の表現に対する見方や作品の展示方法、取り扱いに関する知識などを習得し、表現活動を支援するための力が着実に育ってきている。また、発表の場として公募入選作品展を開催してきたことで、障害のある作家たちの創作活動へのモチベーションとなるだけでなく、新たな作家の発掘へとつながっている。

今年度の成果と展望

今年度開催した施設見学の研修では、これまで接点のなかった福祉事業所の支援員の方々等から多く申し込みがあり、全体の約半数が新規参加者となった。展覧会では応募総数407点、290人からの応募があった。6日間の開催期間中の来場者は1,175人で、どちらも過去最高を記録した。開催期間中だけでなく、展覧会終了後



「Viewing展2025」展示風景

る。一方で、研修参加者の顔ぶれに変化が少なく、新規参加者の継続的な参加につながりにくいという現状や、当事業の認知度が依然として低いという課題も残っている。これらを踏まえ、引き続き参加者のスキルの向上を図るとともに、より多くの人知ってもらい、新たな参加者を増やしネットワークを広げていくことをめざした。

も次年度の問い合わせが寄せられるなど、関心の高まりが見られた。一方で、研修会および公募展の情報の届け先や伝え方には工夫の余地があり、広報面での課題も新たに浮き彫りになった。今年度の取り組みを通じて出会った人たちと、来年度以降も無理なく緩やかにつながり続けられるような関係を築いていきたい。



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [いい塩梅を探索施設見学、9/25・10/21・10/22] [参加型展覧会「Viewing展2025」設営・運営、1/29～2/6] ●関係者のネットワークづくり [TAM会議、7/17～3/19 (合計5回)] ●参加する機会の確保 [参加型展覧会「Viewing展2025」2/1～2/6] ●情報収集・発信 [TAM デジタルアーカイブ、7/19～3/28 (合計6回)] [情報収集・発信、4/1～3/31] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [実施事業報告、3/20～3/28]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

障がいの有無や年齢、性別、国籍、専門家であるなしにかかわらず、既成の枠にとられない自由な発想から生み出された作品を展示紹介する「もうひとつの美術館」を運営している。木造の旧校舎を再活用し、年に2、3回の展覧会を開催している。また、併設のミュージアムショップでは全国の福祉事業所でつくられるグッズも紹介、販売している。

群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふあん

〒370-0813 群馬県高崎市本町10-1 イチカワビル4階

TEL：027-387-0533 FAX：027-387-0533

E-mail：info@gunma-artsupport.com URL：https://gunma-artsupport.com/



Pick Up! DELICATO 2024 Art of Life



みどり市童謡ふるさと館での展示会風景。出展者、出展事業所が自ら展示設営を行う参加型の展示会 撮影：江原信明

ねらい コンサートホールを備えた文化施設を活用し、複合的な文化芸術イベントを開催、広く一般市民に障害のある方たちの表現活動を知ってもらう。DELICATO（デリカート）とは「繊細に」「優美に」という音楽用語で、繊細で研ぎ澄まされた感性から生まれる芸術に触れる機会を提供する。本企画では、専門的な知識や難しい解釈を

内容 「とちぎアートサポートセンター TAM」と「もうひとつの美術館」と連携し、開催した。ワークショップ、セミナーを組み込み、体験型の展示会とした。デリカートの源泉は、18年前に足利市立美術館で始まった障害のある人の作品展「アーカーシャ」である。群馬県と栃木県のアーティストの尽力によって実現し、その後、会場を現

必要とせず、誰もが気軽に芸術を楽しめることを重視した。「人生の営みそのもの」をアートと捉え、日常の中からすくい取られた表現の数々が、鑑賞する人の心にそっと寄り添い共鳴することをめざした。

豊かな自然に囲まれたこの地で、訪れる人々がゆったりとした時間の中でアートと向き合える環境を整えていく。

在の童謡ふるさと館へと移して毎年開催してきた。今回はパネルディスカッションを実施し、この取り組みを支えてきた人たちと、その過程でつながった人たち6名が参加した。おおよそ1ヶ月の開催期間中に地元の劇団のワークショップ、マルシェ、ミニコンサート、舞踏公演といった多彩な事業が行われた。

| 今年度の課題と目標

昨年度は、自立支援協議会を中心に福祉団体に広く周知を試みた。今年度はさらに具体的なニーズの取り上げと多業種との連携強化、特に美術関係者、教育関係とのつながりをつくる。また、絵画等のビジュアルアーツに偏りがちであった県内の特性を音楽や舞台芸術等へ

| 今年度の成果と展望

企業等との連携が進み、共催や協力事業が少しずつ増えてきた。それに伴い、多業種間とのネットワークも今後につながる基礎ができた。相談支援を受ける体制強化が必要であり、県内各事業所・団体とのコミュニケーションの浸透で相談の機会は増えたが、専門性とニーズの掘り下げが今後の課題である。栃木県と県をまたい

と広げていくほか、相談対応の機会を増やし、支援の幅を広げる。地域に根ざした事業を浸透させるため、当事者に直接対応できるワークショップを開催する。目的・方向性を同じくする他事業との連携を図り、協働体制を構築することをめざす。

での展示イベントを開催したほか、楽しみながら学べる額装ワークショップや舞踏や演奏公演を初めて開催し、新たな視点の導入を図った。今後は地域に根ざし、地域資源を存分に活用した支援活動をさらに意識しながら広げていきたい。



左／県庁の展望階にあるカフェでのコラボブレンドの珈琲販売と展示の様子



右／JR水上駅構内でのアートペイントの様子

実施一覧

●相談支援 [相談支援事業、4/1～3/31] [アールブリュットミオカ展示の相談、8/8～10/17(合計4回)] ●人材育成 [想像と創造するチカラを磨こう、6/4～1/10(合計3回)] [想った、感じた、考えた、9/20・9/21] ●関係者のネットワークづくり [赤城山ペイントワークショップ、9/14～9/15] [水上駅ペイントワークショップ、9/19～9/20] ●参加する機会の確保 [県庁32階展示、4/9～3/31] [第6回温泉郷クラフトシアター、7/20～7/28] [たちどまってみる展、8/1～8/31] [DELICATO 2024展、9/20～10/14] [Gフェス会場展示会、10/12～10/13] [Arts & Café 2024、11/16～12/1] [いつもをカタチに展、12/4～12/9] [街なかアート、12/10～12/25] [「みる」「きく」「さわる」アート展、1/24～3/23]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人工房あかね

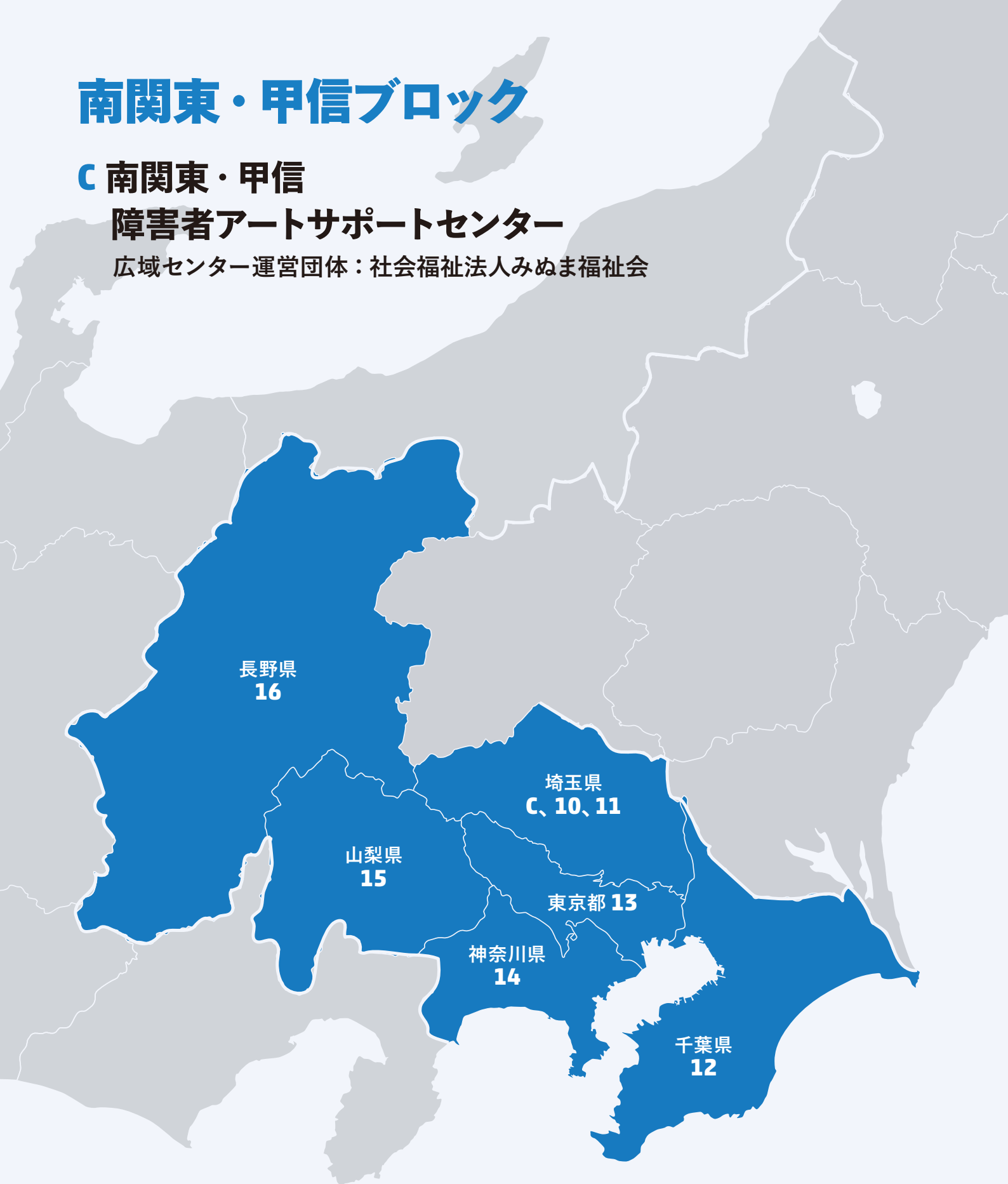
2000(平成12)年に設立。県内を中心に作家と作品の発掘を行い定期的な展示会を催す。県内の施設へ出向きアート支援を行ってきた。2013(平成25)年に福祉事業所アトリエART・ONを設立。障害のある人たちの表現活動のサポートを行っている。つくる環境を整えることを主体に活動している。

南関東・甲信ブロック

C 南関東・甲信

障害者アートサポートセンター

広域センター運営団体：社会福祉法人みぬま福社会



埼玉県

担当課：福祉部障害者福祉推進課社会参加推進・芸術文化担当

10 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集（基幹型）

支援センター運営団体：社会福祉法人みぬま福社会

11 ART (S) さいほく（特色型）

支援センター運営団体：社会福祉法人 昴

千葉県

担当課：環境生活部スポーツ・文化局文化振興課

12 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

支援センター運営団体：株式会社いろだま

東京都

担当課：福祉局障害者施策推進部企画課社会参加推進担当

13 東京アートサポートセンター Rights（ライツ）

支援センター運営団体：社会福祉法人愛成会

神奈川県

担当課：福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課社会参加推進グループ

14 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：認定 NPO 法人 ST スポット横浜

山梨県

担当課：福祉保健部障害福祉課

15 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人八ヶ岳名水会

長野県

担当課：健康福祉部障がい者支援課

16 ザワメキサポートセンター（長野県障がい者芸術文化活動支援センター）

支援センター運営団体：社会福祉法人長野県社会福祉事業団

ブロック内の状況

南関東・甲信ブロック広域センター：南関東・甲信障害者アートサポートセンター

当ブロックには、1都5県に7つの支援センターが設置されている。広域センターは2021（令和3）年度から埼玉県基幹型支援センターの実施団体が担う。埼玉県には、基幹型と特色型の2つの支援センターがあり、連携しながら県域に支援を広げている。

今年度の特徴的な取り組みとしては、東京都では、福祉施設や文化施設と連携して音楽やパフォーマンスの発表

機会を創出した。山梨県では、店舗やカフェ等で展覧会を開催。千葉県では、巡回展や作品、作家の発掘調査に取り組んだ。長野県では、文化団体等との連携により、国際芸術祭の関連企画で展覧会を開催。神奈川県では、アーティストを派遣するワークショップを県内全域で行った。埼玉県基幹型センターは鑑賞支援、埼玉県特色型センターは音楽分野にも取り組んだ。

南関東・甲信障害者アートサポートセンター

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1445 社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内
TEL: 048-290-7355 FAX: 048-290-7356
E-mail: artcenter@kobo-syu.com URL: https://skk-support.com/



Pick Up! つくる・つたえる・つながるサミット（「うみのもりの玉手箱4」関連トークイベント）



トークイベントの様子 撮影：長谷川朗

ねらい 千葉県の課題に合わせ、当ブロックの目標のひとつである「ブロック内連携と相互フォロー体制の構築」に向けて、協働でのトークイベントを開催した。第1部では「千葉県内の障害のある人の表現活動を広げるために」をテーマに、第2部では「芸術文化活動を通して生まれたつながりが育むものとは何か」をテーマ

として、「南関東・甲信ブロックの障害者芸術文化活動支援センターによる座談会」を開催した。前半は、県内の出展団体や行政職員、支援センターの登壇により関係者の交流を生み、つながりを深めることをねらいとした。後半は、支援センターの活動を学び合い、本事業も含めた活動の発信をねらいとした。

内容 第1部では、千葉県の担当者と支援センターから県内の活動状況について紹介ののち、「うみのもりの玉手箱4」に参加した2団体の施設長がそれぞれの施設での取り組みについて紹介した。その後のトークセッションでは、展覧会に込められた想いや参加して感じたこと、そして県内のネットワークに関する意見交換を行った。イベントに向けて県の担当者が登壇者の福祉施設を訪問し、関わりを深める契機となった。また、参加した福祉施設の職員同士や登壇者との交流も生まれ、千葉県における分野を超えたネットワーク構築の一助となった。

今後もこのネットワークを深めることができるよう、広域センターとしても伴走を考えている。第2部では、支援センターの職員が一堂に会し、「地域の人・団体とつながる」「地域に出向く」という2つのテーマのもと各センターの活動を紹介。司会との対話形式で進行し、各地の活動を振り返りながら支援センターの役割を再考し、本事業の発信にもつながった。当日は「うみのもりの玉手箱4」の鑑賞会を実施し、展覧会の運営だけでなく、支援センターの体制や千葉県の取り組みを詳しく学ぶことができた。

今年度の課題と目標

2021（令和3）年度の開設時より、ブロック内の支援センターや自治体との連携を重視し、支援センター同士が相互にフォローしながら「みんなで考える」体制づくりを目標に活動している。昨年度の事業評価を受けて、ブロック内の支援センターや自治体の連携については評価を得ることができた。一方、各支援センターが広域セン

今年度の成果と展望

千葉県と広域センターが主催し、千葉県支援センターが企画した展覧会に合わせて、県内の福祉施設や自治体、支援センターの担当者が登壇するトークイベントを開催。あわせてブロック内の支援センターの担当者により、それぞれの活動を紹介する座談会も実施した。また、広報活動にも注力し、ブロック内の支援センターの魅力を紹介するパンフレットを作成・配布したほか、見学・交流企画も開催し、支援センターの活動の理解促進につなげた。これらの取り組みによるつながりを活かし、今年度は、



見学・交流企画の様子

ターに対して求めることやニーズが異なることが分かった。そのため、今年度は各支援センターの個別の課題に応じたサポートや連携を意識して取り組む。また、以前から課題だった支援センターの認知度の向上に向けて、本事業の普及と合わせて取り組んでいく。

県域を超えた展覧会への出展協力や相談事業等での連携が増えている。事業評価アンケートからもブロック内の支援センターのネットワークについては高い評価を得、活動を通じたネットワークの深まりが示された。一方で、自治体と支援センターの連携や自治体同士のネットワークには課題が残っている。単年度事業ではあるが、今後も事業評価を軸にブロック内の課題やニーズに向き合い、連携を深めながら事業に取り組みたい。



当ブロックのパンフレット

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [事業内容のヒアリング（オンライン）4/22～5/8（合計6回）] [第1回ブロック会議、5/10 第2回ブロック会議、6/4 第3回、8/7 第4回、11/6 第5回、3/7 ※全てオンライン] [支援センター事業への助言（オンライン）6/9] [研修への登壇、7/15] [運営協力、9/24・12/15] [パンフレットを作成、配布、11月] [アトリエ見学、3/3] [情報収集、発信4/1～3/31] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [支援センターの活動事例から鑑賞支援について考える（オンライン）7/8] [広報物のアクセシビリティについて考える（オンライン）9/11] [支援センターが企画する公募展を見学する、1/21] ●ブロック内の連携の推進 [見学・交流企画、7/15～12/15（合計6回）] ●参加する機会の確保 [トークイベント「つくる・つたえる・つながるサ

ミット」1/21] ●自治体における基本計画策定の推進 [第2回ブロック会議（オンライン）6/4] ●その他 [第三者による対話型評価（オンライン）4/17・5/8・6/6・1/24・3/5]

広域センター運営団体

社会福祉法人みぬま福祉会

1984（昭和59）年、重い障害を理由に卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」を理念に発足。さまざまな困難を抱えた人を受け入れ、現在は通所・入所・相談支援事業等22の事業を展開し、利用者は300人を超えている。重い障害のある方の仕事を模索するなか、表現を仕事にする取り組みが始まり、2002（平成14）年にはアトリエ、ギャラリー、カフェ、ショップを備えた工房集を設立。

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集（基幹型）

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1445 社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内

TEL：048-290-7355 FAX：048-290-7356

E-mail：artcenter@kobo-syu.com URL：https://artcenter-syu.com/



Pick Up! ことばでみる鑑賞ツアー



障害者アート企画展「ことばでみる鑑賞ツアー」の様子

ねらい 昨年度の「埼玉県障害者アート企画展」において、視覚障害者の鑑賞希望に対応したことをきっかけに、誰もが楽しめる美術鑑賞のあり方について考える機会が生まれた。言葉を用いて作品の魅力を共有する中で、視覚に障害のある方だけでなく、案内する側にとっても新たな視点を得られ、双方向的な鑑賞体験の可能性を

内容 視覚に障害のある人となない人が対話を通じて作品を楽しむ鑑賞ツアーを、対話型鑑賞の企画経験をもつユニット「con*tio（コンティオ）」に依頼し、「埼玉県障害者アート企画展」の関連企画として実施した。企画段階から埼玉県立近代美術館の副館長や学芸員と連携し、展示鑑賞に加え、美術館の特徴でもあるデザイン椅子の体験など、美術館全体を味わえる構成とした。当日は視覚

感じた。こうした経験を踏まえ、より多くの人に関われた企画として鑑賞ツアーを実施することとし、視覚障害のある人の鑑賞ニーズに応えとともに、文化施設と連携しながら合理的配慮の実践と普及を図った。本事業を通じて、支援センターと美術館の協働により、あらたな芸術体験を創出することを目指した。

に障害のある人（6名）とない人が小グループで分かれ、ファシリテーターの進行のもと自由に対話を重ねながら作品を鑑賞した。言葉を通じて作品の魅力を深く感じられたという感想が多く寄せられ、また会場には多くの出展作家が滞在しており、作家との直接交流も印象的な体験となった。

今年度の課題と目標

昨年度、対面での事業を再開したことで、ネットワークの深まりやさまざまな交流が生まれた。今年度はネットワークを始め、各種研修等も対面事業を再開し、活動を深めていくことを目標とした。課題としては、①アート企画展の作品選考委員（特に福祉施設職員）が増加したため、

改めて展覧会の意義や選考する上で大切な視点を習得、②重症心身障害者など、足を運ぶことが難しい人の芸術文化活動への参加機会の拡大、③美術分野以外の多様な芸術文化活動に関する相談対応（音楽分野に関する情報収集等）が挙げられる。

今年度の成果と展望

①「選考について考える研修」として福祉施設職員が集い、作品を見ながら対話型鑑賞を実施した。障害のある人にとっての表現の意味や可能性について話し合う機会を設け、作品選考に活かした。②ダンスワークショップでは講師を施設に派遣し、重症心身障害者も自分のできる動きで最大限に表現しながら参加した。福祉施設関係者に身体表現活動に興味関心を持ってもらうことをめ

ざして、参加者や施設職員の気持ちの変化等をレポートにして報告書に掲載した。③特色型支援センターが主催となり、埼玉県と当センターで連携し、音楽の可能性を考える研修を実施した。全体を通して、さまざまな関係機関と連携しながら事業を実施できたことで、音楽活動に関する意義や関心の深まりが感じられた。



第15回埼玉県障害者アート企画展「Coming Art2024」 撮影：鈴木広一郎



重症心身障害者施設でのダンスワークショップの様子 撮影：武藤奈緒美

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [ネットワーク会議（オンライン）4/18～3/27（合計12回）] [アトリエ見学、5/16・2/20] [“選考する”について話し合う、6/13] [作品選考会、7/18～8/27] [グッズ研修、7/19～12/19（合計3回）] [作品鑑賞プロジェクト、10/1～12/8] [権利保護研修、2/6] [音楽表現研修、3/14] ●参加する機会の確保 [演劇ワークショップ、6/7～10/1（合計4回）] [ダンスワークショップ、7/5・8/9] [出張ダンスワークショップ、9/2・10/9] [埼玉県障害者アート企画展「Coming Art 2024」12/4～12/8] [アーティストトーク、12/7（合計2回）] [織り＆グッズ展、12/19～12/25] [作家ワークショップ、12/21～12/22（合計4回）] ●情報収集・発信 [HP、SNS、YouTube等を使用した情報発信、4/1～3/31] [障害のある方向けの表現活動状況調査、4/26～12/31] [オープニングセレモ

ニー、12/4] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [第15回埼玉県障害者アート企画展作品集の作成、配布] [事業報告書の作成、配布] ●その他 [ことばでみる鑑賞ツアー、12/6]

支援センター運営団体

社会福祉法人みぬま福祉会

1984（昭和59）年、重い障害を理由に卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」を理念に発足。さまざまな困難を抱えた人を受け入れ、現在は通所・入所・相談支援事業等22の事業を展開し、利用者は300人を超えている。重い障害のある方の仕事を模索するなか、表現を仕事にする取り組みが始まり、2002（平成14）年にはアトリエ、ギャラリー、カフェ、ショップを備えた工房集を設立。

ART(s) さいほく(特色型)

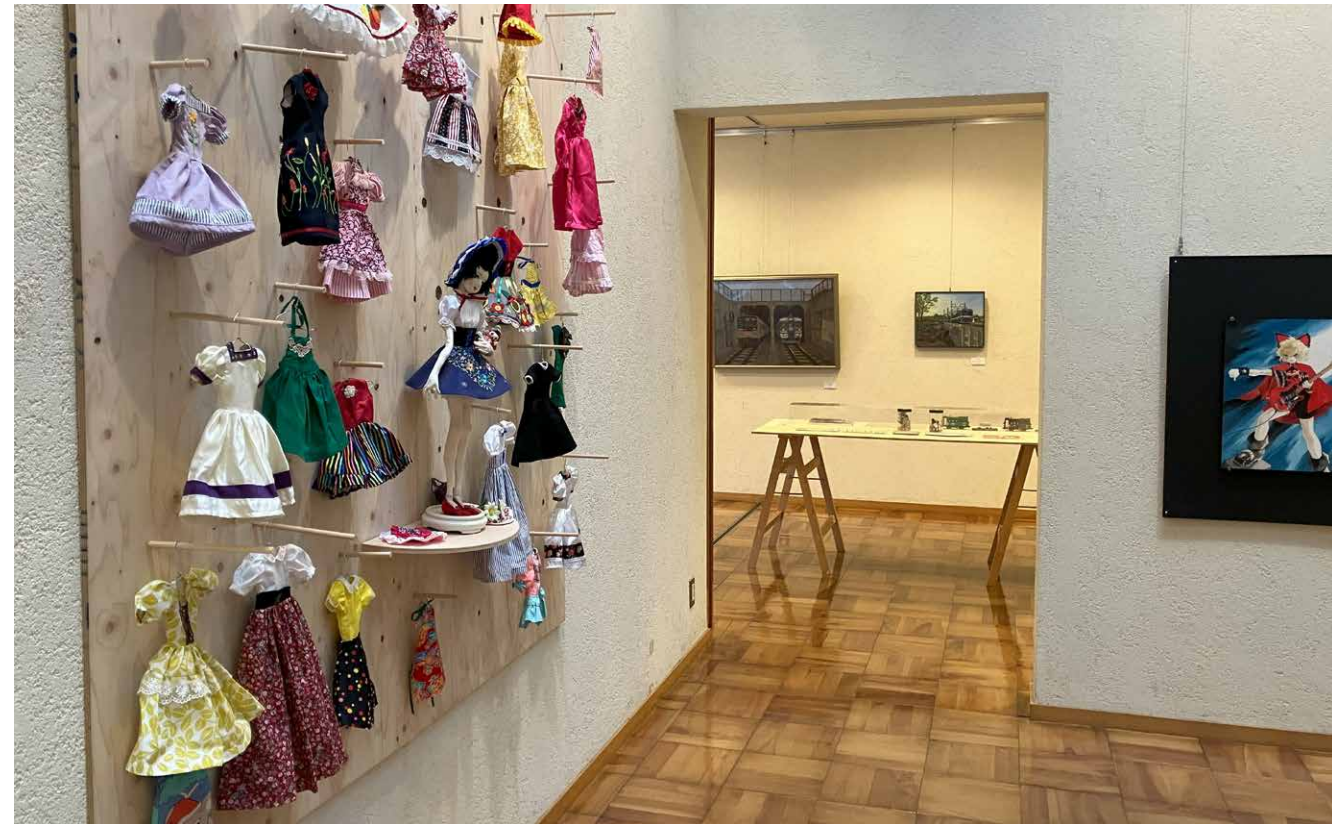
〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子1532-5 まちこうば GROOVIN' 内

TEL: 0493-81-4597 FAX: 0493-81-4597

E-mail: arts_saihoku@subaru-swc.com URL: https://www.subaru-swc.com/~groovin/



Pick Up! 自治体や福祉事業所等との協働による障害のある人たちのアート活動支援



「アートセッションズ in さいほく 2025 情熱のカタチ」展示の様子

ねらい 障害のある人たちがアートを通じて地域の中で活躍できるよう取り組んでいる。今年度は、センター主催による2つの趣向の異なる作品展の実施のほか、市町村等から作品展実施の相談を受け（新たに2市町からの相談があった）、計5ヶ所の作品展実施への協力を行った。自治体等が主催する作品展の実施にあたっては、行政や

相談支援等、作者本人、福祉事業所、支援センター等に関わる人たちが一緒に考え、作品の魅力・背景等を共有できるよう、小ミーティングや展示作業を共に行いながらつくりあげる作品展をめざした。当支援センターもいち参加事業所として、その地域ならではの取り組みや地域性も学び、事業に活かせるように臨んだ。

内容 今年度も昨年に続き「日高市障がい者創作活動合同企画展」「第4回障がい者アート展 in おごせ」「☆アート展☆嵐山☆」の3つの作品展について、主催団体から相談を受けて実施協力を行った。また、新たに東松山市および横瀬町（社会福祉法人清心会）からも作品展開催に関する相談を受け協力した。支援センターとしては主に展示方法の提案・什器の貸し出し、アドバイス等を行った。ミーティングや展示作業等、行政職員、出展者

本人、家族、事業所職員、支援センターも参加し協力し合いながら行った。作品展を実施するまでの連携・協働を通じ、お互いの理解・交流が深まった。当支援センター主催の企画としては「公募作品展アートセッションズ in さいほく 2024」（出展者数110名、来場者550名）、「アートセッションズ in さいほく 2024 ～情熱のカタチ展～」(出展者数4名、来場者250名)を実施した。

今年度の課題と目標

当支援センターの活動エリアにおいて作品発表を希望する声は多く、発表の機会を通じ、作品制作や事業所のアート活動等の活性にもつながっている。今年度も作者や周囲の人（家族、支援者、友人等）、来場者が共に楽しめる作品展づくりを目標に取り組んだ。また、それに至る過程も大切にしたいとの思いから、作者本人、事業所、行政といった地域のさまざまな人たちと連携・協働し取り組

むことを課題とした。加えて、家族を対象に作者本人への想いや支援に携わる人への希望等を知るための取材に取り組む。さらに、音楽表現に関する支援にも取り組むことを課題とした。障害のある人たちがアートを通じて活躍できる機会や地域づくりは、関係者を始め地域の人たちと協働で進めていくものと考え、その中に支援センターが存在し、活用されるよう取り組んでいく。

今年度の成果と展望

当支援センター主催の公募展「アートセッションズ in さいほく 2024」は、年々応募者が増え、今年度より会場を広い場所に移して実施した。「アートセッションズ in さいほく 2024 ～情熱のカタチ展～」においては、例年と同じ会場で、4名の作家の依頼作品をじっくり魅せる作品展を実施した。また、昨年に続き、市町村や相談支援事業所が主催する作品展への協力・協働に取り組んだ。今年度は新たに2市町からの相談を受け、計5市町への

協力を行い、町独自の展開も見られた。家族や作者本人への取材においては、さまざまな話を聞くことができ感銘を得るとともに、多くの課題も知ることになった（家族の高齢、在宅の方の身の回りの支援等）。また、音楽表現活動についての研修会を実施し、県内で積極的に音楽活動に取り組んでいる事業所による実演のほか、座談会や意見交換を行った。今後は音楽だけではなく、身体表現等の活動状況やニーズを調査する必要がある。



左／生演奏で音楽表現活動の楽しさを感じる

右／「アートセッションズ in さいほく 2025」（公募展）展示の様子



実施一覧

●相談支援 [障害のある人達のアート活動等の相談支援等、4/1～3/31(合計65回)] ●人材育成 [アートセッションズ in さいほく 2024 ギャラリートーク、9/27] [アートセッションズ in さいほく 2024 情熱のカタチ ギャラリートーク、10/25～10/26] [面白いぞ音楽 楽しいぞ音楽 音楽表現の魅力を感じよう、3/14] [作家家族へのインタビュー・動画撮影「家族の想い・メッセージ」9/18] [光の家ワンダーハウス夏休みワークショップ、8/18] ●参加する機会の確保 [つなぐ～つながる～みつかる嵐山町のアート展、5/31～6/14] [アートセッションズ in さいほく 2024、9/26～9/30] [アートセッションズ in さいほく 2024 情熱のカタチ、10/25～10/30] [市制施行70周年記念東松山市障害者作品展への協力・協働、10/29～11/14] [第15回埼玉県障害者アート企画展 Coming Art 2024、12/4～12/8] [第4回障がい者アート展 in おごせ、12/4～12/9] [☆アート展☆嵐山☆への協力・協働、12/5

～12/9] [日高市障がい者創作活動合同作品展、12/16～12/22] [障害のある方の作品展(横瀬町)、12/14～12/21] ●情報収集・発信 [作品展や研修会等、取り組み等の情報発信(オンライン) 4/1～3/31(合計163回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [冊子報告書の作成]

支援センター運営団体
社会福祉法人昂

1990(平成2)年4月に「人も街ももっとやさしくするために暮らしを分け合うやさしい街づくり」をスローガンに設立した。障害のある方、そうでない方、すべての人たちにやさしい「まちづくり」をめざし、地域の皆さまと一緒に歩んでいる。法人や事業所を越えた連携や地域の資源、関係機関との協働をさらに進め、まち全体で「一つの福祉サービス事業所」となるよう力を合わせていくことをめざしている。

千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 2553-8

TEL：0475-36-7411 FAX：0475-36-7411

E-mail：info@uminomori.net URL：https://uminomori.net/



Pick Up! 公募展「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱4」と関連企画、巡回展



公募展「うみのもりの玉手箱4」会場風景 撮影：竹村浩揮

ねらい 県内における障害者アート推進のシンボリックな事業としての位置づけを確立することで、本活動を広め、深めることをめざす。

今回は、前述の通り、たんに公募作品を展示するだけで

内容 公募展「うみのもりの玉手箱4」では、展示作品数は326点内（絵画194点、彫刻（立体）38点、クラフト7点、写真4点、書13点、その他15点、フラッグ40点、詩15点）となり、事業所からの申し込みが300点、個人からの申し込みが26点で、97ヶ所の事業所が参加した。また、展示期間中の来場者数は2,177名となった。

さらに「うみのもりの玉手箱4」の連動企画として「企画展 工房集 作品展」「障がいのあるかたの芸術活動に

はなく、先進事業所の作品展、作品鑑賞のための人材育成講座の実施等を行い、展覧会コンテンツの充実を図った。また、巡回展においては、県民が障害者アートに触れる機会をできるだけ増やすことをめざす。

取り組む事業所の作品展」（千葉県内の障害のある方）、対話型鑑賞講座「アートを楽しくひらく!」「詩の朗読パフォーマンス」を実施。南関東・甲信障害者アートサポートセンターと千葉県主催によるトークイベント「つくる・つたえる・つながるサミット」では開催協力を行った。また「うみのもりの巡回展」および相談会を、県内5ヶ所の公共施設、2ヶ所のショッピングセンター、4ヶ所のファミリーマート店舗にて実施した。

今年度の課題と目標

本事業の活動の知名度をさらに高め、それにより障害者アートに関わる方々の裾野を広げ、活動しやすい環境につなげることが継続的な課題として上げられる。そこで、公募展「うみのもりの玉手箱」の事業としての機能を強

化するとともに広報の拡充を図った。また、年間を通じてより多くの県民に障害者アート作品を目にしてもらうこともめざした。

今年度の成果と展望

更に規模を拡大して実施した公募展では、参加作品数が前回比で5割増となる成果を上げた。この公募展は、人材育成講座の成果を発表する場としての機能を引き続き担うとともに、作品鑑賞の機会を創出・強化する場としての役割も果たした。また、先進事例として埼玉県支援センター「みぬま福祉会工房集」の企画展、千葉県内の先進取組事例として「まあい広場展」のほか中村順二美術館での作品展を

実施したほか、公募展期間中、南関東・甲信障害者アートサポートセンターと千葉県主催によるトークイベント「つくる・つたえる・つながるサミット」も実施し、交流の拠点としても機能させることができた。障害者アートに対する県民への啓発・広報活動の強化、県内の都市部と地方部との意識格差を埋める工夫として、公募展受賞作品の県内巡回展や相談会の実施という新しい試みに着手した。



左／巡回展（街かどギャラリー・稲浜ショップ）の展示風景

右／人材育成講座6「あるいてアハハ、とまってウフ」の様相 撮影：竹村浩揮



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [うみのもりの巡回展に合わせた相談会の実施、5/30～9/13 (合計4回)] ●人材育成 [人材育成講座1「障がいの基礎」7/15 講座2「アート活動の意義」7/15 講座3 絵画表現ワークショップ、7/15 講座4 音楽表現ワークショップ、8/11 講座5 著作権を学ぶ、8/22 講座5 動画配信「著作権保護」4/1～3/31 講座6 舞台表現ワークショップ、10/9 講座7 美術表現分野、1/17] [詩の朗読会、1/25] ●関係者のネットワークづくり [南関東・甲信障害者アートサポートセンターと千葉県主催によるトークイベント「つくる・つたえる・つながるサミット」開催協力、1/21] ●参加する機会の確保 [うみのもりの巡回展、4/1～3/31 (合計11回)] [公募展「うみのもりの玉手箱4」1/15～1/26] ●情報収集・発信 [メーリングリスト

による情報発信、4/1～3/31 (合計54回)] [DMによるフライヤー情報発信、5/1～11/30 (合計3回)] [企画展 工房集作品展、1/15～1/26] [県内障がいのあるかたの芸術活動に取り組む事業所の作品展、1/15～1/26]

支援センター運営団体
株式会社いろだま

株式会社いろだまが中心に運営し、3つの福祉事業所が福祉面でのサポートをしつつ障害者の表現活動の支援を行っている。株式会社いろだまは、千葉県において1998 (平成10) 年よりアート×共育の活動を行いながら、表現活動を通じて障害の有無にかかわらず、つながる教育・福祉の活動を続けている。

東京アートサポートセンター Rights（ライツ）

〒164-0002 東京都中野区上高田3-38-5 太和屋産業ビル2階

TEL：03-5942-7251 FAX：03-5942-7252

E-mail：rights@aisei.or.jp URL：https://rights-tokyo.com/



Pick Up! のらくろード「こーくりアートフェス」



のらくろード「こーくりアートフェス」発表の様子 撮影：たかはしじゅんいち

ねらい 舞台芸術分野の発表の機会を求める障害当事者は増えている一方、その機会はまだまだ少ないのが現状である。また、障害への理解を深め、障害のある人の社会参加の場を広げるためには、身内や関係者だけでなく、これまで障害のある人に出会う機会のなかった方々に向けたアプローチが必要である。そこで今年度は、地

域とつながる活動を広げていきたいと考える。福祉施設と連携し、歌やダンス、演劇等の舞台芸術分野を中心とした障害のある人の発表の機会を創出した。地域の福祉施設、商店街組合等と協働して企画運営をすることで、この発表の場を一過性のイベントにせず、地域に根付き継続されることをめざした。

内容 江東区の商店街「高橋のらくろード」を会場に、障害の有無等にかかわらず、誰でも垣根なく楽しめるアートイベントを開催した。イベントでは障害のある人を中心とした人形劇やダンス、歌、演奏等のパフォーミングアーツの発表会と、商店街内のアーケードの柱には、絵画等の作品（複製）を展示した。また、子どもも大人も

楽しめる創作ワークショップ等も実施し、鑑賞や創作を通してさまざまな人が交流する場となった。本事業は協力団体、地域の方、出演者からも高い評価を得るとともに、出演者や協力団体のネットワークが深まる機会となった。

今年度の課題と目標

当支援センターの相談窓口には、舞台芸術分野の発表の機会を求める当事者からの問い合わせが増加しているが、造形美術分野に比べその機会が少ない現状がある。また、障害者の芸術活動の拡充のためには、各地域の人や団体が主体となってネットワークを形成し、地域に根ざした活動を継続的に実施していくことが重要と

今年度の成果と展望

地域の福祉施設等と連携して実施した、障害のある人の表現発表のイベントでは、さまざまな人が行き交う商店街の中で開催したことで、障害の有無にかかわらず多様な人が交流し、他者理解を育む場となった。人材育成として実施したシンポジウムでは、障害当事者と文化関係者をゲストに迎え、合理的配慮等について参加者と一緒に考えた。ゲストの経験や意見が共有され、参加者が

なる。これらを踏まえ、今年度は地域と協働して舞台芸術分野を中心とした発表の機会を創出するとともに、障害の有無にかかわらず、多様な人同士が交流することによりネットワークが形成されていくことを目標とした。また、研修会や相談支援といった年間の事業全体を通して、ネットワークづくりを重視した運営をめざした。

多様な人にひらかれた芸術活動づくりを構想する上で示唆に富む機会となった。昨年度より継続実施したネットワークづくりのための自由な語り場では、多様な方々が参加し、本事業を越えて個々の交流の機会が生まれる等の発展があった。今後も障害のある人との出会い・交流の場をつくるという視点を大切に、障害のある人の芸術活動のより良い環境づくりに寄与していきたい。



左／ネットワークづくりのための場で参加者同士が語り合う様子
右／人材育成研修「障害のある人の芸術活動と権利保護」の様子



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [無料法律相談、8/6～2/19 (合計6回)] ●人材育成 [シンポジウム「障害のある人の芸術文化活動について考える -アクセシビリティと合理的配慮-」10/13] [障害のある人の芸術活動と権利保護、12/8] ●関係者のネットワークづくり [コミュニティスペース「わあとなじかん with ライツ」7/13～10/5 (合計3回)] ●参加する機会の確保 [のらくろード「こーくりアートフェス」アート展示、12/5～12/18] [のらくろード「こーくりアートフェス」12/15]

支援センター運営団体 社会福祉法人愛成会

1958(昭和33)年に創立した、利用者と共に地域づくり・まちづくりに寄与する取り組みを行っている社会福祉法人。所属や年齢、障害の有無を問わず地域に開いた創作の場「アトリエ pangaea (ばんげあ)」を運営するほか、2010(平成22)年からは、地域の商店街や人々と協働で障害のある人の芸術文化活動を通した多様性と共生社会を推進する取り組みを行っている。

神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル地下1階 認定NPO法人STスポット横浜内
TEL: 045-325-0410 FAX: 045-325-0414
E-mail: info@k-welfare.org URL: https://k-welfare.org/



Pick Up! ワークショップ実施事業



「北部地域生活支援センターゆりあす」でのOUTBACKアクターズスクール校長・中村マミコさんとの演劇の取り組み 写真：金子愛帆

ねらい 神奈川県内の障害福祉サービス事業所等8ヶ所を対象に、芸術家によるワークショップを実施した。実施施設のうち4ヶ所は昨年度からの継続実施、4ヶ所は公募により選定した。「利用者の表現を引き出したい」「職員間の余暇活動に対する意識を高めたい」といった各施設のニーズに合わせて内容を検討した。また、実

内容 芸術家によるダンスや演劇、美術のワークショップを行った。施設を利用する障害者だけでなく、保護者やきょうだい、施設にきているボランティアや外国につながる子どもたちなど、障害の有無や年齢、国籍にかかわらず、ともに表現を楽しむ時間を過ごした。参加者からは「いつもは思いつかない表現ができた」「他の人の

施終了後も継続した取り組みにつながることをめざし、近隣の文化施設や、自治体の担当課等の関係機関に事業周知を行い、取り組みを見学していただいた。実施施設側でも、職員のアイデアをワークショップの内容に反映したり、日常の活動にワークショップの内容を応用したりと、自施設の取り組みとなるよう働きかけをした。

表現を見てよかった」、職員からは「いつもと違う利用者の姿を見ることができた」「今後の活動に取り入れたいことがみつかった」といった感想が聞かれた。回を重ねるうちに職員も利用者も積極的に場に関わり、芸術家とともに表現を楽しむ時間をつくることができた。

今年度の課題と目標

相談件数が増加し、内容も多様化するなかで、相談のつなぎ先の把握が求められている。昨年度までの事業を通して、支援センターには情報が蓄積してきているが、情報の活用には工夫が必要である。また、福祉施設における芸術文化活動のモデル形成として行っているワークショップ実施事業では、実施後の継続方法を模索して

今年度の成果と展望

相談対応では、企業や芸術文化関係者など、障害福祉の分野外の方からも相談が寄せられ、認知の広がりを感じた。ワークショップ実施事業では、近隣の文化施設の職員が見学するなど、継続的に芸術文化に触れられる体制づくりに向けて、働きかけることができた。コーディネーター養成講座は、さまざまな地域、分野から集まっ



演劇を通してケアを考える取り組みをしている講師を招いた講座の様子

いる。今年度は県内の「活動が豊かになるために」ということを目標に、県内の地域資源とのネットワークづくりや情報の整理、ワークショップ実施事業を通じた、福祉施設での継続的な芸術文化活動の展開の検討に注力し、事業に取り組んだ。

た参加者同士が交流する機会となった。今後も県内の情報を整理し発信することで、地域の中で芸術に触れられるよう支える体制づくりをめざす。また、ワークショップ実施事業を通して、施設や自治体、文化施設等と意見交換をしながら、障害福祉サービス事業所等における芸術文化との接点づくりについて考えていく。



作曲家・西井夕紀子さんを講師に招いた講座の様子

実施一覧

●相談支援 [県内における相談支援、4/1～3/31(合計124回)] [パンフレット作成、8/28～3/31]●人材育成 [ワークショップ実施事業、7/6～3/17(合計22回)] [障がい福祉と芸術文化の関わりを考える勉強会、9/20～12/16(合計3回)]●関係者のネットワークづくり [協力委員会、6/13・1/17] [文化施設職員との座談会、2/19]●参加する機会の確保 [成果報告会「地域とともに考える障がい福祉と芸術文化、3/12」]●情報収集・発信 [神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターだより、4/18～3/31(合計8回)]●事業評価及び成果報告のとりまとめ [報告書の作成、2/19～3/31]

支援センター運営団体

認定NPO法人STスポット横浜

アートの持つ力を現代社会に活かすことをミッションに、小劇場「STスポット」の運営、学校や福祉施設への芸術家派遣、地域のアートプロジェクト支援などを行うNPOである。2015(平成27)年度からは、文化庁委託事業や神奈川県との協働を通して、福祉と芸術文化の関わりについて考える場をつくり続けてきた。

YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条1237-3

TEL：0551-45-7027 FAX：0551-45-8221

E-mail：yan@y-meisui.or.jp URL：http://y-meisui.or.jp/yan/



Pick Up! 企画展「甲府の街とアートを巡る『雑踏』展」



甲府の街とアートを巡る『雑踏』展の展示風景（会場：澤田屋本店2F「espace・櫻町」） 撮影：本杉郁雲

ねらい 本県には県内外に発信すべき独創的で優れた作品を生み出す作家が数多く存在している。しかし、これらの作家や作品の魅力を発信する機会が十分に確保されているとは言い難い。この課題に対応するため、作家

の認知度を向上させるとともに、作家の創作意欲向上や、作家を支える家族や支援者の支援意欲を促進することを目的として、山梨県と連携し、新しいかたちの展覧会を企画した。

内容 山梨県甲府市内の商店街にあるギャラリーやカフェなど6ヶ所を会場に県内作家5名、県外作家5名、計10名による障害のある方が制作したおよそ200点の作品を展示した。会場では、作品紹介に加え、各作家やその家族、支援者への取材記事を掲載した「ZINE」（冊子）を無料配布。また、創作風景とインタビューを撮影した動画を会場内で上映し、YouTubeでも公開した。展

示は街中を巡回する形式とし、福祉や美術関係者だけでなく、買い物をしている方や観光客等の幅広い層の方々に足を運んでいただいた。チラシ、ポスター、ZINEといった広報物は全てピンクを基調としたビジュアルで統一し、認知の拡大を図った。会期終了後には、展示の様子をオンラインで閲覧可能にするための取り組みとして3Dウォークを作成し、公式WEBサイトで公開した。

今年度の課題と目標

①相談支援：相談者の主体性を大事にした対応を行うことを心がける。②関係者のネットワークづくり：相談から発展した取り組みとして、アウトリーチによるヒアリング、創作ワークショップを行う「アートカフェミーティング」を実施。相談者の具体的な困りごとに伴走しながら関係性を深めていくことをめざす。③参加する機会の確保：山梨県甲府市内で、街歩きをしながらアート作品に触れ

今年度の成果と展望

①相談支援：相談件数84件、対応回数325回。2023（令和5）年度と比較し、件数は10件、回数は100回増加した。障害当事者が自立して問題を解決できることをめざし伴走した。②関係者のネットワークづくり：アートカフェミーティングを5件、計8回実施。丁寧なヒアリングを行い、関係者のニーズに応えることを重視した。③参加する機会の確保：会期10日間で3,584名の来場があった。当センターと接点のなかった層にも活動を広く

る取り組みを山梨県と連携して企画・実施する。これにより、県内の優れた作家の作品を県内外に広く発信することをめざす。④情報収集・発信：主催事業、他団体が行う事業やお知らせについて、SNS（Instagram）で発信する。また、企画展の公式WEBサイト、Instagramを立ち上げ、広報周知を図る。

認知してもらう機会を創出できた。④情報収集・発信：センター Instagram では投稿28件、フォロワー数は2023（令和5）年度末の284名から2024（令和6）年度末に496名へ増加した。また、今年度新規で立ち上げた企画展公式WEBサイトでは投稿37項目、Instagram投稿41件。展覧会の周知が図れたとともにセンターの認知度向上にもつながった。



左／韮崎市にて行ったアートカフェミーティング、出張ワークショップの様子（スチレン版画）

右／甲府の街とアートを巡る「雑踏」展 展示風景（会場：オリオン活版印刷室） 撮影：本杉郁雲



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31(合計84回)] ●関係者のネットワークづくり [アートカフェミーティング、4/4～2/12(合計8回)] ●参加する機会の確保 [企画展「甲府の街とアートを巡る『雑踏』展」10/11～10/20] ●情報収集・発信 [SNS (Instagram) によるセンターの情報収集・発信、4/1～3/31(合計28回)] [企画展「甲府の街とアートを巡る『雑踏』展」公式WEBサイト、9/10～3/31(合計37回) 同展YouTube動画配信、9/25～3/31(合計12回) 同展3Dウォーク、12/3～3/31(合計6回)] [SNS (Instagram) による企画展の情報発信、9/12～3/31(合計41回)]

支援センター運営団体

社会福祉法人ハケ岳名水会

「共に暮らす地域の創造と実現（ノーマライゼーション）」という法人理念のもと、北杜市および韮崎市を中心に、障害のある人たちの地域生活を支援する事業を展開している。2016（平成28）年に「YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター」を開設。県と連携し、障害のある人たちの自立と社会参加をめざし、美術分野と舞台芸術分野のすそ野を広げる活動を推進していく。

ザワメキサポートセンター (長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

〒381-0034 長野市大字高田364番地1(社会福祉法人長野県社会福祉事業団 本部事務局内)

TEL:026-217-0022 FAX:026-228-0310

E-mail:art@nagano-swc.com URL:https://nagano-swc.com/art/



Pick Up! ザワメキアート展2024 ネイチャー イン アウト



「ザワメキアート展2024
ネイチャー イン アウト」会場風景

ねらい 長野県在住の障害のある方の創造性あふれる作品を発信する場と、県民が広く鑑賞する機会を設け、その優れた芸術性や創造性に対する認識を高めていただき、文化芸術活動の振興・推進を図る。

2016(平成28)年度から4年間公募展を開催し、2021(令和3)年度以降はゲストキュレーターによる企画展を開催し、さまざまな角度から作品の魅力を紹介している。

内容 「ザワメキアート展 ネイチャー イン アウト」は、長野県大町市で開催される「北アルプス国際芸術祭2024」との連携企画である。芸術祭のコンセプトである「水・木・土・空」をテーマとし、いままで「ザワメキアート展」へ出展した作家の中から16名を紹介した。また関連企画なども、北アルプス国際芸術祭実行委員会や

年々来場者も増え、メディアにも取り上げられるなど、障害のある方の芸術活動に対する県民の認識が高まりつつあり、この流れを継続できるよう開催している。本展の特徴は、作家の所属する福祉施設や自宅を訪問し、作品の調査・聞き取りによる作家の生活や制作に至る背景の丁寧な取材にあり、作品の魅力だけでなく、作品や作家のモノガタリを紹介することを心がけている。

信州アーツカウンシル、周辺地域とも連携しながら取り組んだ。会場は、長野県伊那文化会館および大町市総合福祉センターの2ヶ所で実施した。両会場を360度カメラで撮影したWEB展もあわせて開催。遠方の方や都合が合わない方にも、会場の雰囲気を感じてもらうことができた。

催。③ネットワークづくり：関係団体との連絡会議等の実施。④発表の機会の確保：「ザワメキアート展」「ザワメキ・キャラバン」「ザワメキschoolキャラバン」等の開催。⑤作品の貸出：レンタル事業の実施。⑥情報収集・発信：作者への取材、施設の視察。ホームページ、チラシのリニューアル。芸術系の情報把握および発信。

今年度の成果と展望

今年度の特筆する成果として、下記が挙げられる。

③ネットワークづくり、⑥情報収集・発信：「ザワメキアート展2024」を軸に「ザワメキ・キャラバン in 大町」では街中アートの展示を実施した。これにより、障害のある方の芸術文化活動への理解、街の活性化、地元福祉施設との連携等にもつなげることができた。「ザワメキ・キャラバン in 大町」の一部の企画では信州アーツカウンシルとも連携し、企画を実施する事ができた。④発表の機会の確保：「ザワメキアート展2024」と「ザワメキ・

キャラバン in 大町」の開催が挙げられる。大町市で開催された「北アルプス国際芸術祭2024」と連携し実施した。⑤作品の貸出：ザワメキアートレンタル事業を開始した。センター開所から3年が経過し、発表の機会の確保については、「ザワメキアート展」を軸として充実した取り組みを行うことができている。今後の展望については、障害のある方のアート活動充実のため、人材育成に関わる講座等の企画、福祉施設へ発表のノウハウを提供するなど、企画を充実させていきたい。



「ザワメキ・キャラバン in 大町」街中アートの展示



「ザワメキ schoolキャラバン in 伊那文化会館」での鑑賞風景。近隣の伊那中学校の生徒に向けた鑑賞支援

実施一覧

●相談支援[相談窓口、4/1～3/31]●人材育成[ワークショップ「はまさんのしおり」ザワメキアート展2024 ネイチャー イン アウト(長野県伊那文化会館)10/5][映画上映「日日芸術」ザワメキアート展2024 ネイチャー イン アウト(長野県伊那文化会館)10/5][鑑賞支援研修、3/8]●関係者のネットワークづくり[県および信州アーツカウンシルとの連携会議、5/22～3/11(合計8回)][「感覚をノックする展」展示等協力、1/29～3/25(合計12回)]●参加する機会の確保[ザワメキアート展2024 ネイチャー イン アウト(長野県伊那文化会館)9/28～10/6 同展(大町市総合福祉センター)10/12～11/4 同WEB展、9/28～3/31]●情報収集・発信[取材、6/12～2/26(合計38回)][ザワメキ・キャラバン in 伊那文化会館、6/15 in 大町、10/12～11/4 in サントミューゼ、11/2～11/3 in 松本、11/10～11/23 in 長野、11/10～11/23 in 長野県立図書館、2/5～2/11 in アクティール、2/21～2/22][ザワメキ schoolキャラバン in 伊那文化会館(鑑賞支援型)10/1～10/4 in 大町西小学校、10/15～10/23 in 屋代小学校、11/28～11/29][北アルプス国際芸術

祭2024を障がいのある方と巡るモニターツアー(信州アーツカウンシル連携企画)9/23][ザワメキ・キャラバン in 大町MAP(信州アーツカウンシル連携企画)10/12～11/4][ふくしまルシェ、10/19]●その他[名店街のどうぶつを描こう(信州アーツカウンシル連携企画)9/16][ザワメキアートレンタル事業、12/3～3/31(合計17回)]

支援センター運営団体

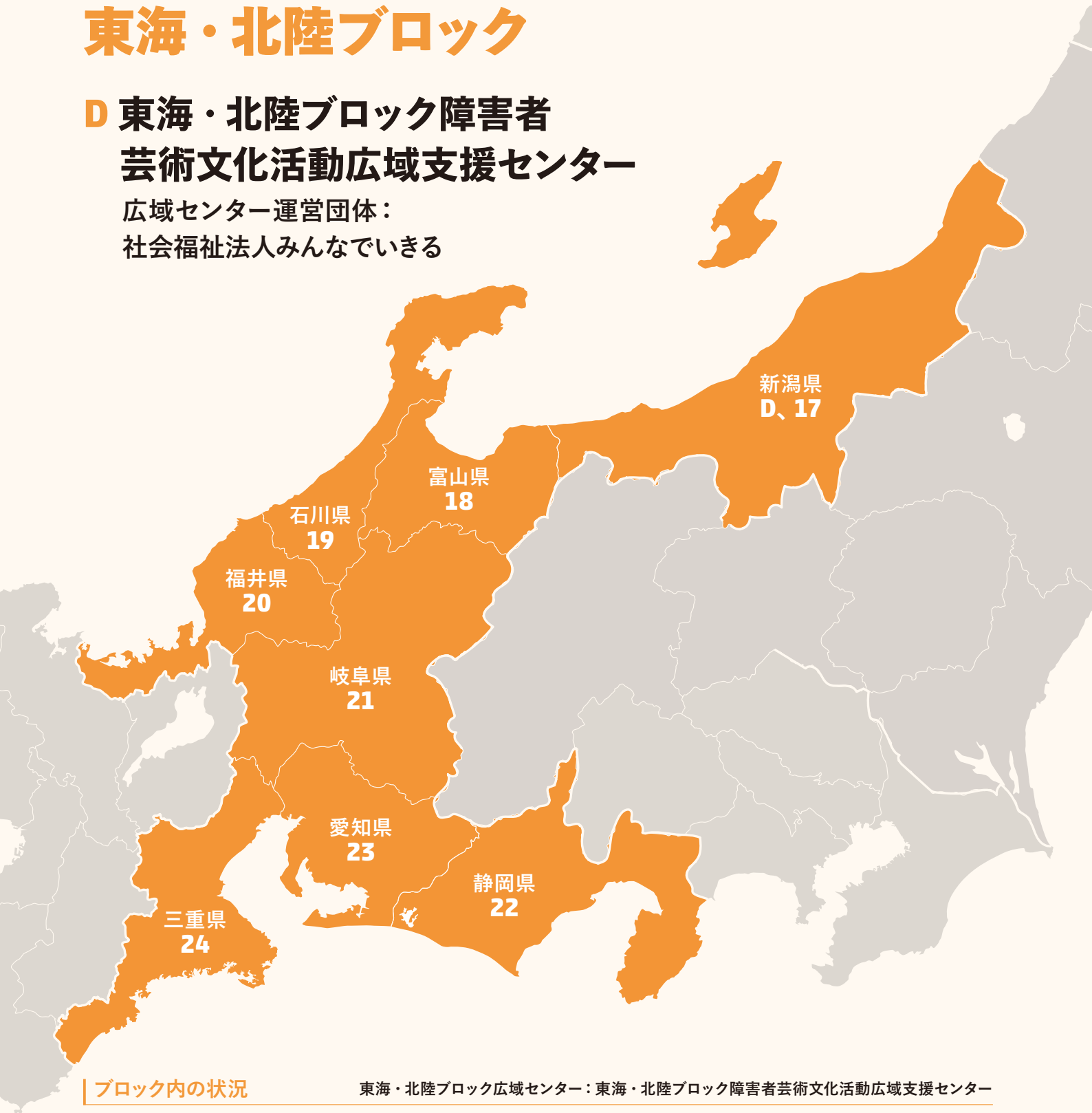
社会福祉法人長野県社会福祉事業団

「誰もが笑顔で輝く社会を創造します」を経営理念に、県内各所にさまざまな施設・事業所を設置し運営している。2022(令和4)年6月より、「ザワメキサポートセンター(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)」をオープンした。「ザワメキアート展」を継続して開催するとともに、作品の販売や著作権に関する相談支援、芸術文化活動に関する研修等を行い、障がいのある方や、その支援をされる方を幅広くサポートをしている。

東海・北陸ブロック

D 東海・北陸ブロック障害者 芸術文化活動広域支援センター

広域センター運営団体：
社会福祉法人みんなでいきる



ブロック内の状況

東海・北陸ブロック広域センター：東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

支援センターは、愛知県、岐阜県、静岡県、三重県、福井県、石川県、富山県、新潟県の8県全てに、広域センターは新潟県に設置されている。岐阜県では「『清流の国ぎふ』文化祭2024」が開催され、前例がないほど支援センターが大会と深く関わり、主催した展示会に天皇皇后両陛下が視察に訪れた。愛知県では、支援センターの実施主体が変更し、舞台芸術に関わる事業に注力した。静岡県では、毎年新たな取り組みにチャレンジしており、今年

度は音楽の鑑賞会を実施した。三重県では、センターの事業が年を追うごとに多様化し、取り組みの底上げが行われている。「三重県障がい者芸術文化祭」では、720点を超える作品の応募があった。石川県では、被災地支援と並行して他分野との連携を図った。福井県では、音楽・パフォーマンス事業を定期的に行い、富山県では、舞台芸術を推進するための人材育成事業を実施した。新潟県では、音楽および鑑賞支援の取り組みにチャレンジした。

新潟県

担当課：福祉保健部障害福祉課

17 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人みんなでいきる

富山県

担当課：厚生部障害福祉課地域生活支援係

18 富山県障害者芸術活動支援センターばーと◎とやま(BE=ART◎TOYAMA)

支援センター運営団体：特定非営利活動法人障害者アート支援工房ココペリ

石川県

担当課：健康福祉部障害保健福祉課

19 文化・芸術活動支援センターかける

支援センター運営団体：特定非営利活動法人地域支援センターポレポレ

福井県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

20 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと

支援センター運営団体：社会福祉法人ハスの実の家

岐阜県

担当課：環境生活部県民文化局文化創造課、健康福祉部障害福祉課

21 岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASCぎふ]

支援センター運営団体：公益財団法人岐阜県教育文化財団

静岡県

担当課：スポーツ・文化観光部文化政策課

22 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人オールしずおかベストコミュニティ

愛知県

担当課：福祉局福祉部障害福祉課社会参加推進グループ

23 あしよげぶセンター(愛知県障害者芸術文化活動支援センター)

支援センター運営団体：特定非営利活動法人ポパイ

三重県

担当課：子ども・福祉部障がい福祉課

24 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：公益社団法人三重県障害者団体連合会

東海・北陸ブロック障害者 芸術文化活動広域支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル101 ふ・ふ・ふのお店内

TEL：025-530-7264 FAX：025-530-7261

E-mail：info@niigata-artbrut.net URL：https://www.niigata-artbrut.net/



Pick Up! 「第3回ブロック会議」事業と評価は表裏一体



講師に渡真利紘一さんをお呼びした「第3回ブロック会議」の様子

ねらい 支援センターの運営基盤が整備されるにつれて実施する事業も多様化する一方、2022（令和4）～2023（令和5）年度にかけて、支援センターの事業数が急激に増えた。事業数の増加は決して悪いことではないが、支援センターの限られたリソースを適切に活用するため、実施する事業の意義や目的を、事業評価を通じて整理

内容 会議では、事業評価に関わる概論と取り組み事例の紹介およびグループワークを行った。各支援センターの事業を振り返り、担当者が大切にしてきたこと、疑問に感じたこと等を言語化し、評価とは何かを検討した。講師からは、行政等の他機関から求められる必須の評価基準と並行して、スタッフが支援センター事業にどのような価値を感じているのか、その価値概念を特定する

する必要があると考えた。併せて、支援センターの事業評価に用いる指標はどのようなものが想定できるのか、その指標をどのように測定するか、また指標を設定する際のプロセスを学ぶことが不可欠であった。集中力を要し、かつ個人ワークだけでは消化不良になることが予測できたため、集合型での会議の開催をめざした。

ことの必要性についてアドバイスをもらった。また、評価指標については、この価値概念を特定し、その価値を具現化するための要素を抽出していくことで設定できること、かつ指標は普遍的なものではなく、その都度更新していくものだと言われた。なお、会議は「『清流の国ぎふ』文化祭2024」に合わせ、岐阜市にて集合型で実施した。

今年度の課題と目標

2024（令和6）年能登半島地震の被災地におけるニーズの把握と、必要とされているサポートを検討する必要がある。また、「『清流の国ぎふ』文化祭2024」が岐阜県で開催されることが決定しており、大会をブロック全体で盛り上げていくことを目標とした。併せて、前年度に引き続き、舞台芸術の推進を最重点事業とした。2022（令和4）年度に作成した中期計画では、舞台芸術を

今年度の成果と展望

被災地支援では、サポートを希望した福祉事業所2ヶ所で延べ24回ワークショップを実施した。非日常のとにかく楽しい時間を提供することに注力した。「『清流の国ぎふ』文化祭2024」においては大会広報に注力するとともに、「第3回ブロック会議」を大会会期中に岐阜県内で実施し、ブロック内の支援センターから大会プログラムへの参加を促した。その会議の内容を事業評価とし、



「Do It!! 会場が鼓動する ビリーブ with DAI」（福岡県）パフォーマンス風景

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [アドバイザーの設置、4/1～3/31（合計39回）] [個別ヒアリングの実施、4/3～3/12（合計22回）] [ブロック研修会の実施（オンライン）5/31～2/26（合計5回）] [ブロック会議の実施（オンライン）5/31～2/26（合計5回）] [アートコミュ：文化芸術活動をより豊かにする場と人づくりのための研修会（オンライン）6/27～9/10（合計3回）] [実地研修の実施（オンライン）8/8] [あっぱれ ちよだ！ありがとうまつり、9/20～9/26] [からだからだんす からだえがくの実施、2/24～3/2] ●参加する機会の確保 [Handiplus Art Exhibition2024～異才があなたを救う～の実施、10/12～10/20] [ブロック内における展示会のコーディネート（静岡県・福井県・石川県）12/4～2/9] [ジャパン・ミュージック・ブリュット・フェスティバル Do It!! vol.05の実施、2/22～2/23] ●自治体における基本計画策定の推進 [自治体における障害者文化芸術活動推進計画策定の推進

推進するための人材育成に具体的に取り組む年度であったため、プログラムの実施とその効果を検証する必要がある。そのほか、愛知県の支援センターの実施主体が変更となったことからフォローが必要であった。全体的に支援センターの事業が増加傾向であり、評価に関わる取り組みも必要となっていた。

支援センターにおける評価の在り方について学んだ。舞台芸術の推進では、富山県で3回コースの人材育成事業を実施した。合理的配慮、さまざまな方が楽しめる舞台芸術の先進事例、ダンスワークショップを学ぶ機会を設け、その後、受講者が連携し、みんなが楽しめるディスコを開催した。



「演奏もトークもエッジがきいている 蔵太コーラ」（新潟県）出演者が演奏する様子

に関する研修の開催（オンライン）2/26] ●その他 [報告書の作成、4/1～3/31] [評価委員会の実施（オンライン）2/9・3/25] [舞台芸術の推進方法および評価軸の整理（オンライン）2/19] [障害のある方の舞台芸術推進のための人材育成に関わる検討委員会の設置（オンライン）3/18]

広域センター運営団体

社会福祉法人みんなできる

「つながりのイノベーション」をミッションに、新潟県上越市において高齢・障害・児童・総合相談と総合的に福祉事業を展開している。「すべての人々を孤独にさせない支援」「すべての人々が‘生きた証’を残せるように」をキーワードに福祉事業を通じて地域を創り続けている。

新潟県障害者芸術文化活動支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル101 ふふふのお店内

TEL：025-530-7264 FAX：025-530-7261

E-mail：info@niigata-artbrut.net URL：https://www.niigata-artbrut.net/



Pick Up! 「わがままな音 賑やかな風 Vol.01」の開催



「わがままな音 賑やかな風 Vol.01」で演奏する楽団メンバー

ねらい 前年度より相談を受けていた楽団の設立に注力した。「わがままな音」を奏でることが許される楽団をつくりたいという相談に対し、主訴が解決されることをめざしつつ、センターとして3つのねらいがあった。1つ目は、音楽活動を実施したい障害のある方の相談・ニーズのつ

内容 相談者から、楽団設立の手始めにスリーピースバンドを組みたいという話があり、障害のある方のバンド活動を先駆的に実施している「NPO 法人 jogo」（埼玉県）をつなげた。Jogo からライブ開催の提案があり、以下の4つをねらいとした。①体験したことのない「音楽の楽しみ方」を味わう、②立ち上げのサポートを受けながらどのような楽団にしていきたいかイメージする、③バンドの結成・楽

なぎ先をつくること。2つ目は、音楽活動のサポートに関するセンターの知見の蓄積。3つ目は、音楽活動を実施している団体の発掘・これまで関わりのなかったジャンルの関係者とのネットワーク化を図ることであった。

器やPA機材に触れることで必要なメンバーや楽器を検討し、音を奏でるための知識を習得する。加えて、④音楽活動を行っている個人・団体とつながりをつくることを注視し（不特定多数の方の目に触れる）野外で開催した。

楽団は設立され、モチベーションの高さから即座に埼玉県へ出稽古に行った。相談回数は延べ106回であった。

今年度の課題と目標

昨年度の展望で挙げた、舞台芸術活動推進の拠点づくりのために楽団の設立に向けて具体的に動いていく必要があった。加えて、未実施であった鑑賞の機会を実施し、センター事業の多様化と文化施設とのネットワーク化を図ることを目標とした。また、県下で文化芸術活動が普及されるために引き続きセンターと関わりが薄い地域を重点的にアプローチする必要があった。併せて、多

今年度の成果と展望

楽団が設立され、舞台手話通訳・字幕・音声ガイドつき演劇「メゾン」の公演を実施することができた。このことにより、支援センターの事業の幅の拡大と、文化施設等とのネットワーク化が図られた。次年度は、3年に1度開催する「新潟アール・ブリュット展」の開催年となる。この3年で積み上げてきた他事業を断絶することなく同

様化する相談に対し柔軟に対応できるよう相談体制の強化が必須であった。スタッフが安定して相談に対応するための体制強化と、相談事例の積み上げとその分析を行い、適切な対応を行うことが求められていた。事業を多角的に評価するために事業評価に取り組む必要もあった。

展示会に注力し、計画的に実施する必要がある。また、美術分野の取り組みは展示会を始め、新潟県内各地で実施されている。支援センターが実施する展示会に必要な要素を熟考した上で実施する必要がある。この3年間で支援センターとして大切にしてきたことや、本県の変化を色濃く表せる展示会にしたい。

左／当支援センターがフォローして行った地域の展示会
右／訪問調査の様子

実施一覧

●相談支援 [相談アドバイザーの設置、4/1～3/31] ●人材育成 [美術鑑賞ワークショップ、6/11] [展示会事前研修の開催、8/20] [展示会実地研修の開催、10/24] [文化施設向け観劇サポートワークショップの開催、11/14] [一般向け観劇サポートワークショップの開催、11/15] [権利保護情報交換会の開催（オンライン）12/19] [わがままな音セミナー vol.01の開催（オンライン）1/16] ●関係者のネットワークづくり [アート活動情報交換会の開催（オンライン）3/7] ●参加する機会の確保 [ものと語りオンラインの開催（オンライン）6/28・12/13] [しばた障がい者アート展の展示協力、7/23～7/28] [ガタケットへの出展、8/4] [アール・ブリュット in ギャラリーみつつけの展示協力、10/25～10/27] [わがままな音 にぎやかな風 Vol.01の開催、11/9]

[第22回新潟県障害者芸術文化祭への参画、11/10～11/17] [舞台手話通訳・字幕・音声ガイドつき演劇「メゾン」の開催、11/15] ●情報収集・発信 [情報発信（オンライン）4/1～3/31] [訪問調査の実施、5/11～11/27（合計10回）] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [協力委員会の開催（オンライン）3/12]

支援センター運営団体
社会福祉法人みんなでき

「つながりのイノベーション」をミッションに、新潟県上越市において高齢・障害・児童・総合相談と総合的に福祉事業を展開している。「すべての人々を孤独にさせない支援」「すべての人々が'生きた証'を残せるように」をキーワードに福祉事業を通じて地域を創り続けている。

富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま(BE=ART◎TOYAMA)

〒933-0115 富山県高岡市伏木古府元町2-5

TEL: 070-2643-0796

E-mail: beart.toyama@gmail.com URL: https://bearttoyam.jimdofree.com/



Pick Up! 障害のある方の舞台芸術促進のための人材育成研修会 『『ごうりてきはいいりょ』から『あくせすぶる』なイベントまで』



人材育成研修会の様子。それぞれの課題や心配を話し合うなかから新しい事業の企画が生まれた

ねらい 障害のある人の舞台芸術に携わってみたい、あるいは自身でなんらかの取り組みを始めてみたいと考えている方を対象に、実践研修を開催する。具体的な実践事例を学ぶとともに、ワークショップにおいて実際に

身体を動かす機会を設ける。知識を得るだけでなく、本研修を通じて受講者同士のネットワークを構築することも目的の一つとした。

内容 本研修会は年4回のシリーズとして、6月「バリアフリー映画上映と講演会」、7月「実践報告会」、9月「ダンスワークショップ」、11月には「シンポジウム」を実施した。参加者は、文化施設や文化団体の職員、福祉施設職員、テーマに関心のある方を対象として募集し、各研修会には、東海・北陸ブロック広域センターより舞台芸術アドバイザーの派遣を受け、企画・実施を行った。また、4回目の研修となる11月のシンポジウム「ART

MEETS HEART とやま」は地元テレビ局との協働で企画運営され、3回までの人材研修会の参加者を始め、福祉関係者、文化施設、デザイナー、ダンサー、DJとの連携の下に開催された。特に同シンポジウム内で行われた音楽イベント「みんなのだんだんダンスフロア」は、人材研修会でのつながりや発想が結実したかたちでの催しとなり、富山県内の障害者を対象としたダンスグループや美術支援関連など、約250名が参加した。

今年度の課題と目標

地域行政や文化施設、企業との連携を強化し、障害者の美術文化活動に関心を持つ人を増やすための人材育成事業と発信事業を展開する。また、支援対象の活動

に身体表現も取り入れ、より多様で多くの人にとって芸術活動への参加機会を増やす取り組みを行う。

今年度の成果と展望

年間4回にわたり、文化施設関係者を中心に参加者を募集し、「アクセシビリティ」をテーマとした人材育成研修に取り組んだ。研修会の中で広がったネットワークや、意見交換会で高まった夢や要望が、思いがけないかたちで身体表現に関する新たな事業の実現に向かい、つながりが作り出すパワーの素晴らしさを実感した。また、

地域企業3社との協働による発信事業を行うことができ、「企業×福祉×アート」の取り組みに継続性が生まれつつある。今後は、支援事業をより県民や当事者の関心、ニーズに沿った活動として運営していくために、県内の活動状況のアンケート調査等を進めていきたい。



左／地元の美術館で新たにスタートした県内の障害者アートを紹介する展覧会のシリーズ
右／シンポジウムのほか、作品展示や販売等も実施された「ART MEETS HEART とやま」

実施一覧

●**相談支援** [相談窓口、4/1～3/31] ●**人材育成** [障害のある方の舞台芸術促進のための人材研修会「バリアフリー映画上映会と講演会」6/27] [アートコミュ「創作活動・発表展示のためのノウハウ」7/1～10/22] [障害のある方の舞台芸術促進のための人材研修会「実践報告会」7/20] [障害のある方の舞台芸術促進のための人材研修会「ダンスワークショップ」7/20] [アートコミュ「アートとフクシのコラボレーン」7/26] [ART MEETS HEART とやま パネルディスカッション、11/9] ●**参加する機会の確保** [NANTANG ギャラリー個展シリーズ、4/1～3/31(合計4回)] [みらいアート あおーよ展、4/1～3/31(合計4回)] [「PO-OF PROJECT」5/11～7/30(合計8回)] [ぶりゅっと・とやま! みられ

展、7/23～8/3] [ART MEETS HEART とやま ありのままの作品展、11/9] ●**その他** [ART MEETS HEART とやま みんなのだんだんダンスフロア、11/9]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人障害者アート支援工房ココベリ

富山県立高岡支援学校美術部OBの卒業後の創作活動継続のため、美術部顧問等がつくった絵画グループが基となって、より支援の輪を広げることを目的に2010(平成22)年に設置された。地元伏木からの発信を大切にしながら、「つくる」「かざる」「つなぐ」「さがす」「まもる」「つたえる」の活動を展開している。

文化・芸術活動支援センターかける

〒920-1346 石川県金沢市三小牛町イ3-2

TEL：080-7484-9349 FAX：076-287-0886

E-mail：po0po0.kakeru@m.email.ne.jp URL：https://r.goope.jp/po0po0-kakeru



Pick Up! てまえみそ展



「てまえみそ展」展示会場（一部）

ねらい 本事業では主たる対象を福祉事業所としつつ、個人の作家の発掘にも注力し、可能な限り支援を行っていきたいと考えている。また、事業所に対しては、作品の出展にとどまらず、展示会そのものにより深く関わって

内容 毎年、石川県で実施される展覧会「てまえみそ展」は石川県で、石川県と東海北陸各県（新潟、富山、福井、岐阜、静岡、愛知、三重）の障害がある人たちが創作した「ちょっと自慢したい!」という思いのこもった「手前味噌」な作品を紹介している。

今年度は、新潟県で開催された「ものと語り」展を石川県版として実施した。作品を5点に絞り、出展者と打ち

もらうことをめざしている。作品と支援の関係にアプローチすることにより、アートに関する専門的な知識がなくても関わるができることを実感してもらう機会としたい。

合わせを重ねながら準備をした。また、会期中にトークイベントも実施した。「ものと語り」出展者に登壇していただき、初めての取り組みについて意見交換をした。個人作家4名のうち、3名が初めての出展となった。「アートレンタルいしかわ」の新規登録に応募のあった作品の中から出展された。

今年度の課題と目標

課題としては、主たる対象者である障害福祉事業所への効果的なアプローチができていなかった。研修や展示会についても、参加者や出展者も同じ顔触れになってい

今年度の成果と展望

発表の機会については、当支援センター主催の展示会のみならず、他県から出展依頼があり、より多くの新規の作者に参加してもらうことができた。それに伴い、事業所との関わりも増加して相談につながった。創作の機会についても、ワークショップの開催により障害の有無



子ども食堂イベント内でのワークショップでつくった木工アート

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [かけるの勉強会①、6/8 かけるの勉強会②、7/23] ●参加する機会の確保 [てまえみそ展、2/7～2/9] ●その他 [ワークショップ①木工アート（農福連携イベント内） 8/24 ワークショップ②木工アート（子ども食堂イベント内） 9/28 ワークショップ③絵画（ふれあいフェスタ内） 9/29 ワークショップ④木工アート（福祉のつどい内） 10/6]

た。今年度は、能登方面の事業所への支援も視野に入れながら、新たな対象者の開拓を目標とした。

にかかわらず参加ができ、交流にもつながった。人材育成については、研修の機会を十分に確保ができなかったことが反省点である。出展等を通して作者本人、ご家族、関係者等との意見交換ができたので今後につなげていきたい。



福祉のつどい内で行われたワークショップの様子

支援センター運営団体

特定非営利活動法人地域支援センターポレポレ

「障がい」がある当事者とその家族に対して、相談、情報提供、具体的な支援に関する事業を行い、地域社会の福祉に寄与することを目的に活動している。センターの名称である「かける」は、ヒト・モノ・コトにおけるさまざまな価値観どうしに橋を“かける”ことで、互いに違う価値観にふれ、新たな価値観が創造されることへの願いから。特に福祉関係者に対してのアプローチに力を入れている。

福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと

〒910-4103 福井県あわら市二面87-26-2

TEL：0776-78-6743 FAX：0776-78-6744

E-mail：center-fukui@hyougen.org URL：https://hyougen.org/



Pick Up! ①芦原温泉駅西口賑わい施設アフレアホール

「and Artist Collaboration Performance」

②人材育成企画 表現するということ Vol.5

「わたしはわたし～3つのアート現場から～」(実践報告と交流会)



ダウン症の子どもたちと家族のダンスユニット「シャイニースマイル」のステージ

ねらい ①今年度も地元あわら市の期待を背負い、JR芦原温泉駅アフレアホールにて「and Artist Collaboration Performance」を開催した。障害のある方々や地域の方々との共同開催をめざし、当支援センターの運営団体である「ハスの実の家」の利用者に加え、在宅障害の人や特別支援学校の児童・生徒の参加も増やしていく。常連の方々や駅の通行人、施設利用者にも鑑賞や参加を促し、言葉だけではなく共感と感動の場を創設する。

内容 ①レギュラーミュージシャンにフルート奏者とピアニスト、進行を担当するシンガーを置き、「ハスの実の家」の利用者やダウン症の子どもたちのダンス発表、ラップ、主張等を行う。また、地域のアマチュアバンド、トーンチャイム、オカリナ等のグループ演奏で、参加する全ての方々が共に歌ったり、踊ったり、合同演奏できるような企画を進めてきた。今年度は出演希望者や観客も増加し、開催を毎月土曜日（14：00～16：00）に変更。障害の

②重い障害があっても表現活動が社会とつながり、その可能性、魅力を通してそれぞれの個性を生かすことや、枠にとらわれない大切さを感じている人たちがたくさんいる。そうした人たちの実践報告や交流を通して、障害のある人たちの日々の生活から、その人のすばらしい表現を見つけること、表現のすばらしさをどのように社会に発信していけるかを学び合う。

ある人たちの表現と参加の場をさらに広げた。②「あとリエ風」「前進主義」「ハスの実の家」からのレポート報告を元に、質疑応答と交流を行った。助言者として、白石恵理子氏（滋賀大学教育学部教授）を迎え、障害当事者やその家族、支援者、行政担当者、芸術関係者、学生、地域住民といった多様な立場の参加者が意見を交わし、理解を深め合う場となった。

今年度の課題と目標

①県内における相談支援、②芸術文化活動を支援する人材の育成等、③関係者のネットワークづくり、④発表の機会の確保、⑤情報収集の実質的な取り組みを行う。人材育成のための研修会は、主催研修会、東海北陸ブロック・全国連絡会での学び、情報交換ミーティングと3

今年度の成果と展望

今年度はさらに各種の広範な取り組みが充実し、障害者事業所や関係団体を始め、県民の中に広く周知され、障害当事者を含め参加者も大幅に増えた。また、ホームページやSNS等を通じたりリアルタイムな情報提供で相談や企画・参加の問い合わせ、また既存の組織にとらわれない新たなネットワークが構築された。今後、昨年度も掲げた各種事業ごとに実行委員会や専門者会議等を広

層からなる豊富なプログラムを用意する。また、今年度も引き続きJR芦原温泉駅アフレアホールでの「and Artist Collaboration Performance」を月1回実施、広く障害のある人たちの発表の場の創設を行う。ホームページ、facebookなど、SNSにて情報発信を行っていく。

く呼びかけ、取り組みを確立していきたい。また、今年も東海北陸ブロック、全国連絡会、情報交換ミーティングに参加し、全国的な動向や新たな取り組みについて学び、交流を通して先進的な実践を深く確信できた。改めて「表現活動の可能性」を県民の中に広げていきたい。



左／ソプラニスタ・川本良太さんステージ。川本さんは特別支援学校を卒業後、養鶏場に働きながら声楽家をめざす
右／福井市「障がい者芸術文化祭 記念講演会」（協力事業）



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31(合計30回)] ●人材育成 [東海北陸ブロック会議・研修会等(オンライン)、5/31(合計3回)] [全国連絡会、全国情報交換ミーティング、6/27] [東海北陸ブロック会議、研修等、7/24～7/25] [表現するということ Vol.5 「わたしはわたし～3つのアート現場から～」8/30] [わがまな音セミナー Vol.1(オンライン)新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC 主催、1/16] [福井市「障がい者芸術文化祭」記念講演会(協力事業)2/9] ●参加する機会の確保 [and Artist Collaboration Performance、4/12～3/8(合計11回)] [第2回 Another Morning Festival 2024 in Fukui こどもたちの医療、教育、芸術をみつめて、行動する、11/23] [ふじのくに芸術祭 2024 障害者文化芸術部門ふぁいんダー作品公募展「北陸4県アート作品展」12/4～12/8] [「まるまるつながるアートてん ま

る」12/20～1/5] ●情報収集・発信 [一斉メール配信、4/1～3/31(合計11回)] [facebook 運用、4/1～3/31(合計171回)] [ホームページ運用、4/1～3/31(合計24回)] [お知らせ郵送、4/1～3/31]

支援センター運営団体
社会福祉法人ハスの実の家

1965(昭和40)年に創立され、23年間の無認可時代を含め、障害の重い人たちの日中活動の場として、また生活の場、支える場として、その人たち、家族、地域の皆様の願いを実現してきた。障害のある人たちのコンサート、文化・芸術活動をいつも真ん中に置いて活動し続けている。

岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASCぎふ〕

〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1F

TEL：058-233-5377 FAX：058-233-5811

E-mail：tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp URL：https://www.tascgifu.com/

**Pick Up!** アウトリーチ展「渾沌の中の調和Ⅳ『キャラの展』」
パネルディスカッション「アコーディオンのように、人に合わせた環境を作る仕事術」

左／箸袋やペーパーナフキンのデザイン 右／ボードゲームのパッケージデザイン

ねらい「アートで、まじわる。」という「TASCぎふ」のテーマを念頭に置きながら、次の2点をねらいとした。①鑑賞機会につながりにくい方々とのつながりを生むこと、②作家の新たな居場所づくりにつなげること。

アウトリーチ展では、地域のキープレイヤーとともにまちなかの店舗を展示会場にし、各店の個性や雰囲気に合わせて作品の見せ方をすることで、店主が主体的に参

内容 アウトリーチ展で会場になったのは関市内の商店街やその近郊にある13店舗。展示作品は、キャラクターやキャラクターらしき作品の中から、各店舗の店主が作品を選定した。展示をシリーズとして継続するなかで、作品の見せ方も変化した。以前は作品そのものを展示するのみだったが、作品をどのように見せるかを話し合い、パッケージや店内装飾など、店に合わせた展示

加できると考えた。また、パネルディスカッションでは、「人」を中心とした福祉事業所の環境づくりや、表現活動にみられる多様な視点や時間の使い方等が、一般企業にとっても新たな仕事の生み方や進め方のヒントになると捉え、福祉と接点のない企業を中心に参加を呼びかけた。作品を介して、人と人とがつながることを願って事業を計画していく。

をした。作者と店主が顔を合わせて検討したり、店主が自発的に福祉施設を訪問したり、本事業とは別に独自で事業所を巻き込んだマルシェを開催するといった動きもあった。トークイベントでは、一般企業や自治体関係者等が参加し、県外福祉事業所の「人」に合わせた事業展開を学び、アートが社会活動につながる視点を示すことができた。

| 今年度の課題と目標

今年度は「全国障害者芸術・文化祭」が岐阜県で開催された。この好機を捉え、これまでも行ってきた合理的配慮に基づいた舞台公演や各地域での取り組みを継続しつつ、より多くの方々に対して（障害のある人の表現への）参加の機会を増やし、関心や関係を持つ方が実効性のある活動へとつなげるため、2項目の重点目標を設定

| 今年度の成果と展望

①については、従来から引き続き、文字起こしアプリや筆談での対応や文字字幕、手話通訳を施した舞台等の実施に加え、車椅子ユーザーを対象とした来場アクセスのための動画を作成し公開した。また、舞台事業では関わる人同士が交流、意見交換をすることにより、多様な価値観を伝え合う場面を設定することができた。②につ

した。①「『清流の国ぎふ』文化祭2024」を通して、アクセシビリティ（情報保障、アクセス）に考慮した鑑賞や参加の機会を設け、魅力や多様な価値観を伝え合う。②各地域で活動する支援者の自立的、継続的な取り組みにつなげるためのサポートを行う。

いては、地域の方々が主導する役割の明確化や対面交流等を行うことで、より主体性を持った取り組みへとつながった。ただし、いずれも参加者や関係者が固定化しているため、今後は企画を公募するなど、新たな人や団体が参加できるよう機会拡充を行う予定である。

左／駅から「ぎふ清流文化プラザ」へのアクセス調査
右／アーティストトーク（高山市）

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [サポーター制度、4/1～3/31] [チャレンジ企画展「良ちゃんと私展」4/27～7/15] [茜部小学校人権教育カラフルタイム講演会、6/26] [恵那特別支援学校教職員対象研修、5/27・6/27] [渾沌の中の調和Ⅳ・トークイベント、10/1～10/25] [tomoniアートサポータープレゼンツ企画展 みんなで奏でるファッションショー、10/12] [YY☆?!♡鑑賞会、10/13・10/14] [県外施設見学、2/21] ●関係者のネットワークづくり [カフェ連携、4/1～3/31 (合計4回)] [出張ワークショップ、9/13] [エイブルアート展関連 オープンアトリエ、11/2] [出張オープンアトリエ+α、12/19] ●参加する機会の確保 [私のいってん!+つなぎふくらむ作品展 (県庁) 5/14～3/20 (合計13回)] [みんなのアート展、6/15～3/16] [障がい者実演芸術アウトリーチ事業、6/21・7/16] [TASCぎふコラボ展 (巡回展)ー手と精神ー、6/22～7/1、7/5～7/10] [みんなのもくもく作品展、7/30～8/5] [第48回全国高等学校総合文化祭 清流の国ぎふ総文2024 特別支援学校部門、7/31～8/2] [ワークショップNESTぼんやり撮影会 作品展、8/17～9/16] [三叉の下で、ゆる～いフェス、9/28] [いろいろなみんなの展覧会 大地に、つどう。10/11～10/15] [県民参加型舞台「マカニーとエルド」10/19 (合計2回)] [県民参加型舞台「赤いアスターと時空の旅」

10/20] [いろいろなみんなのステージイベント「不思議な再会」10/24 (合計2回)] [いろいろなみんなのステージイベント「ゆめぼっけ・スペシャルコンサート」11/10] [多様な有りよう展2024、1/17～2/18] [TASCぎふコラボ展vol.10 消防クリエイターと美術部の絵本づくり、1/11～2/24] [HIDAまちなかアート展、1/21～2/13] ●情報収集・発信 [アンケート調査、2/4] [ホームページ・SNS (Instagram、Youtube) 4/1～3/31 (合計3回)] [まじわる新聞、6/27・9/30] [まじわるラジオ、10/13・10/14] [記録集、3/30] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [協力委員会設置、10/11] [令和6年度報告書作成] ●その他 [オープンアトリエ、5/6～3/5 (合計9回)] [音楽ワークショップ、9/11] [画材バンク、4/1～3/31] [作品利用、4/1～3/31]

支援センター運営団体
公益財団法人岐阜県教育文化財団

県民文化および地域文化の振興と発展並びに健康づくりおよび生きがいづくりの推進を図ることにより、心身の健康と豊かさを実感できる「誇りあるふるさと」岐阜づくりに寄与することを目的としている。若者や障害者、地域の芸術文化活動の拠点として、ぎふ清流文化プラザの管理・運営を行っている。

静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町2-1-5 5風来館4階

TEL：054-251-3520 FAX：054-251-3516

E-mail：mirart@findart.jp URL：https://findart.jp/



Pick Up! パフォーミングアーツ Look@me!2024



「パフォーミングアーツ Look@me!2024」で会場一体となって歌って踊る様子

ねらい 障害のこと、障害のある人を知っていただき、相互理解の促進につなげることを目的とする。幅広く障害のある人の文化芸術活動を支援していく上で、絵画等の美術分野と比較して取り扱い件数が少ない舞台芸術分野にスポットを当て、そのなかでも鑑賞の機会を

内容 舞台芸術分野の発表の場として、毎年「パフォーミングアーツ Look@me!（ルック・アット・ミー）」と題した舞台発表の場を設けてきたが、第7回の今年度は「観ることを楽しむ支援」として、鑑賞の機会創出に取り組んだ。敷居が高い感覚のあるクラシックコンサートを家族や仲

提供する事業を計画した。障害のある人とその家族が安心して鑑賞およびワークショップに参加できるように配慮する。運営は多方面の専門家の協力を得て協働関係を築くことで、障害のある人の文化芸術活動の支援の輪を広げることにも寄与する。

間と一緒に安心して楽しむことができるイベントとした。客席で鑑賞するだけでなく、ステージが上がっての指揮者体験や客席を中心としたリトミック、合唱など、参加型のコンサートを実施した。イベントの様子は動画撮影し、静岡県主催の芸術祭に映像展示する。

今年度の課題と目標

文化芸術活動を通じて障害のある人の社会参加と、障害のある人に対する県民の理解促進を図るため、以下の3つの活動指標を掲げた。①文化芸術活動を支援する人材の育成に努める（指標：研修会などを3回以上開催）。②地域の障害のある人による表現活動の発表の機会や鑑

賞の機会を確保する（指標：県内東部・中部・西部地区で展示会を各1回以上開催、舞台発表を県内で1回以上開催）。③障害のある人が文化芸術活動に参加できる機会を増やし、支援人材の育成にも繋がるアウトリーチ事業を開催する（指標：オープンアトリエ等を県下8圏域で各1回以上開催）。

今年度の成果と展望

①障害のある人を取り巻く環境や支援状況等をテーマに、大学にて講義を行った（参加者：111名）。また、デザイン専門学校と連携し、授業の中で福祉事業所の福産品の商品開発を行った。②絵画展示会は東部地区4回、中部地区5回、西部地区6回の計15回開催。鑑賞の機会創出を1回開催。障害のある人にも安心してコンサートを鑑賞し、ワークショップ等にも参加できるイベントを

開催した。また、その様子をSNSや障害者芸術祭等で映像展示した。③アウトリーチ型のオープンアトリエ等を8圏域で合計42回開催し、参加者は延べ683名となり、アート活動の裾野を広げる取り組みとなった。このような取り組みを継続することで、障害のある人の文化芸術活動を支援していきたい。



左／沼津港大型展望水門「びゅうお」での展示会の様子

右／音楽ワークショップの様子



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31（合計97回）] ●人材育成 [文化芸術にかかわる研修等、4/1～3/31（合計4回）] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会の設置（オンライン）4/1～3/31（合計4回）] ●参加する機会の確保 [みらーと風を創るひとたち展等、4/1～3/31（合計15）] [パフォーミングアーツ Look@me!2024、11/16] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和6年度運営事業成果報告書、2/1～3/31] ●その他 [オープンアトリエ・ワークショップ、4/1～3/31(51回)]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人
オールしずおかベストコミュニティ

2010(平成22)年に「障害のある人の働く笑顔で、福祉と企業、地域の心をつなぎます」を理念に、障害のある人の働くことの支援を目的に誕生した。当法人では、障害のある人がその能力と適性に応じた働く場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような共生社会の実現をめざすように支援している。

あしよげぶセンター(愛知県障害者芸術文化活動支援センター)

〒462-0842 愛知県名古屋市中区志賀南通 2-51

TEL : 052-938-9344

E-mail : window@aichiaccsc.com URL : https://www.aichiaccsc.com/



Pick Up! ファッションショー&ディスコ Make up! Dress up! Wake up!



「ファッションショー&ディスコ Make up! Dress up! Wake up!」出演モデル 撮影：岩田隼之介

ねらい 脱着のしやすさが優先となり、好みの服を着たり、お洒落をしたりすることが叶わない障害者は多い。また、夜遊びを楽しんだり、外出が叶わない障害者も多い。本事業では、好きな服を着て、メイクをして、ポーズをして注目を集める、そしてディスコで遊ぶという体験を通し

内容 モデルは、小学生以上の障害のある方を対象として、着物コースと洋服コースに分けて募集した。本番に向けて、それぞれ複数回のワークショップを重ねた。講師がモデルに着てみたい服、色や柄の好み、身体的な特徴などを聞き取り、リメイクや着方を考案した衣装を試着し、最終回にはその衣装でポーズの練習をした。カーペットの上を歩いて立ち止まりポーズをとるという一律の動きを倣うのではなく、その人の持つ動きや特性を

て「わたし」という存在の証明と顕現をめざす。また、ワークショップの開催エリアである瀬戸市近隣の芸術活動への関心度を観察しながら、ネットワークの構築、支援者や関わるアーティスト、スタッフの理解を促進し、協力者の増加もねらう。

取り入れ、それに合わせた演出を練った。企画制作者として、一貫して「発表会ではなく芸術的なショーである」ことに注力し、モデルやスタッフにもそのように伝え続けた。本番は大勢の観客が来場し、モデルはそれぞれに最大限のパフォーマンスを披露。客席は吐息や歓声、涙に包まれた。ショーの後のディスコタイムは、モデルも観客もスタッフもまぜこぜになって踊った。

今年度の課題と目標

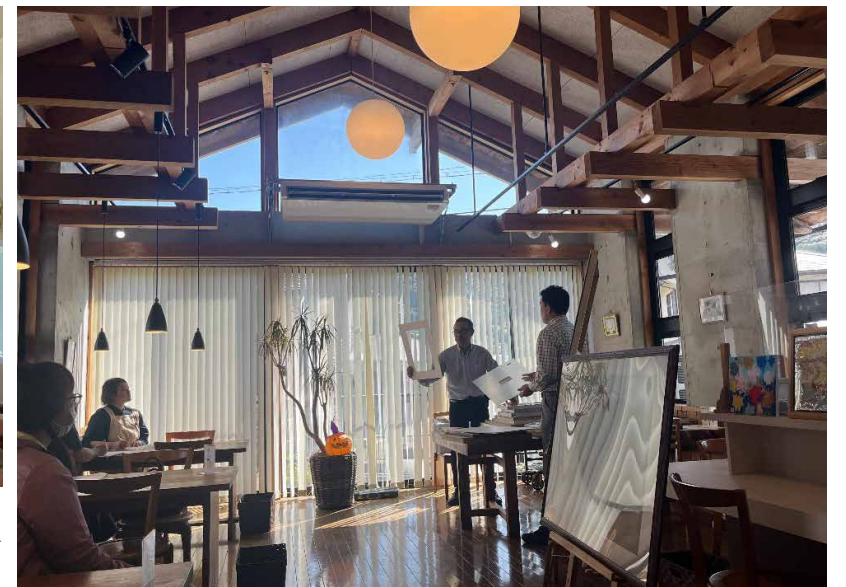
課題として障害のある人の芸術文化活動に対する中間支援者の不足、舞台芸術について劇場との連携不足が挙げられる。目標は、他分野との連携を広げ、根本的な問いである「障害はどこにあるか?」や「アクセシビリ

今年度の成果と展望

本事業で諸室を利用した際、土床面の保護のために通常は靴を脱いでの利用が基本となっており、そのため当初は車椅子での入室が難しいとの案内を受けた。そこで、車椅子は靴のように容易に履き替えることができないことを伝えたところ、入室が認められることとなった。主に名古屋市で活動してきた当支援センターを運営する私たち法人にとって初めての経験であり、地域や施設によって認識の違いがあることを実感する機会となった。また、施設を利用する障害者の数や、障害のある人の芸

ティ」について学び合い、中間支援者を育成することによって、障害のある人の文化芸術活動のサポートを適確に行えるようにすることをめざす。

術活動自体が少ないのではないかとという気づきにもつながった。インクルーシブな社会への早道は、さまざまな場所に障害当事者と共に実際に外向くことであると認識した。今後もこのような認識の下、活動をしていきたい。また、全ての事業を通して人材育成とネットワークの構築、情報収集に注力したが、その成果が出たのか、参加者の意識の向上や情報交換の様子が見られた。当支援センターとしても各地域の状況把握ができたので、今後も継続していく。

左/「福祉と教育をなめらかにするお話し会」実施風景
右/「額装・展示方法・ミュージアムショップ的なお店作り講座」レクチャーの様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [インクルーシブな社会づくり研修～障がいのある人が安心して鑑賞できるコンサートの作り方～、8/22] [額装・展示方法・ミュージアムショップ的なお店作り講座、10/15～1/21(合計3回)] [演劇的コミュニケーションワークショップ、11/3～1/5(合計4回)] ●関係者のネットワークづくり [福祉と教育をなめらかにするお話し会、12/1] ●参加する機会の確保 [アウトサイダーアート展ディスプレイット、7/30～8/4] [ファッションショー&ディスコ Make up! Dress up! Wake up! 8/18～11/16(合計8回)] [あいちアール・ブリュット障害者アーツ展舞台発表、9/14] [からだからだんす、1/11～3/2(合計5回)] [からだからえがく、2/24～3/2]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人ポパイ

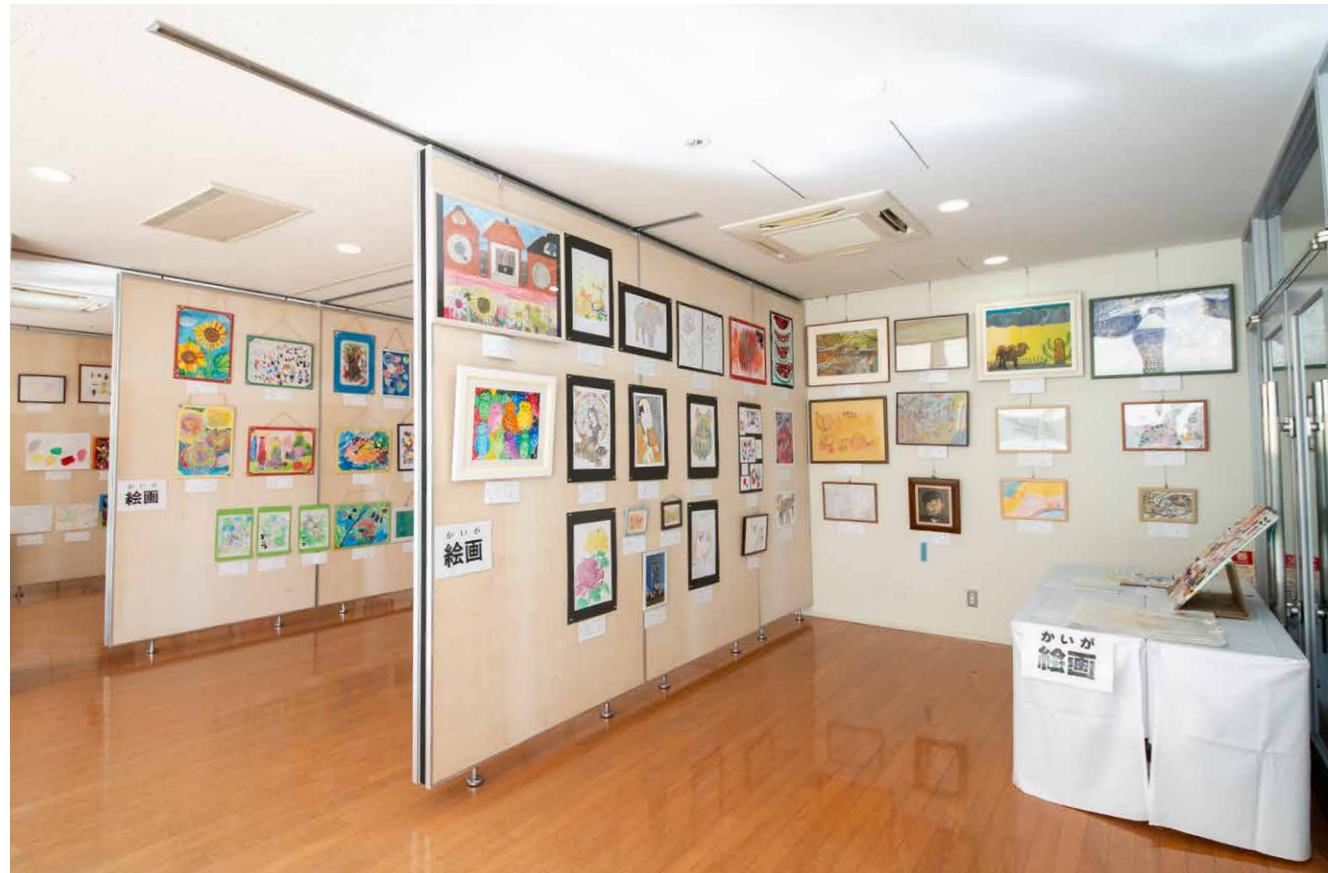
愛知県名古屋市を拠点に、障害者の地域生活を広くサポートし、生活の向上と地域福祉の増進に寄与することを目的としている。法人の活動コンセプトである「もーやーこ(この地方の方言で“分けっこ”“持ち寄り”の意味)」をキーワードに、多くの方々からアイデアや資源を持ち寄り、分け合うことで持続可能な地域を育み、障害者の生活そのものを大切に、芸術活動、就労機会の創出、存在と価値の向上のため、事業所内に留まることなく様々な企画を展開している。

三重県障がい者芸術文化活動支援センター

〒514-0113 三重県津市一身田大古曾 670-2 三重県身体障害者総合福祉センター内
TEL：059-232-6803 FAX：059-231-7182
E-mail：info@mie-asc.jp URL：https://mie-asc.jp/



Pick Up! 令和6年度 三重県障がい者芸術文化祭



「令和6年度 三重県障がい者芸術文化祭」会場（1階）風景

ねらい 作品展は8つの部門があり、応募された作品全てを展示するというコンセプトで行っている。表現活動を行いたいと考えている障害者・障害者施設にとって「最初の発表の場」として気軽に参加できることをねらいとしている。さらに、審査において各部門の専門家に作品を見てもらえること、受賞作品は約1年間巡回展・常設展で展示され、多くの人の目に留まることから、かつ

内容 応募作品は700点を超え、津市白山総合文化センターをほぼ全館使った大規模作品展となった。作品出展数が過去最多だったことについて、参加者からは「たくさんの仲間の作品に刺激を受けた」、協力者や一般来場者からは「見応えがあった」「規模に驚いた」「素晴らしい作品がたくさんあり心を動かされた」と高い評価を

て応募・受賞した方も引き続き出展したいと思えるような「芸術文化活動の励み、1年の目標となる一大イベント」としての役割も担っている。近年、人々が本来有する創造性が発揮された文化芸術の作品が高い評価を受けており、障害のある方のアートの素晴らしさ・多種多様さを広く県民に周知するイベントとしての役割も担うようになっている。

受けた。過去最大の出展数ということで、テレビ等の報道関係者や文化関係者からも関心が寄せられたため、取材を受けたりSNSに掲載されたりと開催を広く発信してもらうことができた。初めて参加した方は、「みえアールブリュット」等の他のイベントにも参加いただけるようになり、センターと参加者との間で交流が深まった。

今年度の課題と目標

センター開設当初からの課題として、参加者からの評価が高くリピーターも多い「三重県障がい者芸術文化祭」や「みえアールブリュット」に対して、「知らなかった」「もっといろいろな方に参加してほしい」という声が来場者アンケートに毎回挙がるがあった。今年度はチラシやポスターの配布箇所を増やし、ホームページ・市のイベントメディア・SNS等のウェブ媒体に積極的に掲載、

今年度の成果と展望

「令和6年度三重県障がい者芸術文化祭」には去年を上回る2,400人もの来場者があった。来場者アンケート253枚のうち、55%が初めて来場した方で「今まで知らなかったが感動した」といった感想がほとんどであった。2会場で行った「みえアールブリュット2025」でも、県文化振興課や会場（文化施設）、地域の文化関係者にSNS等を使った開催のアピールをお願いした結果、学生や教員、



「みえアールブリュット2025」亀山会場

さらに県の広報誌やテレビ・ラジオ放送等でも開催をアピールした。また、福祉関係者以外の参加が少ない傾向がある点も課題であったため、県の文化振興課や文化施設の運営団体に芸術文化祭実行委員会に参入してもらい、障害の有無にかかわらず、芸術文化に親しめるようなイベントをめざして事業を計画した。

市役所職員や議会議員、文化施設をよく利用する一般の方、仕事や趣味で芸術活動を行う方といったさまざまな方の来場があり、来場者数も両会場とも過去最高となった。これらの結果から、芸術文化活動の発表の場を求めている障害者の方が多いこと、そして福祉関係者に留まらず、幅広い方に来場してもらい、障害者アートの素晴らしさを伝える必要があることが分かった。



「みえアールブリュット2025」津会場

実施一覧

●相談支援 [アートサポーターによる相談支援、4/1～3/31(合計21回)] ●人材育成 [講演会「すべては幸せを感じるために～やまなみ物語～」7/21] [演劇を使ったコミュニケーションワークショップ 演劇でみんなで遊ぼう! 8/26・8/27] [こころのバリアフリーセミナー～障がいの有無にかかわらず誰もが暮らしやすい社会をめざして～、12/15] ●参加する機会の確保 [三重県障がい者芸術文化祭受賞作品 常設展示、4/1～3/31] [ART BRUT CAFÉ 2024、7/16～7/28] [令和5年度障がい者芸術文化祭受賞作品展 (パラミタミュージアム) 8/17～8/28] [第4回 今を生きる展、8/31～9/1] [HandiPlus-Art2024 ～異才があなたを救う～、10/12～10/20] [令和5年度障がい者芸術文化祭受賞作品展 (伊勢市展と同時開催) 10/22～10/27] [令和6年度 三重県障がい者芸術文化祭、11/22～11/24] [栞&あゆみのアートフェスタ Magic of Colors ～色の魔法展～、12/7～12/20] [ステップアップカフェ ファイナルイベント～10年間の感謝をこめて～(展

示協力) 12/18] [みえアールブリュット (亀山会場) 1/22～1/26] [令和6年度障がい者芸術文化祭受賞作品展 (三重県庁) 1/27～1/31] [みえアールブリュット (津会場) 2/14～2/17] [2025 みんながアーティスト展 Vol.3 RAINBOW、3/15～3/27] ●その他 [小さき花の音楽会 vol.11 斉藤守也 (fromレ・フレール) バリアフリーコンサート with タニケン (アドバイザー協力) 10/13]

支援センター運営団体

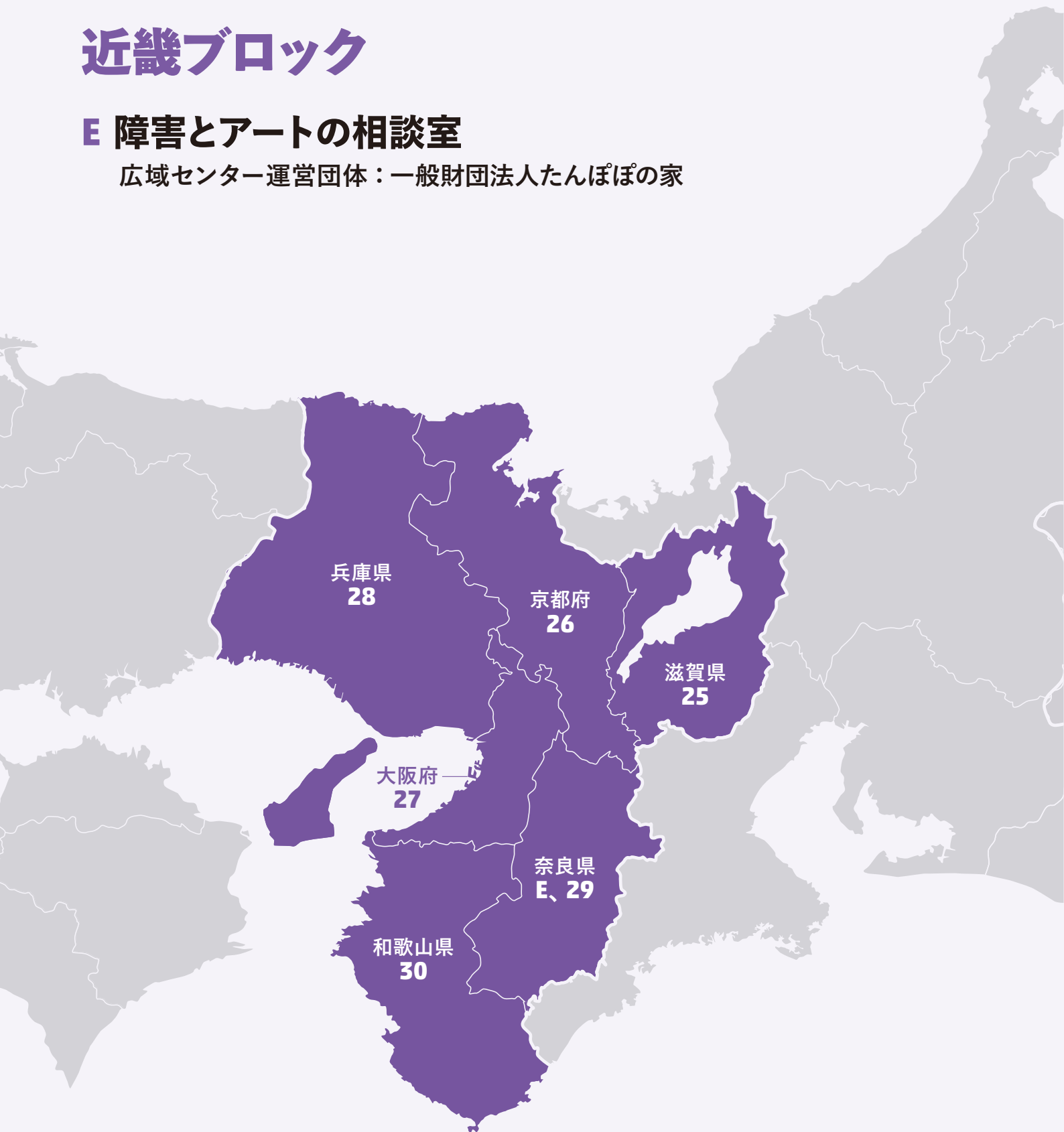
公益社団法人三重県障害者団体連合会

県内の市町障害者団体で構成しており、「ノーマライゼーション」の理念のもと、障害者の自立と地域社会への参画を推進する事業を展開している。2012(平成24)年度から「三重県障がい者芸術文化祭」を開催し、障害者の芸術・文化活動の活性化を図り、2020(令和2)年から三重県障がい者芸術文化活動支援センターを運営している。

近畿ブロック

E 障害とアートの相談室

広域センター運営団体：一般財団法人たんぽぽの家



滋賀県

担当課：健康医療福祉部障害福祉課

25 アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人グロー

京都府

担当課：健康福祉部障害者支援課

26 art space co-jin

支援センター運営団体：きょうと障害者文化芸術推進機構

大阪府

担当課：福祉部障がい福祉室自立支援課社会参加支援グループ

27 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

支援センター運営団体：ビッグ・アイ共働機構

兵庫県

担当課：福祉部ユニバーサル推進課

28 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：兵庫県福祉部ユニバーサル推進課

奈良県

担当課：福祉医療部障害福祉課

29 奈良県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：奈良県福祉医療部障害福祉課

和歌山県

担当課：福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

30 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

支援センター運営団体：和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

ブロック内の状況

近畿ブロックは、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の全府県にセンターが設置され、各支援センター同士の連携・情報交換もできるようになった。6つのセンターのうち兵庫県、奈良県、和歌山県については、県が直営で運営をしているメリットを生かし、県の障害福祉と文化芸術の連携を意識しながら障害のある人の芸術文化への参加を増やしているが、障害や文化といったジャンルを超えた多様な団体との連携が今後の活

近畿ブロック広域センター：障害とアートの相談室

動強化のポイントである。また、担当職員が交代するセンターも増えていることから、職員の異動に伴う引き継ぎが継続運営の鍵となる。ノウハウを持っているほかの支援センターとも連携し、ブロック内の支援の質と幅を広げていくことが今後必要である。また、2025（令和7）年は大阪・関西万博が開催されることもあり、大阪府をはじめとした近隣のセンターが関連企画に取り組んでおり、国際的な芸術文化活動の成果が期待されている。

障害とアートの相談室

〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4

TEL：0742-43-7055 FAX：0742-49-5501

E-mail：artsoudan@popo.or.jp URL：https://artsoudan.tanpoponoye.org/



Pick Up! 公募企画「S-1グランプリ まだ見ぬパフォーマーを求めて!」



「S-1グランプリ」で大賞を受賞した、たむちゃんさん(奈良県)の新聞を読むパフォーマンス 撮影：仲川あい

ねらい 障害のある人のアート活動に関するサポートにおいて全国的な課題とされてきた、舞台芸術活動における発表の機会の少なさという点にアプローチすることをめざし、パフォーマンスの公募事業を実施した。公募にあたってはジャンル不問とし、いわゆるダンスや音楽といった専門的な指導等が必要なパフォーマンスだけでなく、幅広

内容 公募に当たっては、20組のパフォーマーから、日常の中で生まれるコミュニケーションを生かしたパフォーマンスや漫才、音楽やダンスを組み合わせた作品等の応募があった。障害のある人も含め、多様な背景を持つ審査員たちによる審査を経て8組を選出した。その後、茨木市文化・子育て複合施設「おにクル きたしんホー

い取り組みが参加できるよう心がけ、遊びや関わりあいから生まれる表現など、ジャンル分けが難しいパフォーマンスにも焦点を当てた。またパフォーマーの数は5名まで、発表の時間は5分までとし、既存の施設や団体のような独自で発表の機会を創出できるパフォーマーではなく、個人の表現等にフォーカスを当てることをめざした。

ル」にて、8組が実際にステージ上でパフォーマンスを発表する「グランプリ決定ステージ」を開催した。約80名の来場があり、グランプリを含む各種の賞を決定し、表彰を行った。実施にあたっては、近畿ブロックの各府県の支援センターに広報の協力をいただき、公募から発表まで近畿ブロック全体に周知をした。

今年度の課題と目標

近畿ブロックは例年、支援活動が盛んな地域とされているが、現場には多様なニーズが存在し、それらが共有されにくいという状況がみられた。そこで、まずは各支援センターと、可視化された課題を共有することをめざした。具体的には、ブロック内を対象に実施したアンケー

今年度の成果と展望

和歌山県、奈良県の支援センターと連携し、それぞれの地域で福祉、文化芸術、地域づくり等に関わる団体と協議する場を持った。和歌山県では、その後企画された障害とアートに関する相談会の実施もサポートし、地域でのネットワークの充実や、ニーズの把握につとめた。また、ブロック内を対象とした「障害とアート」に関するアンケートと訪問調査を実施した。これらの意見交換やア

トおよび訪問調査の結果を各支援センターと共有した。また、担当者の交代等で近畿ブロック内で特にサポートが必要な和歌山県、奈良県の支援センターとの連携をはかり、和歌山県、奈良県各支援センターの地域でのネットワークを広げることをめざした。

ンケートから現場のニーズとして明らかになったのは「職員のスキルアップ」「場所と人の確保」「活動地域での異分野連携」「効果的な情報発信」「高齢の方でも参加できるアート活動の取り組み」「個人で活動するアーティストの支援の強化」であった。各支援センターの今後の取り組みへのヒントとなるよう、継続して情報共有をしていく。



左／「障害とアートのラウンドテーブル in 和歌山」実施風景

右／芦屋市立美術館を会場にして行われた視覚障害のある人、ない人による対話型の鑑賞ワークショップの様子



実施一覧

●各支援センターに対する支援 [ブロック内アンケートおよび訪問調査の実施 (オンライン) 7/12～8/18] [イベントサポート (兵庫支援センター) 8/17] [障害とアートのラウンドテーブル、11/12～3/6 (合計3回)] [出張相談会の実施、11/30～3/26 (合計4回)] [訪問調査の実施、3/14～3/17 (合計4回)] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [近畿ブロック研修会 (オンライン) 5/10～3/11 (合計4回)] [障害とアートの相談室 2024 トーク Vol.1,2, 5/13・6/2] ●ブロック内の連携の推進 [ブロック連携会議の実施、5/10～3/12 (合計4回)] ●参加する機会の確保 [S-1グランプリ、8/9～12/6] ●自治体における基本計画策定の推進 [奈良県の計画策定への参画、5/1 (合計2回)] ●その他 [評価委員会の設置

(オンライン)、7/19・3/27] [障害とアートの研究会 (オンライン) 10/15～1/19 (合計5回)] [オープンアトリエの実施、11/12・3/8]

広域センター運営団体 一般財団法人たんぽぽの家

ソーシャル・インクルージョンをテーマに、アートの社会的意義や市民文化について問いかける事業を実施している市民団体。1973 (昭和48) 年より活動を開始。奈良を拠点に国内外のネットワークを通じ、障害のある人のアート活動支援事業や新しい仕事づくり、ケアの文化づくりに関するさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。

アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2

TEL：0748-46-8118 FAX：0748-46-8228

E-mail：artbrut_info@glow.or.jp URL：http://info.art-brut.jp/



Pick Up! 第21回滋賀県施設・学校合同企画展ing…～障害のある人の進行形～



実行委員会で展示する作品を鑑賞し、共有する様子

ねらい 「ing展」の実施を通して、障害のある人の作品を発表する機会を創出する。展覧会開催にあたっては、準備を実行委員会形式で行うことで、障害のある人を支援する人の学びの機会と参加者同士のネットワークの構築をめざす。

内容 「ing展」は、滋賀県内の福祉施設や学校、地域の造形教室と実行委員会形式で実施する展覧会で、今回が21回目の開催となった。実行委員会はふだんから作家の活動や生活を支える支援者で構成されており、支援者ならではの視点で作品の魅力を引き出す展示が行われた。

実行委員会形式を採る本事業では、福祉施設全体での人手不足の影響を大きく受け、前年度の参加団体から9団体減り、20団体の参加となった。しかし、例年より少

ない人数であることを活かし、実行委員一人ひとりの意見が反映されることを心掛けた。具体的には、展示構成を考えるだけでなく、広報物のデザインについてデザイナーと意見交換する機会を設けたり、ワークショップの内容を検討した。また、鑑賞サポートの一環として、展覧会場に設置する「やさしい作品ガイド」を作成するなどさまざまなかたちで実行委員が関わり、意見交換が活発に行われた。

ない人数であることを活かし、実行委員一人ひとりの意見が反映されることを心掛けた。具体的には、展示構成を考えるだけでなく、広報物のデザインについてデザイナーと意見交換する機会を設けたり、ワークショップの内容を検討した。また、鑑賞サポートの一環として、展覧会場に設置する「やさしい作品ガイド」を作成するなどさまざまなかたちで実行委員が関わり、意見交換が活発に行われた。

今年度の課題と目標

当支援センターで実施する活動を通して、人と人とがつながり、交流の機会となることをめざした。対面で開催する研修や実行委員会では、グループワーク等を積極的に取り入れ、ネットワーク構築の場となるよう事業を実施した。

今年度の成果と展望

複数の団体が合同で行う事業や、実行委員会を組織して行う事業が本格的に再開した1年であった。当支援センターの活動では、人と人がつながることを大きな柱の一つとしており、その実践を進めることができた。支援センターの機能強化事業の展開においては、県内の文化施設との関係を深めることができた。次年度は、新たに構築した関係性を持って個別の訪問、相談支援を行っ

併せて、2024（令和6）年4月1日から、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたことに伴い、文化施設における障害のある人のサポートについて、理解が深まることをめざした事業を計画した。

ていきたい。「人と人をつなぐ」「交流の場を設ける」ことには引き続き力を入れ、これまでに生まれたつながりをさらに広げつつ、障害のある人とその関係者のニーズに沿った取り組みを行っていきたい。また、文化施設や実演団体が行う鑑賞サポートについても、具体的な取り組みにつなげられるよう支援を継続していきたい。



左／研修で体験した字幕タブレット

右／「バリアフリー映画会」実施風景



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [芸術活動に関する訪問調査、7/20～10/4（合計6回）] [BKCウェルカムデー、11/10] ●人材育成 [鑑賞サポート研修「舞台演劇公演における“合理的配慮”の取り組みを考える」8/29・8/30] [オンライン研修「芸術活動支援のためのプログラム」11/13・12/5] [舞台発表研修、1/22～3/15（合計3回）] ●関係者のネットワークづくり [第21回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、7/18～3/13（合計7回）] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [協力委員会、8/20～3/11（合計3回）] ●参加する機会の確保 [アートフェア、6/22～6/23] [舞台芸術企画「シャイン!!ワークショップ」8/24～2/9（合計4回）] [第21回滋賀県施設・学校合同企画展ing…～障害のある人の進行形～、12/21～3/2] ●情報収集・発信 [情報発信（オンライン）4/1～3/31（合計136回）] [メールニュースの発信、

合計5回] ●その他 [バリアフリー映画会、5/11～3/8（合計11回）] [NO-MA展覧会における鑑賞サポート、7/27～3/2（合計3回）] [点字ワークショップ、8/10]

支援センター運営団体 社会福祉法人グロー

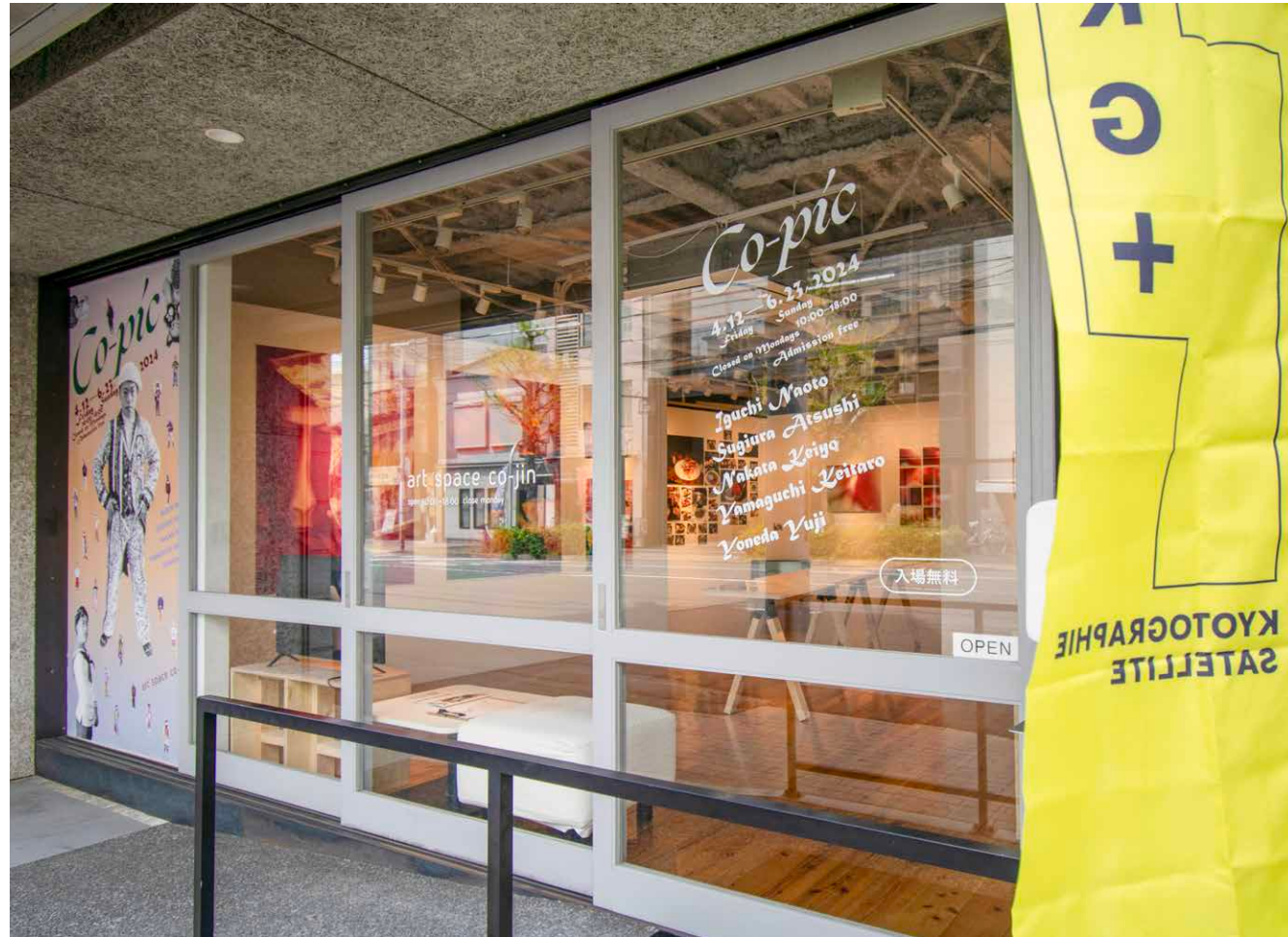
「糸賀一雄記念賞音楽祭」の事務局として、県内で表現活動ワークショップの立ち上げや運営をサポートしてきた。また「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」では、数多くの企画展を開催している。2012（平成24）年「アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター」を開設、障害のある人が安心して芸術文化活動ができる環境づくりや人材育成事業等を行っている。

art space co-jin

〒602-0853 京都府京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83 レ・フレール1階
 TEL：050-1110-7655 FAX：050-1110-7655
 E-mail：info@co-jin.jp URL：https://co-jin.jp/



Pick Up! 企画展「Co-pic」



企画展「Co-pic」

ねらい「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」と連携する公募型アートフェスティバル「KG+」に参加することで、いままですら当支援センターに来たことのない人、障害のある人の表現に触れたことのない人たちに来場を促すことをめざす。また、障害のある人の表現活動として写真やカ

内容「Co-pic」では、京都府内外から独自の表現を行っている、井口直人氏、杉浦篤氏、中田啓瑛氏、山口慧太郎氏、米田祐二氏の5名の表現を紹介した。企画展タイトルの「Co-pic」は、「art space co-jin」+「picture」を合わせた造語。作品のほかに制作の様子を取材した記録映像や、作家紹介のテキストを合わせて展示すること

メラを用いることが多いものの、当支援センターでは紹介する機会が少なかった。そこで、本企画においては撮影・現像に留まらない写真表現の広さを伝えるべく、京都府内外の作家を紹介する。

で、「表現」や「作品」といった枠組みでは捉えきれない景色を紹介した。「KG+」に参加したことで、新たな来場者層を獲得し、63日間の開催で892名の来場があった。また、本展をきっかけに展示作家のうち3名が作品集に掲載されるなど、展示後の展開もあった。

| 今年度の課題と目標

2023（令和5）年度からの継続した課題として、障害のある人の表現を未だ見たことがない人、センター運営団体である当機構の取り組みを知らない人が多くいる現状がある。このため、これまで関心がなかった層にも作品の魅力や情報を伝える必要性があると考えている。障害のある人の作品を常時鑑賞できる場所として、ギャラ

| 今年度の成果と展望

企画展示では亀岡市、京田辺市、長岡京市、舞鶴市など、京都市以外で活動する作家を取り上げ、調査範囲の偏りの是正を続けている。また、「KG+」での企画展「Co-pic」では、福祉関係者だけではなく美術ファンの来場につながった。広報活動の不足に対しては、SNSの投稿や動画の公開数を増やした。冬に開催する「共生の芸術

リー内で定期的に展覧会を開催し、障害のある人の作品や表現の発表機会を確保する。また、多くの府民が作品に親しめる機会を増やすため、アーカイブ作品の充実、作品発表の場を多様な場所への拡充すること、さらにこれらの活動を広く周知し、多くの人にして知っていただくことを目標とした。

祭」では2年ぶりとなる京都市内での実施となったが、SNSをきっかけとした来場も少なくなかった。ほかに、参加型のイベントやギャラリーツアーの複数回実施するなど、展示以外の要素を充実させた。スタッフ数の減少により休廊日を2日間に増やしたが、来場者の大幅な減少は見られず、一定のニーズが存在することを感じている。



左／企画展「Co-jin Collection - コジコレ - No.8 表現のてざわり」
 右／企画展「しもむら名作劇場ギ」



実施一覧

●相談支援 [相談事業、4/1～3/31] ●人材育成 [2024年度 co-jin 講座 vol.1「福祉施設における表現とデザインの関わりについて」(オンライン) 8/22 講座 vol.2「展覧会で使う、覚えておきたい手話表現」11/9 講座特別企画「作品の、その後のお話」(オンライン) 2/12 講座 vol.3 前田英一「ギ≠iギ」パフォーマンス 3/8] [施設見学会 (工房リーフ) 9/4・9/11] ●関係者のネットワークづくり [co-jin サポーター活動、4/1～3/31] ●参加する機会の確保 [バナー展示事業、4/1～3/31] [他団体協力事業、4/1～3/31] [企画展「Co-pic」4/12～6/23] [企画展「リーフのこもれび」7/17～9/22] [企画展「Co-jin Collection - コジコレ - No.8 表現のてざわり」10/16～12/22] [2024年度 共生の芸術祭「いま、なにしてる?」12/12～12/22] [企画展「しもむら名作劇場ギ」1/22～3/30] [アールブリュッ都ギャラリー開

催事業「亀岡小学校とみずのき美術館の交流授業から生まれた展覧会ひろって つくって えがこ」2/7～2/24] ●情報収集・発信 [アーカイブ事業、4/1～3/31] [Webサイトでの情報発信、4/1～3/31]

支援センター運営団体

きょうと障害者文化芸術推進機構

美術館や福祉団体、大学、企業、行政その他の関係機関で構成するオール京都体制の組織である。「art space co-jin」を活動拠点として、障害のあるアーティストの作品や活動の紹介等を行い、文化芸術活動を通じて障害者への理解と社会参加を推進するために活動している。

国際障害者交流センター ビッグ・アイ

〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1

TEL：072-290-0962 FAX：072-290-0972

E-mail：arts@big-i.jp URL：https://big-i.jp/



Pick Up! アートを通したつながりの居場所「ビッグ・アイ『あーと工房』」



「about me クラブ」実施風景

ねらい 障害のある人にとって、家庭や学校・施設のほかに、文化芸術を通じて自己表現や交流ができる「第三の居場所（サードスペース）」を創出することを目的に実施した。表現を楽しみ、安心して創造活動ができる場を提供するとともに、支援者やアーティストが学び合う機会とし、

内容 障害のある人にとっての「第三の居場所」として、創作活動を通じた自己表現・交流・社会参加の機会を提供するとともに、支援者やアーティストが現場で学びを深める人材育成の場としても展開した。活動後には振り返りを毎回実施し、支援の工夫や課題の共有を行った。

今年度の課題と目標

課題としては、大阪府内における文化芸術活動の裾野を広げるために、関係者との連携・協力を強化し、支援人材の発掘と育成を進めることが挙げられる。また、障害の有無にかかわらず誰もが参加しやすい企画を実現することが求められている。

目標としては、以下3点が挙げられる。①支援人材発掘・育成・ネットワークづくり：指導者・支援スタッフなど、新たに5名の発掘と育成を行う。福祉、芸術に関わ

支援の工夫・課題を共有し、人材育成の場とした。市町村との共催事業として大阪府内への普及を見据え、開催地の自治体、事業所、アーティストとの協働により、地域に根ざした展開を図った。

「ビッグ・アイ『あーと工房』」参加者数：延べ63名（開催回数14回）、「ビッグ・アイ『あーと工房』in おおさかし」参加者15名・見学10名）、「ビッグ・アイ『あーと工房』in すいた」（参加者48名・見学名）。当支援センターに加えて大阪市、吹田市で実施。

る人や参加者、見学者との接点を広げ、ネットワーク形成を図る。②大阪府内への普及、推進：当支援センター（堺市）以外に、大阪市・北摂地域（吹田市）での事業実施。③多様な表現の機会創出と個人の特性に応じた支援：参加者の嗜好や関心に応じたジャンルの選択肢を増やす。障害や個々の特性に応じた支援・コミュニケーションの工夫を行う。

今年度の成果と展望

美術芸術部門では、大阪市・吹田市・堺市の3地域でオープンアトリエを実施。現代アーティストを講師に迎え、実践を通じて支援の視点を学び合う機会を創出し、継続的な関わりや人材の広がりにつながった。地域に根ざした創造の場として、参加者・支援者・アーティストの相互の学びを育んだ。開催回数：8回、延べ参加者数：107名（見学者除く）、参加アーティスト：6名（支援人材の育成として「about me」クラブメンバーが参加）。

舞台芸術部門では、多様なジャンルの講師を複数名招き、参加者がさまざまな表現方法に触れる機会を創出し

た。内容に工夫を凝らしたことで、参加者は自身の芸術的関心や表現の方向性を深め、新たな挑戦のきっかけを得た。講師紹介や他事業からのつながりを通じて支援人材の発掘・育成を図り、活動前後の意見交換では、障害や個々の特性に応じた支援の工夫や課題を共有。実践を通じて支援力の向上とネットワークづくりが進んだ。講師：6名（うち新規4名）、参加者サポート（支援）スタッフ：6名（うち新規1名）、応募者：67名、延べ参加者数：160名、意見交換・情報共有の場：オンライン2回、対面22回。



左／「あーと工房」でのワークショップ風景
右／ダンスワークショップの様子



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [about me クラブ、5/28～3/28(合計9回)] [ビッグ・アイ あーと工房 みずのみば、6/22～8/24(合計4回)] [ビッグ・アイ あーと工房 (創作活動支援)、11/24～1/19(合計3回)] [ビッグ・アイ あーと工房 in おおさかし (創作活動支援)、1/11～2/8(合計3回)] [ビッグ・アイ あーと工房 in すいたし (創作活動支援)、2/22・2/23] [大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ 創造のコース ダンスワークショップ、8/12 表現のコース (オンライン) 9/2～9/30(合計3回) 表現のコース (演劇・ダンス) 9/16～12/22(合計20回) 表現のコース (情報・意見交換①) 9/16～12/22(合計20回) 表現のコース (情報・意見交換②) 12/21・12/22] [大阪府障がい者芸術・文化コンテスト出演者説明会、10/5] ●関係者のネットワークづくり [ビッグ・アイ あーと工房 in おおさかし (意見交換・会議)、6/4 in すいたし (意見交換・会議)、6/6] [ビッグ・アイ あーと工

房 (意見交換・会議)、9/10] ●参加する機会の確保 [大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ 表現のコース (発表)、9/16～12/22(合計20回)] [大阪府障がい者芸術・文化コンテスト公演、11/17] ●情報収集・発信 [ビッグ・アイ あーと工房 in おおさかし (情報共有) (オンライン) 11/22] [ビッグ・アイ あーと工房 in すいたし (情報共有)、12/24]

支援センター運営団体 ビッグ・アイ共働機構

障がいのある人の芸術文化活動拠点として、福祉と芸術に関する知識と経験が豊かな専門スタッフが運営の下、障がいのある人が芸術文化活動を通じて自己評価を高め、社会とつながる機会を創出する事業を展開している。また、障がいのある人の表現活動の支援や鑑賞支援、調査・研究事業、情報発信等を行っている。

ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1

TEL：078-341-7711(内線 3034) FAX：078-362-9040

E-mail：universal@pref.hyogo.lg.jp URL：https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/hw20_000000009.html



Pick Up! ユニバーサルなアートマッチング



「カフェモロゾフ三宮店」での展示

ねらい 障害福祉サービス事業所等で所有している作品を県のデータベースに登録し、ギャラリー以外でも、多くの人が訪れるホテルやカフェといった民間事業者で展示

内容 障害のある方の芸術作品を所管する福祉作業所等と、作品展示を希望するホテルや旅館、カフェといった事業者等をつなぐ「ユニバーサルなアートマッチング」に取り組んだ。

まずは、障害のある方の芸術作品を閲覧できるデータベースを作成し、登録された作品の展示を希望する事業者等に作品を貸し出すマッチング事業を実施。アート

することで、障害のある方の芸術作品をより多くの方々に知っていただく機会の創出と、展示機会の拡充をめざす。

マッチングデータベースに登録されている作品を、百貨店や特別支援学校、観光地のホテル、カフェ等で展示した。また、神戸市灘区の「エルナード水道筋商店街」での展示では、商店街をテーマに広く作品を募集し、92点を2期に分けて展示した。郵送で作品を受付け、作品の持ち込みが難しい団体からも申し込みができるよう工夫した。

今年度の課題と目標

従前通り、「障害者の芸術作品等の発表機会の確保」「鑑賞機会の拡大」「活動を支える人材育成」の3本柱で、芸術文化活動を行う障害者や事業所等への多面的な支

援を体系的に実施していく。加えて「ユニバーサルなアートマッチング」の本格展開や巡回展を充実させることで、さらなる発表機会の確保と認知度向上をめざした。

今年度の成果と展望

発表機会の確保と認知度向上をめざし、巡回展以外にもカフェモロゾフや水道筋商店街といった集客の多い施設での展示を行い、多くの方々に見ていただくことができた。巡回展では、過去に展示の実績がない地域を中心に県内12ヶ所での開催実現に加え、水道筋商店街での展示ではこれまで公募展に申し込みのなかった個人や、団体の参加があった。

また、映画鑑賞会では国際障害者交流センタービッグ・アイ（大阪府支援センター）の劇場鑑賞プログラムを取り入れた。楽器演奏のワークショップや出張相談会では、近畿ブロック広域センターの協力を得て、支援の幅が広がった。来年度も引き続き関係各所と連携し、支援の充実をめざしたい。



左／県内の劇場スタッフを対象に実施した合理的配慮研修の様子

右／巡回展示の風景



実施一覧

●**相談支援** [相談窓口、4/1～3/31] [障害者芸術出張相談会、2/27] ●**人材育成** [映画鑑賞会におけるスタッフ研修、6/26] [観劇時における「合理的配慮提供に係る研修」の実施、2/26] ●**参加する機会の確保** [障害者アートギャラリー常設展、4/1～3/30(合計4回)] [神戸大丸での展示、4/17～5/7] [特別支援学校での展示、4/19～7/11] [障害者芸術作品巡回展、7/11～2/3(合計12回)] [作品展示、発表会の開催支援、8/1～3/31] [かがくいひろし展特別ワークショップ、8/17] [カフェモロゾフでの展示、10/4～11/15] [障害者芸術文化祭「舞台部門」11/16] [水道筋商店街での展示、11/25・3/10] [有馬温泉ユニ

バーサルの日)の展示、2/1～] [障害者芸術文化祭「美術工芸作品公募展」3/2～3/6] ●**その他** [映画鑑賞会、7/9～10/14(合計3回)]

支援センター運営団体 兵庫県福祉部ユニバーサル推進課

兵庫県内における障害者の芸術文化活動のさらなる振興を図るため、兵庫県ユニバーサル推進課内に「ひょうご障害者芸術文化活動支援センター」を2019(平成31)年4月から設置・運営し、芸術文化活動を行う障害者や事業所等を総合的に支援している。

奈良県障害者芸術文化活動支援センター

〒630-8501 奈良市登大路町30番地

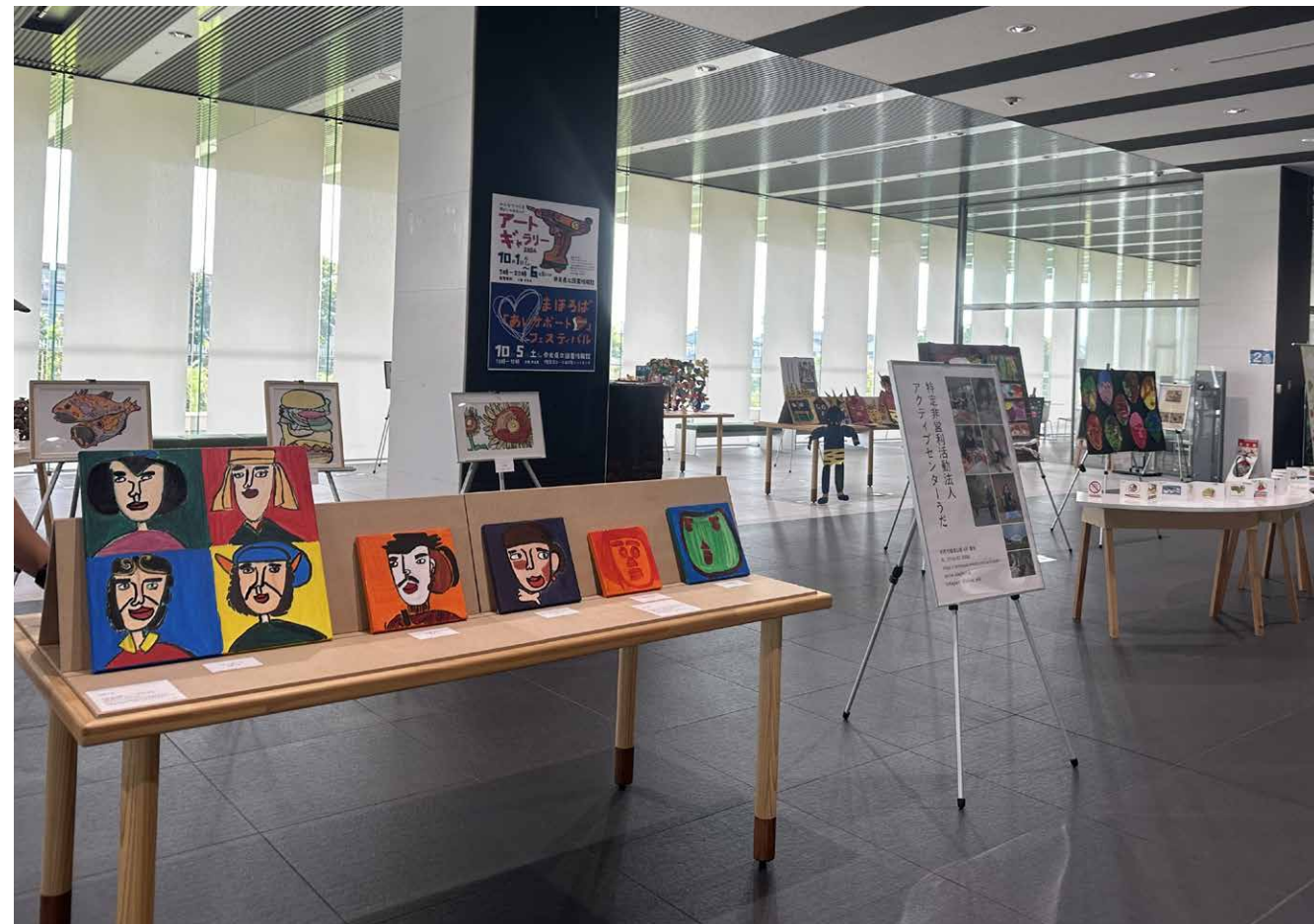
TEL：0742-27-8922 FAX：0742-22-1814

E-mail：syogai@office.pref.nara.lg.jp

URL：https://www.pref.nara.jp/item/294724.htm#itemid294724



Pick Up! みんなでつくる展覧会「障害のある人のアートギャラリー」 セミナー「アートギャラリーのつくりかた」



県立図書館で開催した「みんなでつくる障害のある人のアートギャラリー」

ねらい 芸術文化活動を行っている障害福祉サービス事業所の支援者を対象に、展覧会開催のノウハウ、芸術作品の展示方法や見せ方等の展示に関する知識を身に

内容 「障害のある人のアートギャラリー」は、県内でアート活動を行っている事業所が、自分たちでアート展覧会を行う機会の創出として開催。「事業所内で制作した作品を多くの人に見てほしい」という声から実現した企画で、開催場所は公共施設である奈良県立図書館。事前に支援者に向けたセミナーを行い、「見せ方」や「見てもらう」ことを意識した展示方法について学ん

付けてもらうなど、人材育成および機会創出を目的として実施した。

だほか、実際に展示する作品を持ち寄り、それぞれの作品の効果的な展示方法について意見交換するなど、事業所同士の交流を図った。アートギャラリー開催期間中は、障害理解啓発イベントやアート作品を取り扱った販売会も併せて開催し、より多くの方々の関心を集める結果となった。

今年度の課題と目標

障害者の芸術文化活動のさらなる振興を図ることを目的とし、障害のある人が芸術文化に触れ、楽しむことができる社会づくりの推進に向かって、「相談支援」「機会創出」「情報発信」「人材育成」の4つの柱を軸に事業を展開した。今年度は、支援センターが実施する事業のヒントを得るため、障害のある人が芸術文化活動を行って

いる現場での取り組みや課題等の聞き取り調査を実施した。また「事業所内で作品を制作しても見てもらう機会がない」という課題を踏まえて、事業所単位での展覧会の実施をめざし、芸術作品の展示方法や見せ方等について学ぶ機会を提供するとともに、参加者のネットワークづくりを目標として取り組んだ。

今年度の成果と展望

既存の障害者作品展とは違い、芸術文化活動に取り組む事業所に向けた「機会創出」「人材育成」の事業として展覧会を実施した。会場として公共文化施設の協力を得ることができたため、ふだん文化施設を利用する人、障害者アートに触れる機会の少ない人など、幅広い年齢層にアプローチでき、多くの県民に見てもらう機会を提供できた。また、今回の事業で今までつながりのなかつ

た事業所が参加したこともあり、活動内容等を知るための視察調査に行き、ニーズの把握に取り組んだ。次年度は支援センターのさらなる周知、障害のある人の芸術文化活動に関する課題の把握に努め、関係者の輪を広げながら支援の充実をめざす。



左／「あいサポートフェスティバル」のアート作品を取り扱った販売会
右／アートギャラリーと「あいサポートフェスティバル」の同時開催の様子



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [アートギャラリーのつくりかた、8/29] ●関係者のネットワークづくり [障害福祉サービス事業所における実態調査、12/6～3/5 (合計3回)] ●参加する機会の確保 [アートレンタル、4/1～3/31] [障害のある人のアートギャラリー、10/1～10/6] [あいサポートフェスティバル、10/5] [第52回奈良県障害者作品展、11/27～12/4] ●情報収集・発信 [WebサイトやSNSでの発信、4/1～3/31 (合計6回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [奈良県障害者芸術推進会議、7/2・2/10]

支援センター運営団体

奈良県福祉医療部障害福祉課

奈良県内における障害者の芸術文化活動のさらなる振興を図るため、2023 (令和5) 年4月から奈良県障害福祉課内に「奈良県障害者芸術文化活動支援センター」を設置。障害者芸術文化活動を行う障害者や事業者等を総合的に支援している。

和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL：073-441-2530 FAX：073-432-5567

E-mail：e0404001@pref.wakayama.lg.jp

URL：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/syogaigeijutu.html



Pick Up! 障害者芸術・文化活動に関する「人材育成」「発表機会の確保」



出前教室（いけばな①）開催の様子

ねらい 次の2つをねらいとした。①各障害福祉サービス事業所や特別支援学校等において、芸術・文化活動のバリエーションを増やすとともに、作品創作や文化活動に関する考え方を学び、新たな手法等を身に付けてもらう

内容 研修会：ろう講師を招き、障害者が音楽活動に取り組む意義や方法を学ぶ音楽ワークショップを計2回開催、29名が参加した。出前教室：障害福祉サービス事業所に「段ボールアート」「書道アート」「いけばな」「音楽療法」の各講師を派遣し、事業所職員や利用者を対象に計12回（各メニュー3回ずつ）の教室を実施した。参

加者は、経験豊富な講師陣から自由な芸術への取り組みを学んだ。紀ららアート展：2024（令和6）年度は、374点の作品の展示を行い、紀北展（和歌山市）、紀南展（田辺市）およびWeb展を開催。各会場来場者による投票を行い、部門ごとに投票数が上位約1割の作品を「紀らら感動大賞」として選定。

今年度の課題と目標

障害のある方が芸術に触れ、自らも芸術活動に参加するという体験機会の拡充を引き続き目標に据え、以下を課題と捉える。障害のある方が必要な支援を受けて文化芸術を鑑賞する機会の拡充に向けた取り組みの推進、特別支援学校卒業後も継続して文化・芸術に接すること

のできる環境の整備、芸術・文化活動により障害者の自立や社会参加につながるような取り組みの推進。2024（令和6）年度は、障害者をサポートする「人材育成」や「発表機会の確保」により、これらの課題の解決に向けて取り組んだ。

今年度の成果と展望

「人材育成」については、特定会場への集合形式で行う研修会を県内2ヶ所で計2回開催、各事業所へ講師を派遣する出前教室を12ヶ所で開催し、延べ165名が参加した。参加者からは「活動の幅が広がり、ツールを学ぶことができた」「今後の事業所の取り組みに活かしたい」等の声が挙がり、人材育成に資する取り組みとなった。

また、障害者作品展「紀ららアート展」では、374点の作品の展示を行い、出品者、来場者等からは、「素敵な作品が多かった」「障害者の親として、このような場があるがたい」「毎年開催してほしい」等の意見をいただいた。今後も同様の取り組みを継続し、障害者芸術・文化活動の推進に努める。



左／出前教室（音楽療法）開催の様子

右／出前教室（段ボールアート）開催の様子



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] ●人材育成 [令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業 人材育成研修「出前教室」8/7～11/19（合計12回）] [人材育成研修会、1/7・1/8] ●関係者のネットワークづくり [令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業 ふれあいアート体験、11/6～12/20（合計4回）] ●参加する機会の確保 [令和6年度「紀ららアート展」(Web開催有り) 12/11～1/27]

支援センター運営団体

和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

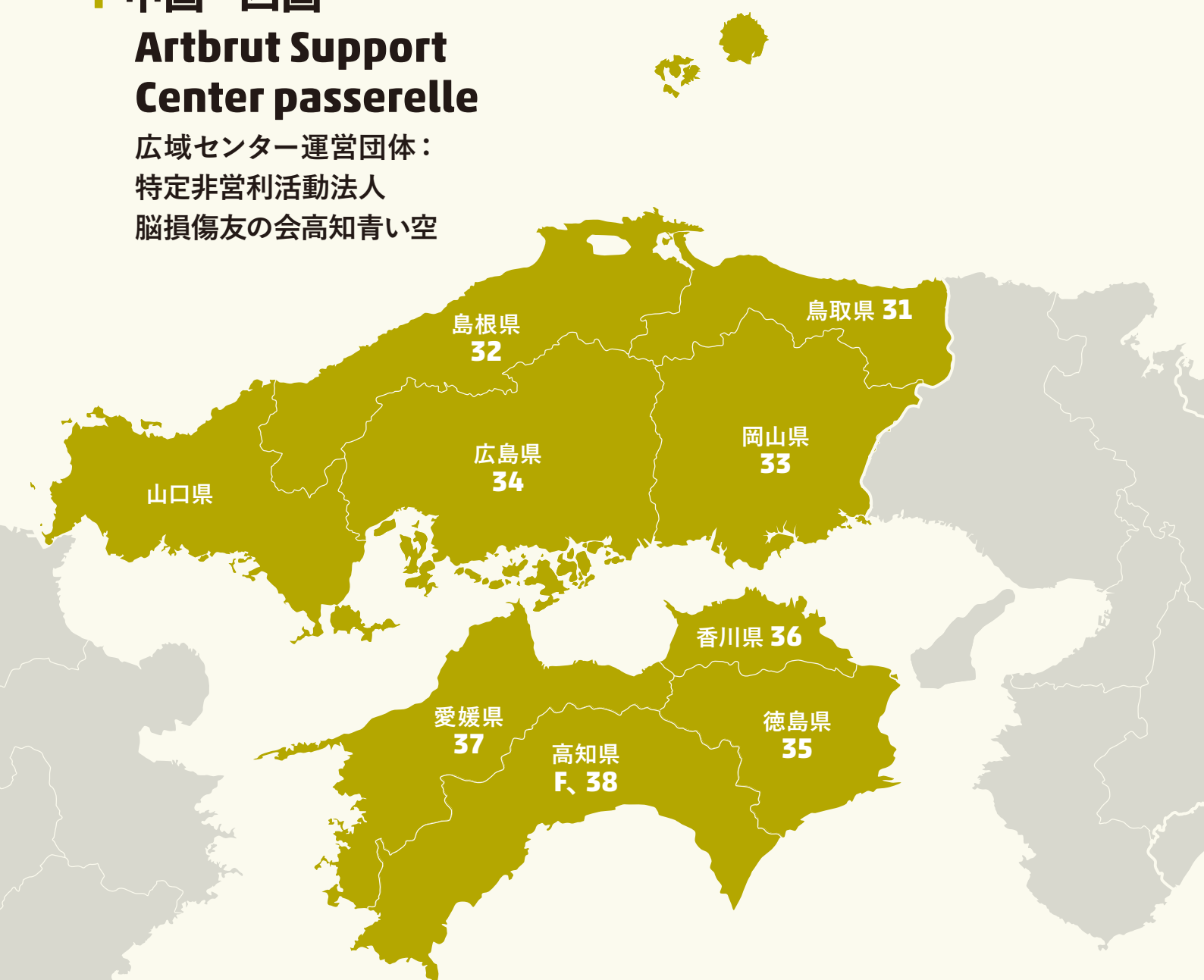
2022（令和4）年度から、それまで分割されていた支援センターを和歌山県障害福祉課に統合し、障害者芸術・文化活動を推進している。和歌山県障害福祉課は障害児者に関する福祉、啓発の推進などを担っており、2021（令和3）年度に開催した「紀の国わかやま文化祭2021」のレガシーを引き継ぎ、障害者の自立や社会参加等を目的に芸術・文化活動の推進に取り組んでいる。

中国・四国ブロック

F 中国・四国

Artbrut Support Center passerelle

広域センター運営団体：
特定非営利活動法人
脳損傷友の会高知青い空



ブロック内の状況

中国・四国ブロック広域センター：中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

中国・四国ブロックは、2024（令和6）年度時点で、鳥取、島根、岡山、広島、徳島、香川、愛媛、高知の8県に支援センターが設置されており、2025（令和7）年度からは山口県にも新たに支援センターが設置される予定である。これにより、支援センター数は全国で最多となる。各県ごとに設立年や運営体制、予算規模に違いはあるが、

地域の特性を活かしながら独自の取り組みが展開されている。また、支援センター間の連携や情報共有も活発で、合同企画展の開催や研修会での講師派遣など、相互支援の体制も整いつつある。こうした交流を通じて、ブロック全体での支援体制の質が向上し、障害者の芸術文化活動を支える基盤が着実に強化されている。

鳥取県

担当課：福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課社会参加推進室

31 あいサポート・アートセンター

支援センター運営団体：あいサポート・アートセンター運営事業共同事業体

島根県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

32 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

支援センター運営団体：社会福祉法人いわみ福祉会

岡山県

担当課：子ども・福祉部障害福祉課障害福祉企画班

33 岡山県子ども・福祉部障害福祉課

支援センター運営団体：岡山県子ども・福祉部障害福祉課

広島県

担当課：健康福祉局障害者支援課

34 広島県アートサポートセンター

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぽん

山口県

担当課：健康福祉部障害者支援課

徳島県

担当課：保健福祉部障がい福祉課

35 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人徳島県社会福祉事業団

香川県

担当課：健康福祉部障害福祉課

36 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

支援センター運営団体：NPO 法人音楽療法グループ WALKS

愛媛県

担当課：保健福祉部生きがい推進局障がい福祉課

37 愛媛県障がい者アートサポートセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団

高知県

担当課：子ども・福祉政策部障害福祉課

38 藁工ミュージアム 分室

支援センター運営団体：特定非営利活動法人蛸蔵

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

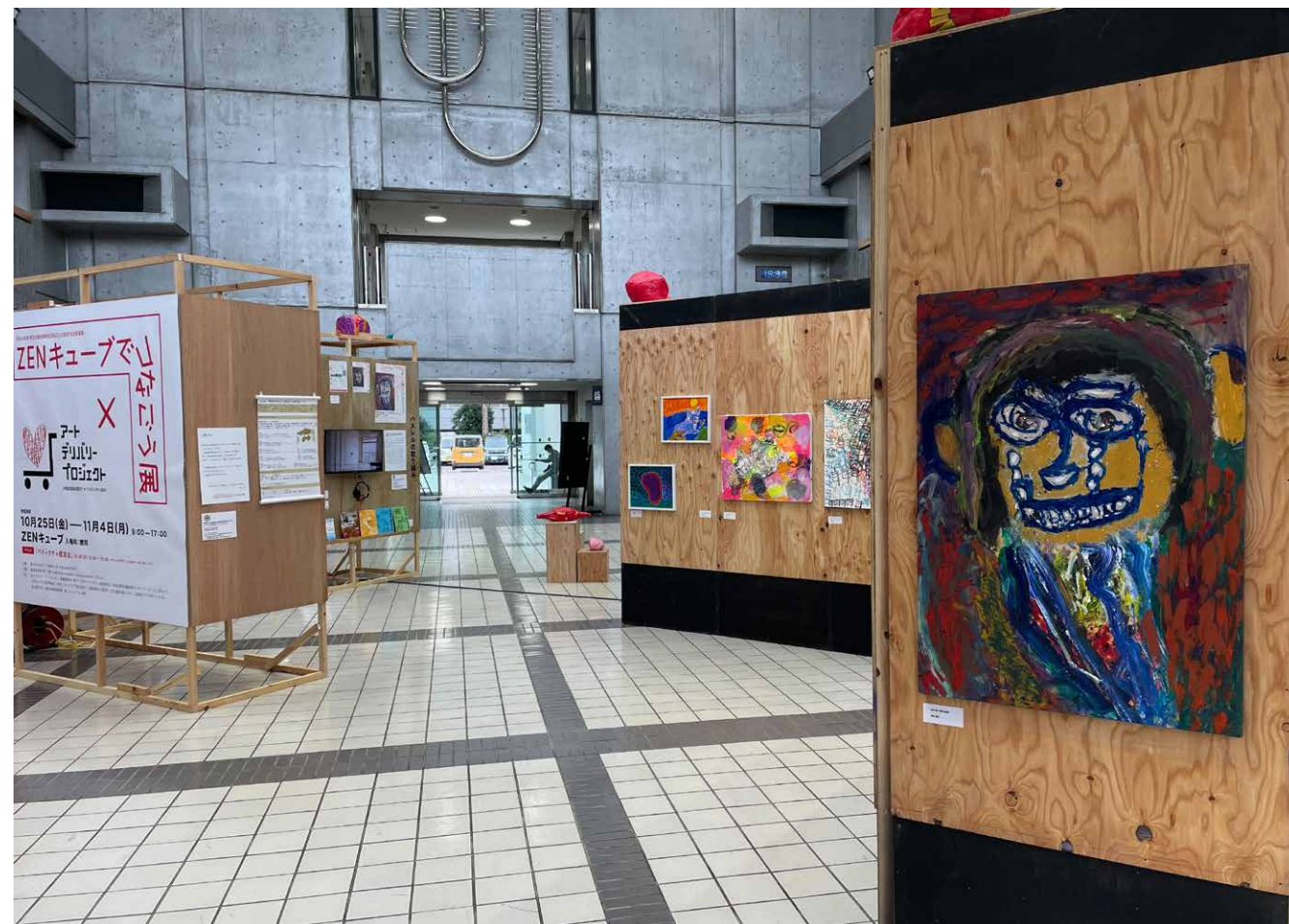
〒780-8014 高知県高知市塩屋崎町2丁目12-42

TEL：088-803-4100 FAX：088-803-4420

E-mail：passerelle@blue-sky-kochi.com URL：https://asc-passerelle.com/



Pick Up! アートデリバリープロジェクト



「ZEN キューブでつなごう展×アートデリバリープロジェクト」展示会場

ねらい 本プロジェクトは、ブロック内における支援センター同士の交流を促進し、地域を越えた連携や相互理解を深めることを目的としている。また、各県における先進的な取り組みや活動事例を広く紹介することで、障害者の芸術文化活動における新たな可能性を示し、他

内容 本プロジェクトは、既存の企画との連携により各開催地で実施した。会場の広さや条件に応じて、展示内容は以下の3つから選定した。①中国・四国ブロック内の各県支援センターからの推薦作品、②当センターの主催事業に関する展示、③地域アーティストのポートフォリオのショーケース。

地域の参考となる機会を創出する。さらに、設立から間もない支援センターや、体制が整いつつある地域に対しても、その特性や歩みに応じた支援を行うことで、ブロック全体での事業の認知拡大と理解の深化を図る。

準備段階においては当センターが主導し、現地担当者とともに設営を進めることで、展示技術の共有も行った。会期中にはゲストを招き、対話を楽しみながら展示作品を鑑賞する「ペチャクチャ鑑賞会」を実施し、来場者間の交流のきっかけをつくった。

今年度の課題と目標

本事業は中国・四国ブロック内でも認知度が依然として低く、特に支援センターが未設置の山口県ではその傾向が顕著である。また、支援センターごとに機能の特徴や取り組みの進捗に違いがあり、その多様性から、支援の在り方に一定のばらつきが見られる現状がある。こうした現状と課題を踏まえ、2024（令和6）年度は以下を目標

今年度の成果と展望

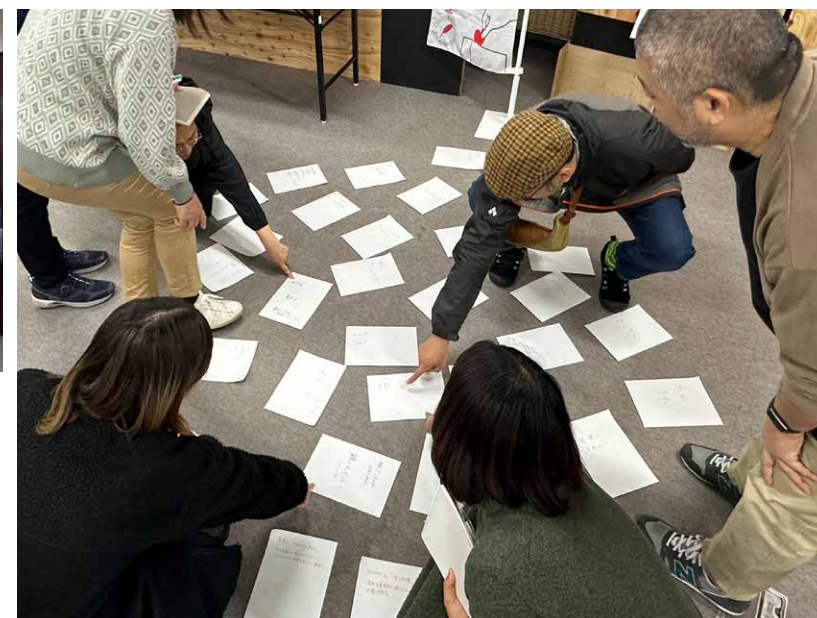
「アートデリバリープロジェクト」を香川県、山口県、徳島県で実施した。特に山口県では、県担当者との協議を重ねるなかで支援センター設置の必要性を訴えたことがきっかけの一つとなり、2025（令和7）年度より設置されることとなった。また、「アート活動を始めようとする事

に事業を展開した。①支援センターの設立年や取り組み状況に応じた機能の充実と体制づくりのサポート、②山口県における支援センター設置の推進と本事業の認知拡大、③ブロック内の芸術文化活動実施事業所数の拡充、④障害者芸術文化活動に関する事例の収集・発信。

業所のファーストステップに伴走する企画」では、芸術文化活動の経験のない事業所が活動始めるきっかけとなり、今年度も各県で多くのユニークな取り組みが行われた。今後も本事業の認知拡大と深化に向けた取り組みを継続していく。



左／「第30回山口県障害者芸術文化祭×アートデリバリープロジェクト」展示会場



右／「第30回山口県障害者芸術文化祭×アートデリバリープロジェクト」にて開催したペチャクチャ鑑賞会の様子

実施一覧

●各支援センターに対する支援【ふらっとFlat（オンライン）4/24～1/28（合計4回）】●芸術文化活動に関するブロック研修【第1回ブロック研修会（オンライン）8/22 第2回、10/31 第3回（オンライン）2/25】●ブロック内の連携の推進【第1回ブロック会議（オンライン）5/9 第2回（オンライン）8/22 第3回、10/31 第4回（オンライン）2/25】●参加する機会の確保【アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画、4/28～3/31（合計6回）】【アートデリバリープロジェクト、4/28～3/31（合計3回）】

広域センター運営団体

特定非営利活動法人脳損傷友の会高知青い空

高次脳機能障害がある者およびその家族に対して、高次脳機能障害についての正しい知識の普及、さらに当事者の社会参加を促進するための事業等を実施するとともに、社会への理解を広めるための活動を行うことにより、高次脳機能障害者が安心して生活できる社会環境づくりに寄与することを目的に活動している。

あいサポート・アートセンター

〒682-0018 鳥取県倉吉市福庭町1丁目105番地2

TEL: 0858-33-5151 FAX: 0858-33-5151

E-mail: tottori.asac@gmail.com URL: https://aisapo.art/



Pick Up! あいサポート・アートとっとり展 10周年記念展示



「あいサポート・アートとっとり展 10周年記念展示」会場風景

ねらい 平成27（2015）年から開催している「鳥取県障がい者芸術・文化作品展『あいサポート・アートとっとり展』」が10回目の節目を迎えた。これまでの入賞作品を一堂に会し（現存するもの・同意の得られたもののみ）、顕彰を

内容 「あいサポート・アートとっとり展 10周年記念展示」は、歴代の入賞作品を展示した。展示点数は、美術部門26点、文芸部門9点、マンガ部門10点、計45点となった。入場者数は、168名となった。また、展示会期

行うとともに、優れた作品を展示することで障害のある方のアートについて、多くの県民に知っていただく機会とする。

中、10周年を記念して「障害のある方のアートの可能性」をテーマとした特別講演を開催した。講師には東ちづる氏（俳優、一般社団法人Get in touch代表）をお迎えし、70名の来場者があった。

今年度の課題と目標

当事者や支援者のみなさまにセンターの活動を知ってもらうこと、多くの県民に障害のある方の芸術文化活動を

認知してもらうことをめざす。

今年度の成果と展望

外部のアドバイザーや関係機関、特に2025（令和7）年3月30日に開館した鳥取県立美術館との連携を密にした。同美術館では、当方の作品（レプリカ）を展示するコーナーを設けてもらっているほか、ショップではアートグッズも取り扱ってもらっている。

また、各所からの声かけや打診があり、創作・鑑賞・発表の機会の創出につなげることができた。今後はより多くの機会を創出するとともに、当事者の方や支援者の方の実感を伴う成果につなげていきたい。併せて、より多くの県民の理解を深めていきたい。



左／オンライン美術館「鳥取県立バリアフリー美術館」のリアル展示

右／障害のある方の作品を使った「～脳が脱皮する美術館～対話型アート鑑賞」の様子



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [～脳が脱皮する美術館～対話型アート鑑賞、7/25～7/26] [フクシ×アートフォーラム「アートが叶える世界」11/3] [「知的・発達障がい児（者）にむけての劇場体験プログラム」への協力、12/5～1/13] [あいサポート・アートとっとり展 10周年記念特別講演、1/18] [アート講座「アール・ブリュットとは？」2/10～2/14(合計6回)] [「インクルーシブ・アート共同鑑賞ワークショップ」への協力、2/13] ●参加する機会の確保 [鳥取県立バリアフリー美術館の管理運営（オンライン）4/1～3/31] [障がい者アート活動支援事業補助金、4/1～3/31] [鳥取県立バリアフリー美術館リアル展示「MeetuP vol.03」8/30～9/3] [きらめきアート展への協力、9/1～9/15] [障がいと共に生きるアーティストたちの原画展示販売会 at 吉祥寺、9/21～9/23] [鳥取県はーとふるアートギャラリー

合同展「はーとをふるわせて4」10/19～11/4] [あいサポート・アートとっとり展の企画運営、12/21～2/16]] [あいサポート・アートとっとり展 10周年記念展示、1/15～1/19] ●情報収集・発信 [フリーペーパー Hugsの発行、4/1～3/31(合計3回)] ●その他 [山陰ご当地フォントプロジェクトの支援、4/1～3/31]

支援センター運営団体

あいサポート・アートセンター運営事業共同事業体

運営体制を強化するため、2023（令和5）年度4月より運営事業共同事業体に移行した。一般社団法人アーツスペースからふるが代表となり、社会福祉法人もみの木福祉会、特定非営利活動法人あかり広場、特定非営利活動法人十人十色を構成員とし、新たな体制で相談支援・啓発等を推進している。

島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

〒695-0024 島根県江津市二宮町神主1964番地31

TEL:080-5756-3225 / 0855-54-3100 FAX:0855-54-3101

E-mail:artbase@shimaneiro.jp URL:https://shimaneiro.jp/



Pick Up! アクアート2024 —しずかでにぎやかなうみ—



「アクアート2024—しずかでにぎやかなうみ—」休館日の水族館で鑑賞した後にいった創作活動

ねらい「障害当事者や支援者のみを対象としたイベント」という発想にとらわれずに、障害の有無を越えてインクルーシブな交流を望む児童、生徒、学生、一般の方々

内容 ①「アクアート2024—しずかでにぎやかなうみ—」：休館日の水族館を利用して生物を鑑賞後、自分の中に広がる「海」を表現する創作イベントを開催した。高校生や大学生のボランティアスタッフやサポート体制のもと、インクルーシブな事業として実施した。②「にぎやかな

も対象に含める。また、行政や関係者など、多様な立場の関係者を増やした実行委員会形式で、創作活動や展示を行う。

日々in松江」：馬喰町バンドによる楽しいライブを鑑賞したほか、ワークショップで創作したアートを用いた民話をステージ上で音楽とともに発表した。ロビーではミニマルシェや創作コーナー、展示等交流の場を設けた。

今年度の課題と目標

障害者の文化芸術活動に関する相談件数は、過去最多となる年だった。スタッフ1名が休暇に入っていたため、相談に対する対応がやや遅くなる場面や、内容が手薄に感じられる場面があった。情報発信の不足やオンライン会議への参加不足といった対応に課題を感じている。

今年度の成果と展望

かねてより懸念課題であった東部の人材ネットワークづくりを新しく広げることができた。今後はこのネットワークと良好な関係性を維持しながら、障害当事者や支援者等さまざまな人に波及したり、交流のできる企画を実施

今年度の目標は、①他県の支援センタースタッフとの関りを増やし、さまざまな取り組みや視点を学ぶ。②県内でつながり始めた人材ネットワーク（支援者）を大切に醸成していく。③安定した情報発信ができる体制づくりや方法を構築する。

したい。また、離島（隠岐地区）への支援体制が希薄になっているため、どのように支援していくかを含めて検討し、行動したい。



左／文化芸術が身近に感じられるキャンパスづくりとして、島根県立大学松江キャンパスの学生ラウンジ等に展示された障害者アート
右／ポスター原画に作家の紹介依頼を受け、障害者アートの採用へとつなげた「ミュージカル あいと地球と競売人」ポスター



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [ミュージカル あいと地球と競売人、2/16～2/24]●人材育成 [「地蔵とりビドー」上映会&やまなみ工房山下施設長トークショー、8/31] [オープンミーティング～石見編～まちと福祉と芸術文化、11/9]●関係者のネットワークづくり [まちと福祉と芸術文化についてのオープンミーティング# 04、6/23]●参加する機会の確保 [江津清和養護学校「高等部3組ゴミアート体験」6/25・7/10] [島根県立大学松江キャンパス2024アートフルキャンパス事業～文化・芸術の香りをキャンパスに～、10/1～] [アクアート2024—しずかでにぎやかなうみ—、10/8～12/16] [みさとと。あーとなわたしたち2024美郷町アート展、11/13～11/19] [令和6年度島根県障がい者アート作品展、12/6～12/8 巡回展 (in グラントワ) 2/21～2/23] [にぎや

かな日々in松江]●情報収集・発信 [令和6年度島根県障がい者アート作品展プレイベント、11/23]●その他 [にぎやかな日々 in 松江、10/27]

支援センター運営団体 社会福祉法人いわみ福祉会

島根県西部の浜田市・江津市を拠点とした障害福祉サービス、高齢者福祉、相談支援、地域生活支援等を行っている。地域伝統芸能である「石見神楽」が盛んな地域であり、余暇支援として取り組んでいた「芸能クラブ」(2023 [令和5] 年10月より名称を「桑の木神楽会」とした)は、当事者の文化芸術活動や生涯学習の一つとして、施設開所当時より位置づいている。

岡山県子ども・福祉部障害福祉課

〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下2-4-6

TEL：086-226-7343 FAX：086-224-6520

E-mail：isupport@pref.okayama.lg.jp URL：https://www.pref.okayama.jp/page/739464.html



Pick Up! 障害のある人の芸術文化活動に係る人材育成セミナー



障害者アートに関する基礎講義（障害者アート人材育成セミナー）

ねらい「障害者アートを何から始めたらよいか分からない」「既に取り組んでいるが、日頃の支援活動にどう取り入れたらよいか分からない」という県内の障害（者・児）福

内容「アートがつなぐ世界～福祉と表現活動の共生～」をテーマに、障害者アートに関する基礎知識や日常の支援現場での活用方法等を学び、障害者アートの可能性と裾野を広げることを目的としたセミナーを開催した。対象は県内の福祉施設や事業所の職員で、計29名が参加した。講師には、馬場拓郎氏（株式会社ありがとうファーム 取締役副社長）と、深谷千草氏（同社執行役員）をお招

祉サービス事業所・施設職員を対象に、障害者アートの意義や魅力の理解、及び効果的な活用方法の習得を目的としたワークショップを取り入れたセミナーを開催した。

きし、「障害者アートの基礎講義」として、アート制作の環境づくりや視点についてご講演いただいた。また、ワークショップでは、実際の作品を用いた「対話型鑑賞」を実施し、参加者同士で感想や印象を語り合った。さらに、さまざまな画材を用いて“今の気持ち”を自由に表現する体験にも取り組んだ。

今年度の課題と目標

障害者アートに関心はあるものの、何から始めればよいのか分からないという声や、日頃の支援活動の中でどのように活用すればよいのか迷っているという声が福祉施設や職員の方々から多く寄せられている。こうした現場

の声を受けて、県内の障害福祉サービス事業所等における障害のある人の文化芸術活動の現状を把握し、さらにその裾野を広げていくことを目標としている。

今年度の成果と展望

セミナー参加者からは、障害者アートの支援への活用方法や工夫すべき点が理解でき、持ち帰って自施設で実践したいなど、高評価であった。セミナー後は事業所間交

流の時間も設けた。参加者からはより実践的なセミナー内容を望む声もあり、来年度以降、テーマやワークショップ等の内容を検討していきたい。



左／「障害のある人のアートギャラリー」展示風景。福祉施設等の利用者が制作した絵画等の平面作品の展示
右／障害のある方やその仲間たちによるピアノ演奏、手話歌等を実施した「ノウフク・マルシェ」の様子



実施一覧

●相談支援 [相談対応、4/1～3/31] ●人材育成 [障害のある人の芸術文化活動に係る人材育成セミナー、3/18] ●関係者のネットワークづくり [セミナーを通じた事業所間交流、3/18] ●参加する機会の確保 [障害のある人のアートギャラリー、4/1～3/31 (合計12回)] [ゆうあい福祉展 (岡山県知的障害者福祉展開催事業) 11/8～3/31 (合計3回)] [ノウフクマルシェ (ステージイベント) 11/17] ●情報収集・発信 [情報発信 (オンライン) 4/1～3/31]

支援センター運営団体

岡山県子ども・福祉部障害福祉課

本県では、2023 (令和5) 年度より支援センターを設置し、県の直営で障害のある人の文化芸術活動の推進に取り組んでいる。主な取り組みとして、文化芸術団体や障害者団体等の専門機関と連携した各種相談の対応や、県庁舎や県内施設での絵画などの作品展示、ポータルサイトを通じた県内外の公募展や取り組み事例等の情報発信を行っている。

広島県アートサポートセンター

〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内6-28-15

TEL：070-5671-8668 FAX：082-831-6889

E-mail：hululu@hullpong.jp URL：https://hululu.jp/



Pick Up! YouTube 番組「ひゅるりんぱ」「アーティストに会いにいったみた」

ひゅるりんぱ出張編の一場面
撮影：金山翔

ねらい YouTube 番組「ひゅるりんぱ」は、アートの楽しさや可能性を分かりやすく紹介することで、障害のある人がアートに親しみ、創作活動への関心を高めるきっかけとなることをめざす。「アーティストに会いにいったみた」では、創作に込めた想いや生活の様子を映像で表

現することで、視聴者に新たな視点や共感を促し、アーティスト自身の発信力や活動の幅を広げることを目的としている。両番組を通じて、表現の多様性を尊重し、誰もが文化芸術に関わることでできる社会の実現をめざしている。

内容 障害のある方がアートに関心を持っていても情報にアクセスしづらい現状がある一方、動画視聴が日常の余暇として定着している。この状況を踏まえ、YouTube 番組「ひゅるりんぱ」は、誰もがアートの情報や表現の魅力に触れられるコンテンツとして制作・配信した（配信回数：12回、視聴回数：914回）。

「アーティストに会いにいったみた」は、県内で活動する

障害のあるアーティストの創作の現場にカメラマンとアドバイザー 2 名で訪問。創作の様子やアーティストの日常を撮影し、創作の背景やアーティストの日常、アーティストのことを取材した。2024（令和6）年度は4名のアーティストの動画を制作した。また、2023（令和5）年度に撮影した3名分の動画も公開した（配信回数：3回 視聴回数：665回）。

今年度の課題と目標

近年、多様性と包摂の重要性が広く認識され、障害のある方々の自己表現と社会参加の機会が求められている。しかし、障害のある方が必要とする表現の場は依然として不足している。また、支援施設や事業所も業務負担の増加により文化芸術活動に十分取り組めない現状がある。一方、SNS や YouTube 等のオンラインプラットフォームが普及し、情報収集や自己表現の新たな手段として活

用されつつあるが、周知の継続が必要な状況である。これらを踏まえ、今年度は以下の4つに焦点を当て事業を実施する。①オンラインプラットフォームを活用し、情報発信や発表の場を拡充。②意見交換やネットワーク形成を通じた信頼関係の強化。③施設・事業所との連携を深め包括的な支援体制を構築。④障害のある方々への支援を拡充し、自己表現の機会を増やす。

今年度の成果と展望

オンライン発信とネットワークの強化を通じて、障害のある方の表現活動の支援に取り組んだ。YouTube 番組「ひゅるりんぱ」や「アーティストに会いにいったみた」では、イベント告知とともにアーティスト自身が出演し、作品を紹介する場を提供した。多様な表現や創作の背景を伝えることで、理解と関心の促進につながり、出演

を希望する人も徐々に増えている。セミナーやおしゃべり会、他団体のイベントサポートを通じて連携も進展した。一方、個人からの相談が増え、情報の不足により、対応に時間を要するケースも見られた。今後は、誰もが安心して表現できる環境づくりに向けて、支援体制と情報提供のさらなる充実を図る。

左／学びと体験ワークショップ「さをり織り体験ワークショップ」の様子
右／「和えるダンス」の一場面 撮影：石井清一郎

実施一覧

●相談支援 [相談対応、4/1～3/31(合計372回)] ●人材育成 [専門家派遣「演劇体験ワークショップ」3/1 「体験ワークショップ『色を楽しもう!』」3/15] [のらのらの会「広島県知的障害者福祉協会文化・芸術活動の部 圏域委員会 事例共有会」3/3] [おきらく劇場ピロシマ 演劇クラブ、6/16～1/13(合計6回)] [学びと体験ワークショップ「絵の具についての勉強会」「創作アートスペース」とともに8/31 「さをり織り体験ワークショップ」9/5] [アートセミナー&おしゃべり会①「ケアする現場のものづくり～企画展〈きょうの雑貨〉開催から見えたこと～」10/12 ②「アート・ルネッサンスからのインスピレーション～審査委員が見た作品の魅力～」11/30 ③「アートの新たな可能性を拓く～薫エミュージアムの事例から～」(オンライン)12/19] [けったいなものがみたい～大阪の町屋のおばちゃんたちが始めた小さな事業所のお話～1/18] ●関係者のネットワークづくり [のらのらの会「県内視察」5/15 「～のりくらりの旅 鳥取編～」7/17～7/18] [シンポジウム「福祉／アート／教育のコラボレーション 複数組織の豊かな連携に向けて(オンライン)」2/7] ●参加する機会の確保 [アートの巣箱助成プログラム「We are ユニカーズ!」9/16～12/8(合計9回) 「音楽でつなぐ みんなのハーモニー」9/30～2/5(合計3回) 「和えるダンス」1/11～1/13

(合計3回) 「自分だけの器をつくろう!」1/31～3/31(合計3回)] [遠隔ロボットを使った鑑賞サポート 10/5～10/6(合計3回)] [韓日交流展と交流会「NEW WOLD」1/4～3/12] ●情報収集・発信 [情報収集・情報発信(オンライン)4/1～3/31(合計322回)] [表現を楽しもうプロジェクト「アーティストに会いにいったみた」(動画配信)5/1～3/31(合計4回)] [YouTube 番組「ひゅるりんぱ」5/18～3/31(合計6回)] ●その他 [画材寄付受付、4/1～3/31(合計36回)] [手話と文字を使った、みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会～美術館でアートを見よう～1/18] [アウトリーチ型 みんなで楽しむ「おしゃべり鑑賞会 in 就労センターあっぷ」1/30]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぽん
1981(昭和56)年に任意団体として発足。2001(平成13)年よりNPO法人になり、2018(平成30)年3月には認定NPO法人として活動。児童福祉施設児童発達支援センターの運営、就労継続支援B型事業所の運営を行うほか、障がい者アートによる街づくり事業(障がい者アート展の実施等)、ボランティア育成事業(福祉教育の一環としてのボランティアの受け入れ・育成事業等)を行っている。

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

〒770-0005 徳島県徳島市南矢三町2-1-59 徳島県立障がい者交流プラザ1階

TEL: 088-631-1200 FAX: 088-631-1300

E-mail: t-geibun@kouryu-plaza.jp URL: http://kouryu-plaza.jp/gb-center/



Pick Up! みんなの創造フェスター2025とくしま障がい者芸術・文化祭ー



「みんなの創造フェスター2025とくしま障がい者芸術・文化祭ー」舞台風景

ねらい 当センターが年間を通して企画・開催しているさまざまなイベントの入場者数はここ数年間、大きくは増えていない。また、舞台芸術の発表の場である「みんなのはっぴょうかい」は会場の都合上、一般の入場者数に制限がある。こうした中、県担当課とも協議し、新しい企

内容 あわぎんホール（徳島市）を会場にして、以下のイベントを同時開催した。

美術部門では、県内障害者の制作した美術作品を公募し優秀作品を表彰する「障がい者アーティストの卵 発掘展」。県外の先進的な活動をしている障害者支援施設の作品をお借りし紹介する「アトリエ・ブルート作品展」（協

画と場を提供したいとの考えから、徳島県文化振興財団と共催し「みんなの創造フェスター2025とくしま障がい者芸術・文化祭ー」を企画した。障害の有る無しにかかわらず、誰もが参加できて楽しめる場を提供し、多くの人に交流してもらうことをねらいとして開催した。

力：認定NPO法人ポパイ）。障害のある個人またはグループの舞台芸術部門発表の場「みんなのはっぴょうかい」。障害の有る無しにかかわらず、誰もが踊って楽しめる「みんなのディスコ」（共催：徳島県文化振興財団）。障害者支援施設でつくられた食品・グッズ等を販売する「エシカルマルシェ」（協力：とくしま就労支援協議会）など。

今年度の課題と目標

障害者芸術文化の振興は、障害者の活躍の場の創出や社会参加の意欲向上につながるとともに、障害者理解の促進等、社会的にも大きな意義がある。しかし、障害のある人となない人が芸術文化活動を通じて交流する機会には十分ではないと考える。この現状を踏まえ、一般の方々が気軽に参加できる事業を企画・開催することによ

今年度の成果と展望

「みんなの創造フェスター2025とくしま障がい者芸術・文化祭ー」では、一般の方々の参加が多くあり交流の機会となった。第4回全国公募「Tシャツデザイン展」では新たな団体の協力があり、展示会場も複数となり広がりを見せた。「障がい者アート活動支援のためのワークショップ」では、県内外の福祉施設関係者や利用者の方々に参加していただくとともに、この取り組みに興味



第4回全国公募Tシャツデザイン展（Matsushigate会場）

り、新たな交流の場を提供する。また、一般企業等に障害者芸術の素晴らしさを知ってもらうことで、支援センターの知名度を上げる。さらに多くの方々が参加できる新たな方策を企画・開催することにより徳島県の障害者芸術文化活動の更なる振興を図り、障害者の自立と社会参加を推進していく。

関心のある方の参加も増えた。今後も、美術や舞台芸術といった表現活動に取り組んでいる障害のある方々の優れた才能や素晴らしさを広く発信していくことで、多様な人々が自分らしく生きることができる社会で生きがいを見つけ、積極的に社会参加し、自立していけることを目標に活動を続けていきたい。



ワークショップ「試してみよう!」表現材料体験

実施一覧

●相談支援 [相談記録簿の作成、4/1～3/31] ●人材育成 [「あつまれ!みんなで音楽を楽しもう!!」音楽療法体験、6/14] [「みんなで一緒に舞台を楽しもう!」誰もが楽しめる舞台を作るために、10/1] [「作品ができた後ののはなし」作品の保管について考える、10/18] [「知財って何? 契約大事よね!」法律相談、11/5・11/22] [「あら簡単! メディウムはがし刷り」版画の表現、11/15] [「試してみよう!」表現材料体験、12/17] ●関係者のネットワークづくり [企画委員会、3/11] ●参加する機会の確保 [プラザギャラリーの運営、4/1～3/31 (合計11回)] [篠原稔作品展、4/27～5/26] [作品販売、6/1・3/31] [第4回全国公募「Tシャツデザイン展」7/14～9/18] [「あなたのアートで彩る2025年」ーカレンダー用イラスト募集ー、10/15] [「障がい者アーティストの卵」発掘展、2/12～2/16] [「みんなのはっぴょうかい」2/15・2/16] [「障がい者アーティストの卵」発掘展受賞作品巡回展、2/22～3/9] [「障がい者アーティストの卵」発掘展WEB、3/7]

[「Spring展」3/20～] ●情報収集・発信 [ホームページ・SNSによる情報発信、4/1～3/31 (合計90回)] [「アトリエ・ブルート作品展」2/12～2/16] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [中国・四国ブロック支援センター事業報告] [障害者芸術文化活動普及支援事業報告書] ●その他 [「みんなのディスコ」2/15・2/16] [awanowa エシカルマルシェ、2/16]

支援センター運営団体

社会福祉法人徳島県社会福祉事業団

1972（昭和47）年の設立以来、福祉施設の経営とともに福祉ニーズに応じた専門的なサービスを提供するほか、障がい者のスポーツ、芸術・文化活動の事務局を担うなど多彩な事業も積極的に展開している。これまで積み上げてきた信頼を財産とし、地域共生社会の実現に向け牽引役をはたしていく。また、県施設の指定管理業務等も行っている。

香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

〒761-1703 香川県高松市香川町浅野1032-6

TEL：087-880-1559 FAX：087-880-1559

E-mail：kagawamoves@mc.pikara.ne.jp URL：https://www.kagawamoves.com/



Pick Up! リズムワークショップ、アートワークショップ、音楽鑑賞会



元ザ・ブルーハーツのドラマー・梶原哲也氏を講師に迎え、ガムテープ太鼓を使用したリズムワークショップを実施

ねらい 障害のある方に「生の芸術」に触れてもらうことにより、文化芸術への興味を持ってもらう。そのきっかけとして、文化芸術を鑑賞する機会を設ける。また、ワー

内容 以下のワークショップ、音楽鑑賞会を実施した。①リズムワークショップ：講師はドラマーの梶原哲也氏（元ブルーハーツ）。バケツに好きな色のガムテープを貼り、ガムテープ太鼓をつくった。梶原氏のリードでいろいろなリズムのパターンをガムテープ太鼓を鳴らして楽しんだ。②アートワークショップ：美術家の講師を迎え、県内2施設でワークショップを実施。大きな紙に絵の具を使って

クショップの実施を通して、文化芸術の専門家等と連携し、文化芸術活動を支援する保護者・支援者の支援技術の向上を図る。

絵や模様を描く、模造紙・セロファン・ビー玉・絵の具を使用した創作活動を実施した。③鑑賞会：尺八、ギターのプロミュージシャンを招き、県内3施設で音楽鑑賞会を実施。生演奏の音楽に触れる機会はふだんの生活の中ではなかなか得られないが、音楽鑑賞の機会を創ることにより、ハンディがある人の生活に潤いを持たせ、豊かにすることに貢献した。

今年度の課題と目標

文化芸術に関するワークショップや音楽鑑賞会を引き続き開催することで、障害のある方や関係者に芸術に関心をもってもらう。WEB展示の拡充など、当支援センターのホームページの充実を図り、障害のある方の文化芸術活

動の支援を進めていく。

また、2025（令和7）年度開催予定の「香川県障害者芸術祭2025」に向けて、関係者のネットワークづくりに努める。

今年度の成果と展望

昨年度に引き続き、障害のある方と支援者を対象にしたワークショップを開催し、鑑賞・創造の機会の拡大、発表の機会の確保をした。これにより、多くの障害のある方に文化芸術を身近に感じてもらうことができた。支援者には、文化芸術活動の支援に対する糸口をつかむき

かけづくりを行った。今後もワークショップの開催を通じて、文化芸術を身近に感じられる機会を拡充していく。また、2025（令和7）年度開催予定の「香川県障害者芸術祭2025」に向けて、その運営に関わり、関係者のネットワークづくりを進めていく。



左／ピアニスト・梅田玲奈氏、バイオリニスト・青柳妃姫氏による音楽鑑賞会
右／芸術家の千田豊実氏を講師に迎え、模造紙・セロファン・ビー玉・絵の具を利用したアートワークショップを実施



実施一覧

●相談支援 [相談支援事業、4/1～3/31] ●人材育成 [リズムワークショップ、4/17] [アートワークショップ@在宅療養ネットワーク、8/1] [アートボランティア養成講座、8/4] [アートワークショップ@真清水荘、9/11] ●関係者のネットワークづくり [香川みんなのアート活動センター KAGAWAMOVES 運営委員会、4/1～3/31(合計3回)] ●参加する機会の確保 [香川みんなのアートギャラリー(オンライン) 4/1～3/31] [まちかどアート展、4/1～3/31] [キラリ☆と光る展覧会 in 県庁ロビー、8/14～8/23 in ひとの駅さんぽまつ、1/8～1/21] [ZEN キューブ でつなごう展、10/25～11/4] [自由に羽ばたく展覧会、11/12～12/12] ●情報収集・発信 [活動視察、4/1～3/31(合計2回)] [イラスト入りエ

コバッグの制作・販売、4/1～3/31] [アーティスト取材、6/26] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和6年度事業報告書] ●その他 [ブルース・ヒューバナー尺八コンサート、6/4～6/12(合計3回)] [音楽鑑賞会(バイオリン・ピアノ) 1/23]

支援センター運営団体

NPO 法人音楽療法グループ WALKS

ハンディのある人が参加している音楽グループ。結成は1992（平成4）年で、香川県内を始め西日本を中心に公演等の活動をしてきた。2015（平成27）年にNPO法人を取得し、生活介護の障害福祉サービス事業所を運営するなど活動の幅を広げている。

愛媛県障がい者アートサポートセンター

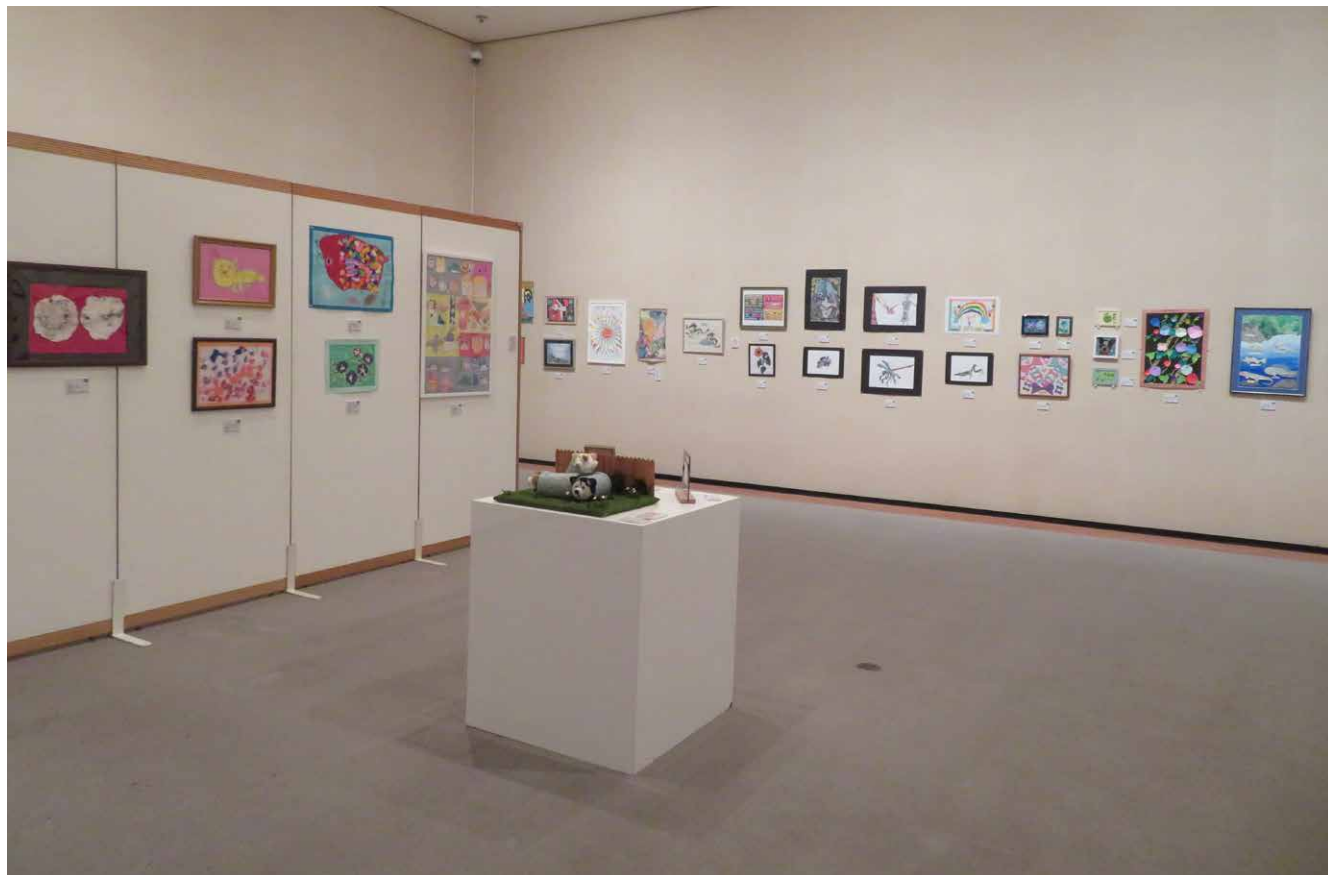
〒790-0843 愛媛県松山市道後町2-12-11(愛媛県身体障がい者福祉センター内)

TEL: 089-924-2170 FAX: 089-996-8116

E-mail: art-support@ehime-swc.or.jp URL: https://ehime-artsupport.jp



Pick Up! 令和6年度障がい者芸術文化祭



アート展の展示の様子

ねらい 「愛顔ひろがるえひめの障がい者アート展」では、優れた作品を審査・選考し、県民に周知することで創作意欲を喚起するとともに、応募のあった作品全てを県美術館に展示し、美術分野での発表の機会を確保する。「愛顔ひろがるえひめの舞台芸術」では、舞台分野のワークショップを約半年間にわたり実施し、その成果発表会を行う。「愛顔ひろがるえひめのアート広場」では、

内容 「愛顔ひろがるえひめの障がい者アート展」：絵画、書（毛筆）、陶芸、その他立体作品の4部門で募集し、応募者数372点、来場者数2,056名となった。入選作品による巡回展を11月～1月に県内6ヶ所で実施した。「愛顔ひろがるえひめの舞台芸術」：出演者の募集に際してはオーディションを実施。その後、成果発表会に向けて

「ステージパフォーマンス」「オープンアトリエ」「マルシェ」を実施し、障害の有無にかかわらず芸術文化の関心のある方が気軽に参加体験できる場を設け、共に活動できる場を設定する。また、商店街を会場として、障害のある方々の芸術文化活動について地域住民に広く知ってもらう機会とする。

ワークショップを行った。ワークショップ参加者数は40名、成果発表会の観覧者数は686名となった。「愛顔ひろがるえひめのアート広場」：大街道商店街を会場とし、ステージパフォーマンス出演4団体、オープンアトリエ参加者206名、マルシェに18事業所等が出店した。また、ステージ上でラジオ番組の公開収録が行われた。

今年度の課題と目標

芸術文化活動の発表の機会の確保として「障がい者芸術文化祭」を開催することにより、障害者の芸術文化活動の更なる振興を図る。「障がい者芸術文化祭」は、2015（平成27）年度から「愛顔ひろがるえひめの障がい者アート展」、2022（令和4）年度から「愛顔ひろがるえひめの舞台芸術」、2023（令和5）年から「愛顔ひろがるえひめのアート広場」を実施しており、継続して取り組んで

今年度の成果と展望

昨年度よりも出展者数や来場者数、観覧者数が増加した。当支援センターのホームページやInstagramによるお知らせのほか、テレビの取材や雑誌への掲載等も集客に効果があったと考えられる。また、当支援センターのホームページに応募フォームを新しく設置したことで、アート展の作品応募や、舞台芸術成果発表会の観覧募集の応募がしやすくなったようである。毎年来場してく

いる事業であることから、障害のある方々の参加は年々増えているものの、関係者以外には知られていないという課題がある。そこで、今年度は「障がい者芸術文化祭」についての周知にも力を入れるとともに、障害の有無にかかわらず芸術文化に関心のある方が気軽に参加体験できる場を設け、共に活動できる場を設定する。

ださる方もおり「障がい者芸術文化祭」の認知度も少しずつ上がってきていると感じる。今後は来場者数による評価と併せて、出展者や参加者の満足度といった多角的な視点も評価に取り入れ、障害のある方の文化芸術活動を多くの方に知っていただき、障害の有無にかかわらず参加していただけるようにしていきたい。



左／人材育成研修会「アートにまつわる権利のきほん Step3」

右／音楽劇「PIECE & PEACE」の一場面



実施一覧

●**相談支援** [相談支援、4/1～3/31] ●**人材育成** [外部指導者派遣事業、9/19～10/24(合計3回) 10/11～12/13(合計3回) 10/11～2/27(合計3回) 10/14～1/6(合計3回) 10/22～12/10(合計3回) 10/30・11/13] [三浦友美氏講演会、11/27] ●**情報収集・発信** [身体障がい者福祉センター・ほほえみ工房ぱれっと道後作品展、4/1～3/31(合計5回)] [友輪荘作品展、4/1～3/31(合計5回)] ●**参加する機会の確保** [障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術～オーディション、7/13 ワークショップ・リハーサル、7/27～1/10(合計30回) 成果発表会、1/11 成果発表会の動画(YouTube配信) 2/17～3/31 ～愛顔ひろがる えひめの障がいアート展、10/10～10/20 巡回展、11/7～1/26(合計6回) ～愛顔ひろがる えひめのアート

広場～(ステージパフォーマンス等) 11/16] ●**その他** [テクスポート 今治作品展、4/1～3/31(合計4回)] [商品化支援事業 補助金交付、7/24～12/20]

支援センター運営団体

社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団

愛媛県の100%出資により設立された公共性の高い社会福祉法人で、障がい者支援施設を始めとする7つの直営施設、4つの県営施設、3つの公益事業所を運営している。障がい者等が自立した生活を営むことができるよう、生活支援や訓練、就労・自立に向けた相談・支援や障がい者のスポーツ・芸術文化の振興等に取り組んでいる。

薬工ミュージアム 分室

〒781-0074 高知県高知市南金田28

TEL：088-879-6800 FAX：088-879-6800 E-mail：info@warakoh.com

URL：https://www.facebook.com/profile.php?id=100067579957323

**Pick Up!** 新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」上演への協力と、それを通じた人材育成事業

新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」本番の様子
撮影：釣井泰輔（ツルイスタジオ）

ねらい 劇場を拠点とした新しい共生社会の実現を目的とする公共ホールの事業（さまざまな立場の人が「舞台作品の創作」という目標に向き合いながら、経験や価値観、学びや喜びを共にする場づくり）に協力することにより、誰もが文化芸術活

内容 当センターが本事業の一環で創作・上演した演劇作品を、公益財団法人高知市文化振興事業団が再演する事業に協力し、障害の有無や社会的立場に関係なく、公募して集まった中学生から80代の25名の出演者と11名のサポーター、スタッフが、安心して舞台をつくりあげる活動に参加できる環境整備を行った。加えて、障

| 今年度の課題と目標

「高知県障害者美術展（スピリットアート）」は今年度28回目を迎えた。美術分野では一定して表現活動が行われているが、作品を展示する機会は少なく、展示についてのノウハウが蓄積されにくい状況である。東西端や中山間地域では、創造性を引き出すような体験機会も少ない。また、作品販売の機会がほとんどなく、それに関することや作品保全に関する知識について学ぶ機会もない。

舞台芸術分野では、障害の有無にかかわらず参加できる

動に参加できる継続的な土壌形成を図る。また、公立文化施設がこういった事業に取り組んでいく機運の高まりをねらうとともに、人材育成を図る。

害への理解や必要な配慮、環境整備等について学ぶ機会を設け、障害のある方が活動に参加する際のサポートや環境整備を行える人材の育成を図った。また、関連企画として、鑑賞支援サービスについて学ぶ講座を実施するなど、鑑賞サポートに関する人材育成も行った。

事業や、障害のある方の鑑賞サポートへの取り組みを始めようとする公立文化施設等が着実に増えてきているが、その機会はまだ十分ではない。また、関心はあるものの、さまざまな理由により実施に踏み切れない施設もあり、支援が必要である。以上から、東端部での美術体験を創出し、学びながら作品展示・販売の機会を提供するとともに、公立文化施設をサポートしつつ協働する舞台芸術事業を実施していく。

| 今年度の成果と展望

美術分野では、アーティストの主体性を重んじたアンデパンダン方式の「アートバザール」（「これがアートだ!」と思う作品を誰もが展示販売できる方式）を今年度も開催。継続して参加している作家の表現や展示手法に成長が見られた。また、参加回数や障害の有無にかかわらず、作家同士や支援者が交流する様子から、それぞれ学びを得ていることが感じ取れた。参加作家数は減少したが、展示点数に対する販売数の割合は増加し、アートが身近になってきていることもうかがえる。東西端や中山間地域

左／新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」の関連企画として実施した人材育成講座の様子
右／新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」の周知も兼ねて開催した展覧会「ハナカタマサキのおしごと展」を舞台に演劇作品をつくる関連イベントの発表公演の様子



実施一覧

●**相談支援** [Uプロジェクト 春のミニフェス オリジナルバッグづくりワークショップ、5/12] [ワークショップ「いろんなゲームで遊ぼう!」 6/15] [高知地域連携インクルーシブアートプロジェクト「梶原徹也のリズムワークショップ」への協力、7/14] [演劇×福祉 演劇公演「ダンデライオンズ」への協力、9/7～9/8] [『難病児・障がい児者・きょうだい児に贈る「デリバリー・パフォーマンス」 in 高知』への協力、9/20～9/22] [市民参加演劇公演「12人の怒れる土佐人」鑑賞サポート、9/23] [「第4回薬工アンパンアートバザール」会場下見・相談会、11/1～11/4] [権藤説子 presents 誰もが楽しめるバリアフリー演劇鑑賞会 in 高知 東京演劇集団 風～バリアフリー演劇～「Touch～孤独から愛へ」への協力、11/3] [知的・発達障がい児（者）にむけての劇場体験プログラム 劇場って楽しい!! 2025 in 高知 映画体験「すみっコぐらし ツギハギ工場のふしぎなコ」への協力、12/20～2/8] [「令和6年度市町村身体障害者団体指導者研修会」への協力、2/18] ●**人材育成** [新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」関連人材育成研修企画と鑑賞支援サービス提供、～3/9 鑑賞支援サービス研修「舞台芸術鑑賞支援サービスから、誰もが参加できる環境づくりについて考える」 1/25] [演劇×福祉 演劇公演「ダンデライオンズ」関連イベント アフタートーク、9/7・9/8] [わらこう Sou Sou 室 Presents「描きかきちょきちょきベッタペタ」 10/6～3/20（合計6回）] [いろいろなろを楽しむ演劇プロジェクト2024 手話演劇公演「あゆみ（短編）」 10/19] ●**関係者のネットワークづくり** [第4回薬工アンパンアートバザール 交流会、11/30 振り返り会、12/2]

の方が参加しづらいという課題と向き合い、今後も参加者の声を拾い上げ、ブラッシュアップしながら継続し、文化芸術を振興していく。舞台芸術分野では、本年度も公立文化施設等が行う事業への相談支援と協力に注力した。幅広い年代かつ、多様な障害種別の方が関わる舞台作品づくり、さまざまな配慮やサポートがある公演鑑賞、劇場ルールを学ぶ鑑賞機会など、障害のある方が主体的に参加できる土壌づくりは進んでいるが、その機会は十分とはいえない。今後も機会拡充を図っていく。

●**参加する機会の確保** [わらこう Sou Sou 室、4/1～3/31] [「ハナカタマサキのおしごと展」関連イベント「美術館×遊び場」演劇をつくってみよう!、8/21～8/25] [演劇×福祉 演劇公演「ダンデライオンズ」関連企画 出張インプロワークショップ、10/17～3/18（合計6回）] [第4回薬工アンパンアートバザール、11/15～12/1 投げ銭パフォーマンスステージ、11/30] [新・祝祭音楽劇「小さな星の王子さま」上演への協力、3/9] [高知連携インクルーシブアートプロジェクト 出張わらこう Sou Sou 室 in 土佐清水「いろいろな材料を使ってつくってみよう!」 3/15・3/16] [ちいさな蔵の展覧会2025、3/30～] ●**情報収集・発信** [作品・作家調査、4/1～3/31（合計22回）] [実態把握調査、4/1～3/31（合計5回）] [情報収集、4/1～3/31（合計49回）] [「ハナカタマサキのおしごと展」 7/13～11/4] [「全国公立文化施設協会中四国支部第2回支部委員会」での取り組み紹介、11/8] [「こうち NPO フェス2024」へのブース出展・プレゼンテーション、12/14]

支援センター運営団体

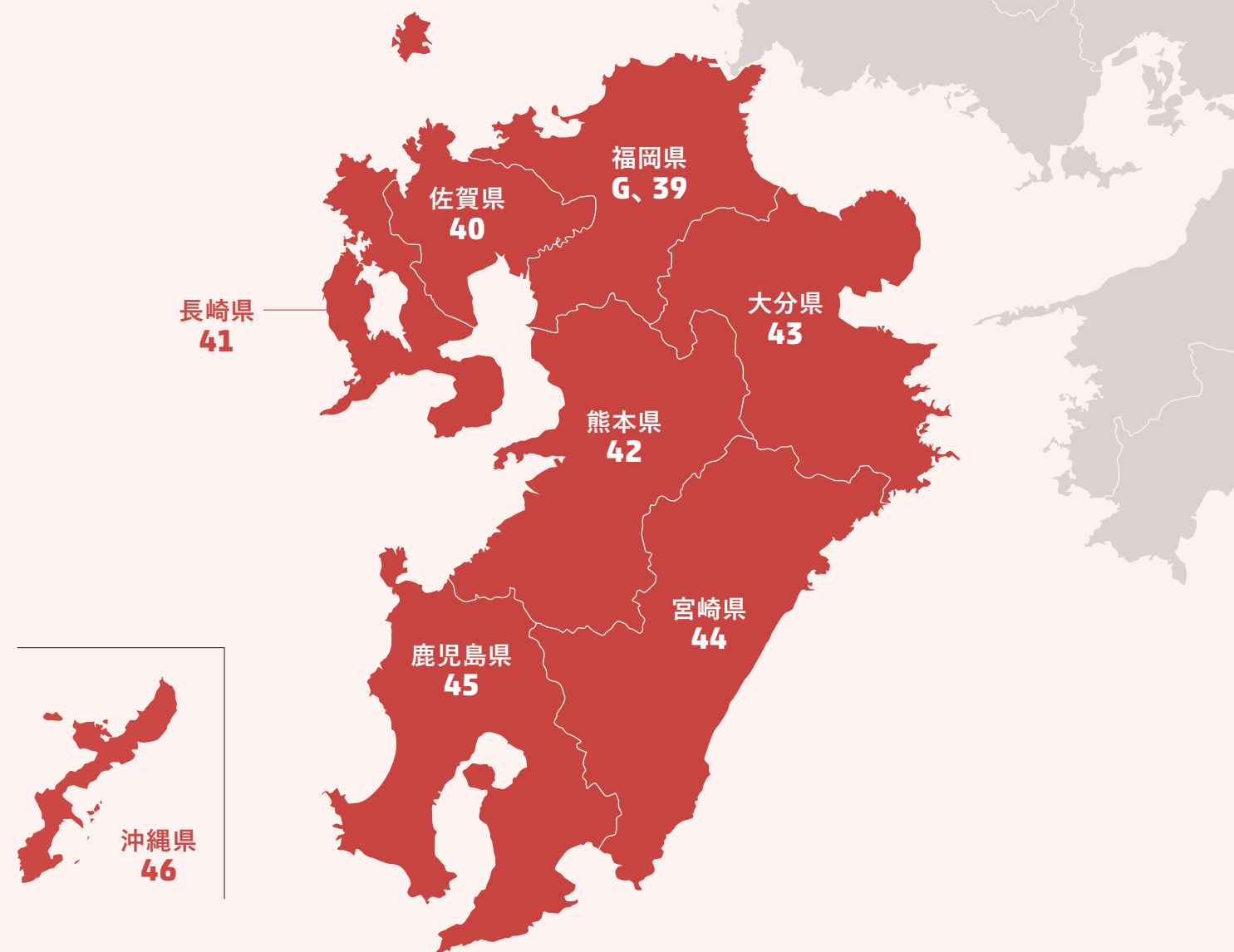
特定非営利活動法人蛸蔵

多目的施設「蛸蔵」の運営を通し、演劇、音楽、映画、美術等の制作並びに発表の場を提供している。また「薬工ミュージアム」を2022（令和4）年より運営。同館は、福祉とアート、地域とアートをつなぎ、誰もが多様なものとつながり、多様なものの存在を楽しむことができる、創造的かつフラットな場となることをめざしている。

九州ブロック

G 九州障害者 アートサポートセンター

広域センター運営団体：特定非営利活動法人まる



ブロック内の状況

沖縄県においては、2024（令和6）年度に支援センターが設立されることに向けた設立準備と設立後の運営支援が重要な課題となっていた。また、鹿児島県では、支援センターの委託団体が変更となることで、運営の引き継ぎから事業計画のサポートが求められていた。過去に福岡県の支援センターで成果を上げた「文化と福祉のマッチング事業」は、宮崎県でも文化施設関係者との連携を図るために同様の事業展開を計画した。一方、幾つかの支援センターでは、予算・人員の制約、認知度の低さ、他分野の団体との連携不足等が課題となっている。

九州ブロック広域センター：九州障害者アートサポートセンター

特に、特別支援学校や児童向けの福祉関係団体からの芸術活動に関する問い合わせが増えていることを受け、大分県支援センターが実施している「アウトリーチ事業」を参考に、障害児や保護者、支援者向けのワークショップを展開していきたいと考えている。

さらに「九州ネットワーク会議」では、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県の各支援センターが参加し、文化施設における障害のある人たちへの合理的配慮の提供、芸術文化による社会包摂についての研修を行った。

福岡県

担当課：人づくり・県民生活部文化振興課

39 FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）
支援センター運営団体：特定非営利活動法人まる

佐賀県

担当課：文化・観光局文化課

40 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC
支援センター運営団体：社会福祉法人はる

長崎県

担当課：福祉保健部障害福祉課

41 長崎県障害者芸術文化活動支援センター
支援センター運営団体：長崎県障害者社会参加推進センター

熊本県

担当課：健康福祉部子ども・障がい福祉局障がい者支援課

42 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館
支援センター運営団体：社会福祉法人愛隣園

大分県

担当課：福祉保健部障害者社会参加推進室

43 おおいた障がい者芸術文化支援センター
支援センター運営団体：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

宮崎県

担当課：総合政策部みやざき文化振興課文化振興担当

44 宮崎県障がい者芸術文化支援センター
支援センター運営団体：社会福祉法人ゆくり（アートステーションどんこや）

鹿児島県

担当課：保健福祉部障害福祉課障害者支援室地域生活支援係

45 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター（KADAC / カダック）
支援センター運営団体：特定非営利活動法人 Lanka

沖縄県

担当課：生活福祉部障害福祉課

46 沖縄県障害者芸術文化活動支援センター（ricca / りっか）
支援センター運営団体：社会福祉法人トゥムヌイ福祉会

九州障害者アートサポートセンター

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1 グレイスビル602号

TEL：092-516-0677 FAX：092-516-0677

E-mail：info@kda-support.org URL：https://kda-support.org/



Pick Up! 沖縄県支援センターの設立サポートと展覧会&セミナー協働開催



沖縄で開催したセミナー「障害のある人たちの芸術活動のこれからを考える」の様子

ねらい 沖縄県における障害者の芸術文化活動の振興、その支援体制の構築をめざし、4年半前から実施してきた準備会やネットワーク会議を通したセンター設立に向けたサポートと、設立後の相談支援体制の整備や実態調査のノウハウの提供など、センターの活動を継続的にサポートを行う。また、センターの周知とネットワーク構築のために、展覧会とセミナーを同時開催し、関係機関

内容 沖縄県支援センター設立に向けて、運営チームの編成、事業計画の策定、関係機関との連携体制づくり等の支援を行った。設立後も事業計画の策定や関係機関とのネットワーク構築など、センターの円滑な運営をサポートした。

また、センターの周知とネットワーク形成、障害者の芸

や一般市民への広報活動を行うとともに、障害のあるアーティストの作品発表の機会を創出することも重要なねらいとしている。

これらの取り組みを通して、沖縄県における障害者の芸術文化活動の更さるなる発展と、地域社会におけるインクルージョンの促進をめざす。

術文化活動への理解促進を目的として、展覧会とセミナーを協働で開催した。展覧会では、沖縄県内の福祉事業所による障害のある人たちの作品を展示し、セミナーでは、事例紹介や講演、ディスカッションを通して、今後の活動につながる学びや交流の機会を提供した。

今年度の課題と目標

九州における障害者の芸術文化活動支援は、沖縄県支援センターの設立により九州全県に支援センターが設置されるなど、大きな進展を見せている。各県でセミナーやワークショップ、展覧会等が開催され、地域の実情に応じた支援プログラムが実施されている。また、文化施設や教育機関、自治体との連携も進み、新たなネットワークが形成されている。

しかし、各支援センターの人員・予算不足、成果への質

的評価の不足、自主的・持続的なネットワーク運営の遅れ、広報・情報発信の弱さといった課題も明らかになってきた。これらの課題に対し「成果測定と効果検証の仕組みづくり」「支援センターの自立運営支援」「情報発信と成果の『見える化』の強化」「広域センターとしての機能整理と戦略的支援」という4つの目標を掲げ、具体的な取り組みを進めていく。

今年度の成果と展望

本事業の成果として、九州全県への支援センター設置、地域課題に即した多様な支援プログラムの実施、他分野との協働による新たなネットワークの創出、芸術文化活動の社会的評価と関心の高まり、自治体計画への位置づけの進展、九州ブロックにおける情報共有と人材育成の促進が挙げられる。これらの成果は、各県の実情に応じた支援プログラムの展開や、文化施設、教育機関、自治体との連携により実現されたものである。特に、沖

縄県での芸術大学との連携や、長崎県・宮崎県での美術館との協働は、今後のモデルケースとなる可能性を示している。

一方、人員・予算不足、広報体制の弱さ、成果の質的評価の不足、ネットワーク運営の継続性等が課題である。今後は成果の見える化、自立運営支援、広域センターの機能整理と戦略的支援の推進により、九州における障害者への芸術文化活動支援の更なる発展をめざす。



左／宮崎県立美術館で開催した「現場体験ワークショップ」の様子

右／鹿児島で開催したセミナー「芸術活動の進め方@KAGOSHIMA」の様子



実施一覧

●各支援センターに対する支援 [交流&実践セミナー「はじめての歩 vol.2」 11/21・12/18・2/5・2/13 (合計4回)] [現場体験ワークショップ、1/15] [セミナー「芸術活動の進め方@KAGOSHIMA」 1/22・2/19] [セミナー「障害のある人たちの芸術活動のこれからを考える」 3/22] ●ブロック内の連携の推進 [芸術×福祉九州ネットワーク会議、7/4・9/3・11/26・1/21] ●参加する機会の確保 [みんなのアート展 2024 FUKUOKA、6/10～6/16 (合計7回)] [劇場って楽しい!! 2024 in アクロス福岡、8/3 (合計2回)] [展覧会「わったーアート展」 3/22]

広域センター運営団体

特定非営利活動法人まる

1997 (平成9) 年に無認可の福祉作業所として開設して 2007 (平成19) 年に NPO 法人化。当初から障害のある人たちが自分らしく生活できる環境を構築することを目的に、創作・表現活動を中心に行なっている。現在、施設運営事業では3ヶ所の事業所を運営し、コミュニケーション創造事業では、行政や地元企業との協働事業等を展開している。

FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1 グレイスビル602号

TEL：092-516-0677 FAX：092-516-0677

E-mail：fact@maruworks.org URL：https://fact.or.jp/



Pick Up! アウトリーチ事業



特別支援学級の生徒を対象とした「アウトリーチ事業」の様子

ねらい 特別支援学校や特別支援学級等にアーティストを派遣し、障害のある子どもたちに直接芸術文化に触れる機会を提供することをねらいとする。学校という日常の場で創作活動を体験することで、自己表現の喜びや他者との交流を促進し、感性やコミュニケーション力を

内容 今年度のアウトリーチ事業では、福岡県内の特別支援学校および特別支援学級を対象に、ダンスを中心とした創作活動のワークショップを実施した。県内のアーティスト3組を派遣し、6校で子どもたちと一緒に表現活動を行った。活動は授業の一環として行い、子どもたち

育むことを目的としている。また、教育現場とアートの接点をつくることで、教職員や地域社会にも芸術活動の意義を広め、インクルーシブな学びの環境づくりにつなげていくことをめざして実施した。

の主体性を尊重しつつ、楽しみながら身体表現を学ぶ機会を提供した。学校や教育委員会との連携により多くの応募があり、文化芸術への関心の高さがうかがえたことから、今後はジャンルを広げて多様なプログラムの展開をめざしていく。

| 今年度の課題と目標

今年度はアウトリーチ事業や各種セミナーを通じて、障害のある方の芸術文化活動を支援する取り組みが広がり、多様な関係機関との連携も進展した。一方で、普通学校や放課後等デイサービスとの更なる連携、学生や地域団体との継続的な関与、県内文化施設との協働体

制の強化が今後の課題となっている。次年度は、ジャンルを広げたアーティストの派遣や、障害への理解を深める教育プログラムの充実、地域ごとの継続的な活動拠点の整備、次世代の人材育成等を通じて、誰もが文化芸術に参加できる包摂的な環境づくりをめざしていく。

| 今年度の成果と展望

今年度は、アウトリーチ事業の実施により、特別支援学校や学級との新たな連携を築き、多くの子どもたちに芸術文化に触れる機会を提供することができた。また、各種セミナーやシンポジウムを通じて関係者の理解促進やネットワークの強化も進んだ。今後は、活動の対象を普

通学校や地域全体へと広げ、ジャンルの多様化や学生との連携による人材育成を進めていく。さらに、県内各地で継続的な活動が行えるよう、文化施設や団体との協働体制を強化し、障害の有無にかかわらず、誰もが文化芸術に親しめる社会の実現をめざしていく。



左／著作権セミナー「知財でポン！」でカードゲームをプレイしている様子

右／北九州で開催した商品化セミナーの様子



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31(合計386回)] ●人材育成 [商品化セミナー@北九州、12/4] [著作権セミナー「知財でポン！」1/23] [障がい者アートシンポジウム、2/2] ●関係者のネットワークづくり [現場体験ワークショップ、6/29] [劇場って楽しい!! 2024 in アクロス福岡、8/3(合計2回)] ●参加する機会の確保 [みんなのアート展 2024 FUKUOKA、6/10～6/16(合計7回)] [アウトリーチ事業、1/14～2/26(合計6回)]

支援センター運営団体
特定非営利活動法人まる

1997(平成9)年に無認可の福祉作業所として開設し、2007(平成19)年にNPO法人化。当初から障害のある人たちが自分らしく生活できる環境を構築することを目的に、創作・表現活動を中心に行っている。現在、施設運営事業では3ヶ所の事業所を運営し、コミュニケーション創造事業では、行政や地元企業との協働事業等を展開している。

佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC

〒849-0917 佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬 1168-1 社会福祉法人はる内

TEL: 080-2794-6195 FAX: 0952-34-1024

E-mail: info@s-brut.net URL: https://s-brut.net/



Pick Up! 「事業所サポート」、アウトリーチの一環「出張創作体験ワークショップ」



「出張創作体験ワークショップ」の様子

ねらい 2023 (令和5)年度に実施した「障がいのある人のアート活動についてのアンケート」において、「SANCからのサポートを希望する」と回答していただいた38の事業所等を対象としてサポートに取り組む。アート活動に関心を持つ事業所等に対し、実際のニーズを把握し、それに即した支援を行うことで、より効果的で実践的なサ

内容 人材育成および創作機会を創出する「出張創作体験ワークショップ」を7件実施した。支援者が障害のある人と一緒に創作活動に取り組むことによって、障害のある人が生き活きと表現を楽しむ様子や、新しい一面を目にすることにより、アート活動から生まれるポジティブな影響を実感し、アート活動実践についての具体的なイ

ポート体制を構築することを目的とする。アンケート結果を踏まえた対象事業所へのヒアリングを通じて課題を抽出し、課題解決のサポートとして「出張創作体験ワークショップ」行うことで、継続的な活動の促進と環境整備につなげる。

メージや支援のヒントとしてもらうことができた。多くの事業所が活動の継続を希望し、なかにはワークショップ終了後、その場で施設長がアート活動の継続と画材購入に対して承認を出すこともあった。また、ふだんはアート活動に取り組む機会の少ない障害のある人にとって、創造機会の創出につながった。

今年度の課題と目標

「福祉事業所等における指導者の確保」「障害のある人が芸術活動に取り組むための機会・環境へのニーズの増加への対応（機会創出）」を主な課題とした。課題の解決へ向け、佐賀県障害者芸術文化活動普及支援事業の募集要項が定める7領域から、「芸術文化活動を支援する人材の育成等」「関係者のネットワークづく

り」を、重要度の高い取組と位置づけた。「指導者の確保」については、「人材育成」と「外部指導者とのマッチング」という2つのアプローチが考えられる。今年度は、「人材育成」と「機会創出」両方の効果を期待できる取り組みのバランスを多くし、課題の解決に取り組んだ。

今年度の成果と展望

2024 (令和6)年度は、佐賀県において障害のある人が芸術文化活動に取り組みやすい環境を広げるため、「地域のさまざまな担い手が主体となり連携・協力し、自発的に活動できるようになること」を成果と位置づけた。当支援センターが関わる取り組みの中から、地域のさま

ざまな担い手が主体となる自発的な活動が生まれている。一つひとつは大きな取り組みではないが、このような取り組みによって、佐賀県において障害のある人が芸術文化活動に取り組みやすい環境を広げる効果を生み出している。



左/オープンアトリエ「ゆつたらアートデイ」の様子
右/「第8回 スター発掘プロジェクト in 佐賀」パフォーマンスの様子



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [アート活動サポート、4/18～12/17 (合計9回)] ●人材育成 [出張創作体験ワークショップ、4/20～12/19 (合計6回)] [創作体験ワークショップ、9/14～11/9 (合計4回)] ●参加する機会の確保 [事業所サポートアウトリーチ「出張なんでもステージ」12/25] [スター発掘プロジェクト、2/2] ●その他 [オープンアトリエ「ゆつたらアートデイ」4/20～3/15 (合計12回)]

支援センター運営団体

社会福祉法人はる

2002 (平成14)年に設立以来、福祉支援サービスの創造と展開、整備を積み上げてきた。子どもから大人まで、活動や仕事を通して地域の方々と触れ合ったり協働したりすることで、障害のある人たちの生活が豊かになり、地域理解が深まることをめざした活動に力を入れている。

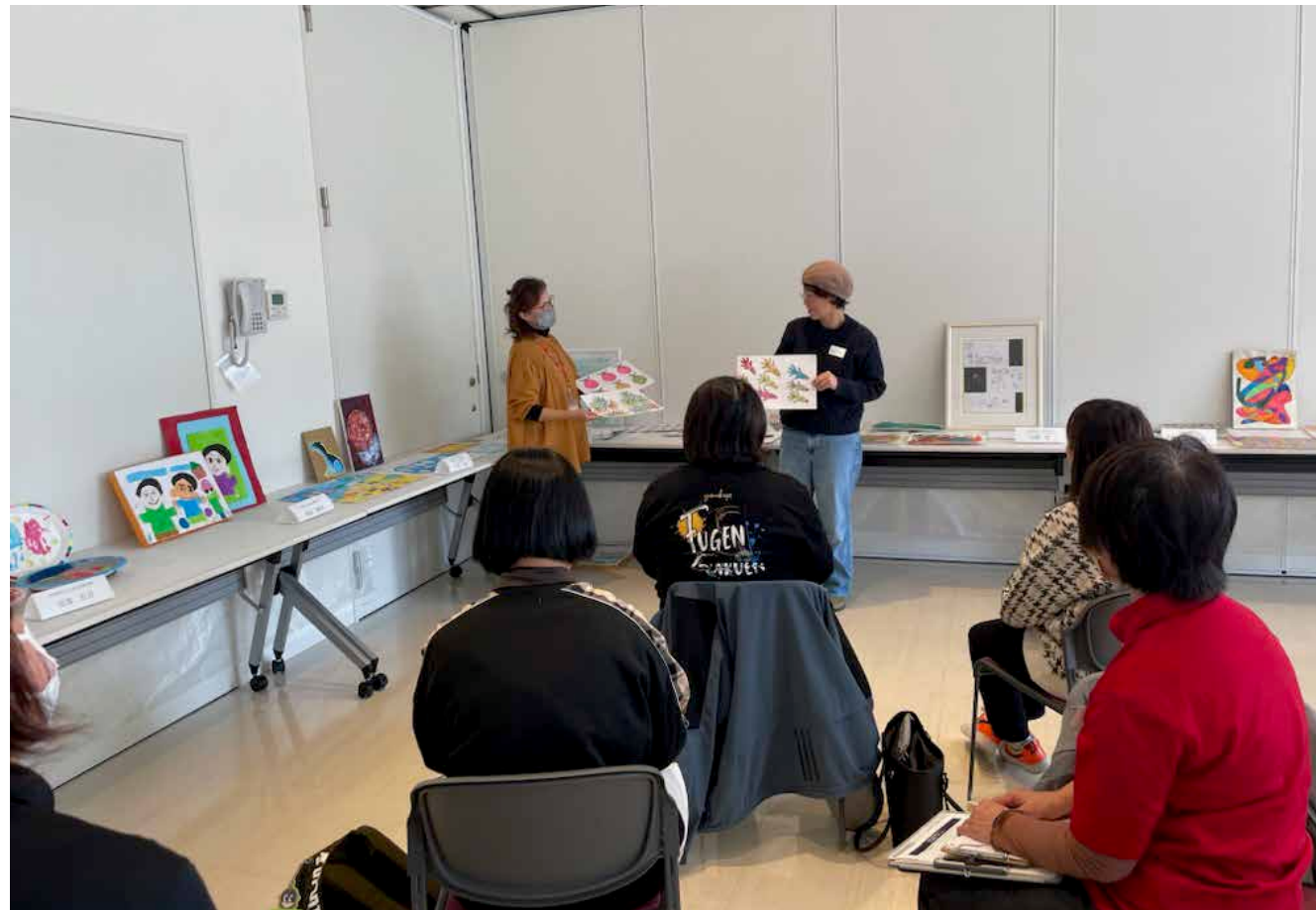
長崎県障害者芸術文化活動支援センター

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3-24 総合福祉センター内

TEL: 095-842-8178 FAX: 095-849-4703

E-mail: nagasaki-suishin2@mbr.nifty.com URL: <https://nagasaki-artsupport.com/>

Pick Up! 交流&実践セミナー「はじめの一步 vol.2」



交流&実践セミナー「はじめの一步 vol.2」1回目講座の様子

ねらい 2025 (令和7)年度「全国障害者芸術・文化祭」を見据え、アート活動やその支援の活性化、支援者同士のつながりの形成、更には作者や作品の発掘を目的とした。作品はあるが、発信の仕方が分からないと感じている支援者や作者を対象に、最終的に一つの展示会を作り上げることを目標に据えた。これにより、相互の交流を促

内容 セミナーは11月～2月の3回連続講座で開催した。初回はそれぞれ作品を持ち寄り、見せ合いながら作品の魅力を語り、意見を交わした。2回目は広域センターから招いた講師や県内で活動しているパネラーより、さまざまな展示の実例や手法を学んだ。その後、実際の展示に向け、作品の選定・額装・キャプション作成等の

進し、発信するための知識や手法を学ぶことをねらいとした。また、成果展示会は作者にとって初めての発表機会となり、次年度に向けて障害のある方々のアート活動について知ってもらいきっかけとなることも、ねらいの一つである。

準備に1ヶ月間かけて取り組んだ。最終回では、県美術館ギャラリーにて前半・後半に分けて展示作業を行い、異なる立場や事業所のメンバー同士で協力、交流しながら、展示のノウハウを学んだ。成果となる展示会は約2週間にわたり一般公開し、約200名の来場者に見ていただくことができた。

今年度の課題と目標

2025 (令和7)年度「全国障害者芸術・文化祭」の本県開催を見据えたとき、本県には障害者アートに触れる場(発表の場)がいまだ少ないことが分かった。また、表現活動に取り組む障害者は多く存在するはずだが、支援者に十分な知識や横のつながりがなく、そのため発信に至っていない現状がある。さらに、そのような状況が原

今年度の成果と展望

人材育成では、展示・発信の意義・手法を学びながら、実際に作品展をつくりあげる実践セミナーに取り組んだ。日程とプログラムを工夫したことから参加者同士のつながりも強まり、参加者のスキルアップも感じられ、今後の自主的な活動につながる機会とすることができた。また助成事業では、助成金の交付に加え、事業実施にかかる助言等も行い、県内各地から7事業が参加した。展示

因で、支援センターとしても障害者アートの実態を把握できていないという課題が浮かび上がった。については、昨年度に引き続き、支援者や作者によるアウトプットに向けた後押しとなることに重点を置き、人材育成や、発表の機会に対する助成事業に取り組む。

や発表の形式、対象者の幅もさまざまに広がり、来年度の「第25回全国障害者芸術・文化祭」につながる成果を得ることができた。これからも展示・発信の機会の創出に合わせた人材育成や、こうした機会が増えていくことを踏まえた権利関係の周知等に取り組み、支援を続けていく必要があると考える。



左/セミナーの成果として一般公開した展示会
右/「発表の機会確保事業助成金」活用事業より「ホワイトハンドコーラス」実施風景



実施一覧

●相談支援 [相談窓口の運営、4/1～3/31] ●人材育成 [交流&実践セミナーはじめの一步 vol.2、11/21～2/13(合計3回)] ●参加する機会の確保 [ウェブサイトでの作品紹介(オンライン) 4/1～3/31] [「発表の機会確保事業助成金」活用事業「ピースピース工場」8/18・9/15] [「発表の機会確保事業助成金」活用事業「わたぼうしコンサートinながさき2024」9/1] [「発表の機会確保事業助成金」活用事業「ちよろずちよろず音楽祭2024」10/17・10/19] [「発表の機会確保事業助成金」活用事業「みんなのフェス」11/1～11/7] [「発表の機会確保事業助成金」活用事業「ホワイトハンドコーラス長崎の結成」11/10～2/11(合計4回)] [「発表の機会確保事業助成金」活用事業「NAGASAKI ART 2WEEKS アートが溢れる文化をつくる=vote展」12/2～12/15] [はじめの一步展 vol.2、12/7～12/20] [「発

表の機会確保事業助成金」活用事業「交流芸能祭」2/9] ●情報収集・発信 [ウェブサイト情報発信(オンライン) 4/1～3/31] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [事業報告ニュースの発行、3/25]

支援センター運営団体

長崎県障害者社会参加推進センター

視覚・聴覚・内部の各協会と市町協会からなる県身体障害者福祉協会連合会に事務局を置き、県手をつなぐ育成会、県精神障害者家族連合会、県精神障害者団体連合会、県知的障がい者福祉協会、県精神障がい者福祉協会といった県下の障害福祉団体と連携しながら、障害者の社会参加を進めるための事業に取り組んでいる。

障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

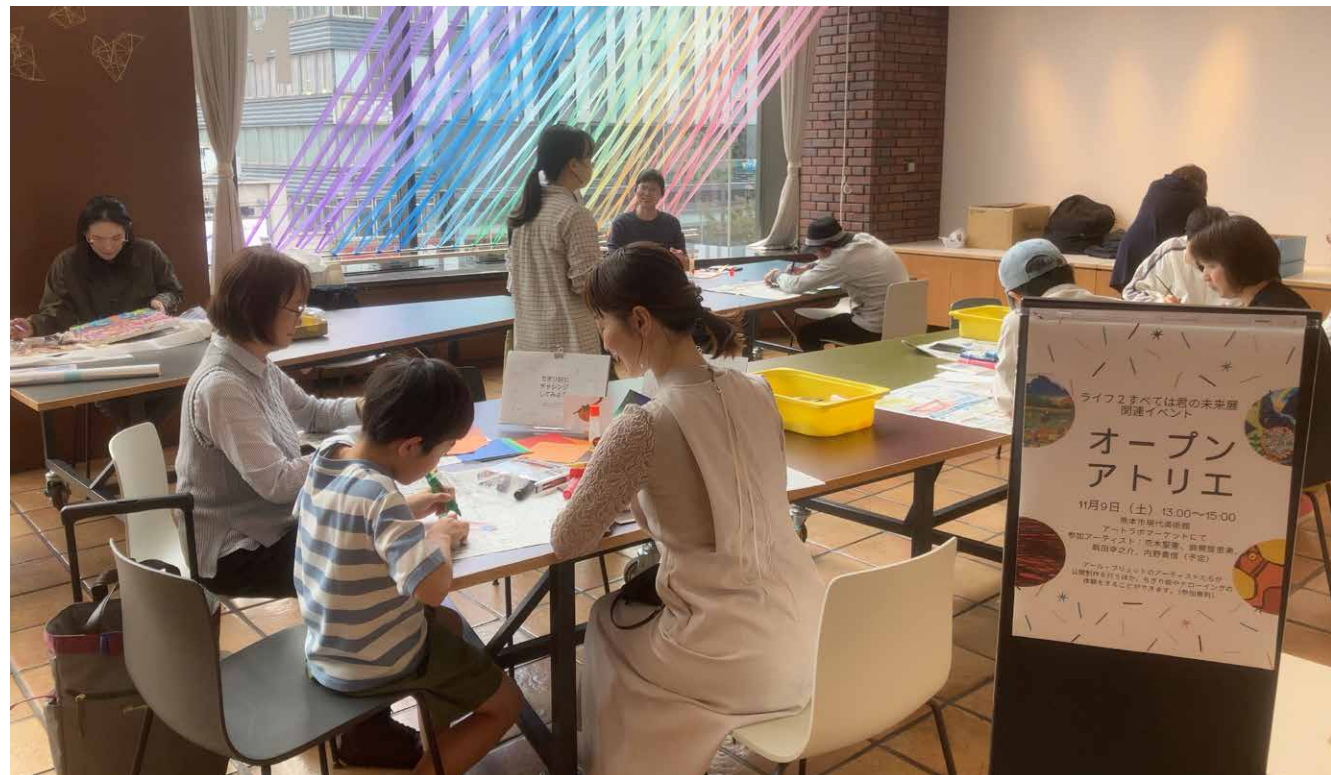
〒861-0551 熊本県山鹿市津留2022

TEL：0968-43-2771 FAX：0968-43-2793

E-mail：ailinkan@magma.jp URL：https://www.aileans.com/art/



Pick Up! 展覧会10周年記念事業ならびに文化施設との協働



熊本市現代美術館と協働で行った「オープンアトリエ&創作体験」の様子

ねらい 市民団体や文化施設と共催してきた展覧会（「生の芸術 Art Brut 展覧会」）が10周年を迎えたことを記念し、図録を発行することになった。毎年生まれる、国外も含む新たなつながりの中で、県内64名、国外6名の作家と支援者の足跡を残したいと考えている。そして、文化施設等とのさらなる連携を図り、その期待も受けながら、当支援センターが作家への中間支援として機能することを目標とした。支援センターの単独事業で

内容 公立の美術館と劇場、それぞれとの協働を通して、芸術活動支援の広がりや質の向上を図った。公立美術館主催の展覧会に選出された作家の情報提供や、訪問調査のための日時調整等の協力を行った。また、展覧会のオープニングに同行する支援、作家の送迎を含むオープンアトリエにおけるイベント時の現場での協力など、展覧会の運営と作家の社会参加を支えた。

は活動の内容に限界があるが、専門性の高い文化施設等との協働は、専門知識やスキル、スタンダードレベルが加わることにより、障害者芸術活動支援の質が高まると考える。支援センターだけではなく、芸術活動を行う福祉事業所や個人なども含め、文化施設との協働から、県内の芸術活動支援の質を高めることをねらいとして活動していく。

また、熊本県立劇場の評価委員として当支援センター次長が任命され、劇場の事業を複数回視察し、障害のある人たちの芸術活動支援を行う者の視点から、事業へのアドバイスを行った。文化関係者とは違った福祉的な視点を交えた助言は、劇場で今後開催される事業に広がりを生むと期待する。

今年度の課題と目標

今年度は熊本県立美術館での展覧会が10回目を迎えるにあたり、「①活動の振り返り」を行う。そして、これまでの課題「②作品の保管問題」に対し協力とアドバイスを続け、家族や事業所ごとに工夫しているものの根本的な解決には至っていないため、保管方法の検討を続ける。次に、「③作品売買や二次利用」等が、作家・家族・支援者のニーズとなる一方で、作家の利益を守る支援者と社会の意識向上という課題も内包しており、丁寧に進め

今年度の成果と展望

本年度は、地域おこし団体やアートイベント協議会との協働により、事業を展開できた。また、本会登録作家数名が熊本県立美術館主催の展覧会に選出されたり、企業の「アートアワード奨励賞」を受賞し、巡回展示に選ばれるなど、作家の活躍が目立った。各団体や文化施設が行う障害のある作家らの芸術活動支援が活発にな



「生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10」展示。木村敬熊本県知事も来場された

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [実践報告会、6/7] [生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 ギャラリーツアー、12/11] [障文芸ネットフォーラム実践報告、2/8] ●関係者のネットワークづくり [やまがマルシェ、4/28] [子ども陶芸粘土創作ワークショップ、7/13] [熊本県立劇場 事業評価委員会、10/10] [生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 韓国作家との交流会、12/11] [韓国芸術文化活動支援団体視察・意見交換、1/13～1/14] [熊本県立劇場 事業評価委員会、3/11] [生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 つなぎセクション展、3/15～3/30] [つなぎセクション展、観覧ツアー、3/16] ●参加する機会の確保 [ギャラリーウォール「中満優生 作品展」4/1～4/30 「ゆうあい園 さをり織展」6/1～6/28「デイケア 陶芸展」7/1～7/31 「僕の世界 ぼくのかたち展」3/26～] [作品レンタル事業、7/9・1/21] [九社連研修会内

る必要がある。

①に関して、市民団体「アール・ブリュットパートナーズ熊本」とともに、10周年記念図録を編集する。また、課題②③に対応するため、文化施設を始めとするネットワークを活用してアイデアと方法を検討し、確実に前進する支援を行う。特に、作家と社会資源、そして社会をつなぐ役割強化を目標とする。

り、県内で認知度が高まっていることを実感している。さらに、作家・家族から芸術活動に関する協力要請や備品貸し出しの要望も増え、作家・家族・支援者が主体的に芸術活動・広報を進める動きも活発化している。主体的活動支援、中間支援など、個別にさまざまな関わり方を通して、県内の芸術活動を盛り上げていきたい。



熊本の作家・家族・支援者と韓国の作家・家族の交流会

展示、9/11～9/12] [移動美術館 やまがアート@YAMAGA BASE、10/26～11/3] [移動美術館 県庁地下通路、11/11～11/15] [生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10、12/11～12/22] ●その他 [ライフ2展 オープンアトリエ 同行支援、11/9]

支援センター運営団体 社会福祉法人愛隣園

1950（昭和25）年創設の社会福祉法人愛隣園は、児童養護施設、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設と在宅サービス16事業を行う法人である。障害者支援施設愛隣館は、熊本県全域で多分野連携による障害者の芸術活動支援ネットワークを築くため、2014（平成26）年市民団体アール・ブリュットパートナーズ熊本の創立を図り、事務局を担っている。

おおいた障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029 大分県大分市高砂町2-33 iichiko 総合文化センター内

TEL：097-533-4505 FAX：097-533-4013

E-mail：artbrut-oita@emo.or.jp URL：https://artbrut-oita.com/



Pick Up! 企画展 vol.6「手から始まるアドベンチャー」



「手から始まるアドベンチャー」展 鑑賞の様子

ねらい 大分県立美術館を会場とする企画展では、大分県内在住の障害のある作家を紹介する展示と、国内外で高い評価を受けている県外の福祉施設のアート作品を紹介する展示、2種の展覧会を抱き合わせて毎年開催してきた。大分県内のアーティストには作品発表の場を提供し、県民には大分県と先進地の作品を両方鑑賞して

内容 展覧会を2部構成とし、第1部は「ユニバーサル・ミュージアム 大分出張展」を、第2部は「大分のつくり手たち」を開催した。第1部では大阪の国立民族学博物館が2021（令和3）年に開催した「ユニバーサル・ミュージアムーさわる！“触”の大博覧会」から選抜作品を展示し、展示されている全ての物に触れて鑑賞することができた。第2部では、大分県の作家からも触れる作品を幾

いただくことで、障害のある人の作品や表現に幅広く触れる機会を提供している。今回は観覧者の幅を広げることが目的とし、目で鑑賞するだけにとどまらない「さわる鑑賞」を取り入れた展覧会をひらくことで「鑑賞機会の拡大」の充実に努めた。

つか提供していただいた。視覚障害のある人や近隣の小学校の子ども達など、幅広い層の県民が来場し、観覧者数は12日間で5,299名と過去最高となった。広報活動では福祉施設・団体や特別支援学校のほか、市報や公民館、ラジオ等を活用して、さまざまな媒体での発信に力を入れた。

今年度の課題と目標

大分県が2024（令和6）年度に策定した「大分県障がい者計画（第2期）」を元に、7つの方向性である①相談支援、②創造機会、③発表機会、④鑑賞機会、⑤人材育成、⑥交流事業、⑦情報収集・発信、を軸に事業を展開している。「②創造機会の拡充」における実施事業のうち、福祉施設や特別支援学校へ芸術文化活動を届ける「ア

ウトリーチ」では、今年度は募集枠14件に対して応募件数が4倍以上となり、毎年増え続けている。新鮮な体験活動と当支援センターによるコーディネート両方が現場から強く求められているのを実感しており、引き続きさまざまな施設や学校に関わることで、参加者のニーズ把握に努めた。

今年度の成果と展望

ニーズの高いアウトリーチでは、福祉施設や特別支援学校等に絵画や音楽、身体表現等の専門性の高い講師を派遣した。施設や学校が求めるニーズに応じた活動を提供することにより、参加者が満足する事業を展開するとともに、障害者の芸術活動をサポートする支援者に対しても、指導・支援の在り方について具体的に事例を示

すことができた。県下各地から要望があがり、訪問先に偏りがないよう実施先を決定して実施してきているが、アウトリーチへの応募だけでなく相談そのものもない市町村については、今後当支援センターの広報も含め、対象地域を訪問するなど、さまざまなアプローチを検討することが求められる。



左／アウトリーチ「音楽療法による音遊び」実施風景

右／交流事業「絵手紙で感謝の気持ちを伝えよう」の様子



実施一覧

●**相談支援** [相談支援、4/1～3/31（合計272回）] ●**人材育成** [支援・指導者のための創作ワークショップ in 日田、7/28 in 佐伯、3/1] ●**参加する機会の確保** [gallery MAPO、5/2～（合計6回）] [おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展 vol.6 手から始まるアドベンチャー、10/30～11/9] [オリジナル音頭ワークショップ・舞台「手から始まる音頭を作ろう」10/31～11/3] [わたしのパレット展、3/4～3/30] ●**情報収集・発信** [情報発信（オンライン）4/1～3/31（合計206回）] [調査・発掘、5/29～3/18（合計5回）] ●**その他** [オープンアトリエ in コトブキヤ駅南、6/9～3/9（合計16回）] [アウトリーチ（支援学校や施設のニーズに合わせた専門講師の派遣、アート体験活動の実施）7/17～2/27（合計14回）] [鑑賞支援つき 詩を愉しむ日本の歌コンサート、7/30]

[オープンアトリエ地域開催（玖珠町）8/1・8/23（津久見市）8/8・8/21] [アートを感じるワークショップ9/4・10/3] [彫刻をさわるワークショップ in 竹田、9/14]

支援センター運営団体

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

大分県立総合文化センターおよび大分県立美術館を拠点として、県民の幅広い欲求に応えられる多様な文化事業やスポーツの振興に関する事業を実施するとともに、県民と外国人の相互理解と友好親善の増進に努め、もって潤いのある県民生活の創造と健やかで個性ある地域づくりに寄与することを目的として、さまざまな事業を行っている。

宮崎県障がい者芸術文化支援センター

〒880-0825 宮崎県宮崎市東大宮4-23-1

TEL：0985-27-2823 FAX：0985-89-6000

E-mail：donkoya@jl.moo.jp URL：https://donkoya.moo.jp/artistic-culture_center/



Pick Up! 「お母さんと子どもの気になる?!美術館」



「お母さんと子どもの気になる?!美術館」高鍋町美術館ツアーの様子

ねらい 障害（発達・知的・精神障害）特性のある子どもと、その親の外出の機会と鑑賞支援をねらった事業である。親子が安心して訪れることのできる場所や、芸術文化イベントに参加できる環境づくりをめざすとともに、アクセシビリティ等のハード面だけではなく、鑑賞を楽しむ。

内容 相談支援から関りが深くなった「家族の会」の外出の機会と鑑賞支援を行っていくため、意見交換会に定期的に参加し、親子のリアルな悩みや想いを聞きだす。「家族の会」で、当支援センターの存在や活動を紹介し、外出の機会づくりと鑑賞支援のきっかけづくりを行う。「障がい者の作品鑑賞について考える会」においても協

今年度は親子での鑑賞に注目し、合理的配慮を含めた外出の機会づくりや、どのような支援が必要かを明確にするため、親子や文化施設における現状の課題を把握する。

力委員と話し合いを重ね、クールダウンの部屋が設置された「高鍋町美術館」で鑑賞会をひらいた。鑑賞後のアンケート調査と振り返りの会を行い、美術館スタッフと親子からの課題把握を行った。引き続き、合理的配慮も含めて外出の機会づくりと鑑賞支援を行っていく。

今年度の課題と目標

宮崎県全域における課題解決のため、今年度も引き続き、①認知度の向上、②情報の発信の強化、③裾野の拡大の効果をねらった。2024（令和6）年度の訪問調査対象は、主に障害児が利用する施設（児童発達支援センター、放課後デイサービス事業所）である。計19ヶ所に調査を行い、

今年度の成果と展望

事業所訪問、作品展の会場等での現場での呼びかけや相談対応を行うなかで、作品展応募の増加や、その事業所に合わせた無理のない継続的な創作活動の取り組みが見られるようになり、活動に関する意欲的な相談内容も増えてきた。また、新たにつながった団体と定期的な意見交換を重ねたことにより、これまでの関係団体も含めて、つながりが強化されてきた。さらに「オープン!アト

リエ」が、創作活動機会のない人への創造の場だけでなく、アートを通したコミュニケーションと人間関係の広がり、交流の大切な場となってきている。宮崎県らしいネットワークが少しずつ広がってきており、その地域らしさ、人と関わること、喜びやモヤモヤや希望、生きていることを芸術文化活動を通して、今後も共有していきたい。



左／「古民家の森で“遊ぶ!”ワークショップ」の様子
右／「手話サマーフェスティバル」出張オープン!アトリエの様子



実施一覧

●相談支援 [そうだん! 2024、4/1～3/31] ●人材育成 [アートな かま、4/1～3/31] [鑑賞支援セミナー「はじめまして、いっしょに鑑賞しませんか?」7/19・11/14] [外出の機会づくりと鑑賞支援「お母さんと子どもの気になる?!美術館」10/19] ギャラリートーク「表現に寄り添うこと。教えて!金一先生!」11/13] [現場体験ワークショップ@宮崎県立美術館（九州障害者アートサポートセンターとの協同開催）1/15] ●関係者のネットワークづくり [「家族の会」意見交換、4/11～3/20(合計5回)] [障がい者の作品鑑賞について考える会、6/13・9/6] [聴覚障害者協会との新たなネットワーク、6/25～10/3(合計4回)] ●参加する機会の確保 [アートトレーラーが連れてきたぞっ!! まちなかアート化@あいあい作品展、4/1～3/31 @みやはく「古民家の森で“遊ぶ!”」展覧会」2/27～3/2 @みやはく「古民家の森で“遊ぶ!”ワークショップ」3/1・3/2] [オープン!アトリエ、4/20～3/15(合計10

回)] [“こころ”のふれあうフェスタ2024作品展、11/13～11/17] [突撃!みんなでギャラリートーク!、11/16] ●情報収集・発信 [ちょっとおじゃましますっ! 事業所訪問2024、4/11～12/11(合計32回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和6年度ポスター形式活動報告書「どうも、おじゃましましたっ。宮崎県障がい者芸術文化支援センターです! 2024」4/1～3/31]

支援センター運営団体

社会福祉法人 ゆくり（アートステーションどんこや）

身体に障がいのある人々が集まり、1994（平成6）年に「障害者芸術村」という名称でスタートした。多様な福祉サービスを、利用者の意向を尊重して総合的に提供できるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に活動している。

鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター (KADAC / カダック)

〒893-0007 鹿児島県鹿屋市北田町11132-1

TEL: 0994-45-5731 FAX: 0994-45-5732

E-mail: info@lanka-plus.com URL: https://www.kadac.jp/



Pick Up! 講座「芸術活動の進め方」



鹿児島県内の芸術文化作品展の様子

ねらい 当支援センターは、2024（令和6）年4月より活動をスタートした。障害福祉事業所、特別支援学校における芸術文化活動についてアンケート調査を実施する中で、芸術文化活動支援や環境を整備することで就労等につ

内容 障害福祉事業所、特別支援学校における芸術文化活動について、どのような課題があるのかをアンケート調査し、障害のある人たちの芸術文化活動を広めていくことや横断的なネットワークを図ることを目的とした講座を実施した。県内外から5名の講師を招き、1月には講座①「継続的なアート活動や支援について学べる場」、

なげるためのノウハウを知りたいとの声があった。このため、支援の充実を図るための基礎資料とすることを目的に、講座の開催をめざす。

2月には講座②「アート活動の先にある障害のある方の未来とは?」をテーマに、2回にわたり開催。障害のある人たちの芸術活動にまつわる環境整備、作品の商品化や製造体制作り、商品の販売や広報活動についてそれぞれお話しいただき、参加者と鹿児島県での活動について考える場をつくった。

今年度の課題と目標

今年度より運営事業団体・体制も変わり、まずは支援センターの本来の業務のあり方について把握するとともに、業務体制を整え、鹿児島県内の当事者や支援者に活動を知ってもらうことを目標とした。課題としては、アン

今年度の成果と展望

運営体制が新しくなり、県内における障害芸術の現状把握や、情報収集、関係機関との連携を密にしてきた。また、活動をしている当事者や施設等を訪ねることで、文化芸術活動の現状を把握するとともに、ニーズや課題の掘り起こしのほか、新たな作家の発掘を行うことができた。そうした活動を通してセンターの活動についても知ってもらうこともできた。当初は情報発信等で出遅れ

ケート調査にて、芸術文化活動支援や環境を整備することで就労等につなげるためのノウハウを知りたいとの声があったため、講座「芸術活動の進め方」を開催することとなった。

てしまった部分があるが、ホームページ、SNS等も準備し、これにより「情報収集」「展示」「発表の機会」でセンターにつなげることができた。今後の展望としては、今年掘り起こしたニーズや、課題に適したセミナー等の実施、相談支援体制の充実、また専門知識の習得等につなげ、障害のある方々の機会をより創出していきたい。



左／鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター講座の様子

右／継続的なアート活動や支援について学べる場としての講座

「芸術活動の進め方」。告知のためのチラシ

鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター講座

芸術活動の進め方

KAGOSHIMA

講座①
継続的なアート活動や支援について学べる場

2025
1/22 水 | 13:30～16:30

講師 福森 創 (社会福祉士人権協会・しよん学園)
長曾我 郁哉 (元美術教師)

タイムスケジュール 進行——大山貴明 (KADAC)
13:30～13:35 受付
13:35～13:40 主催者あいさつ
13:40～14:10 しょうとろ学園の芸術や芸術文化活動支援について (基) —— 福森講師
14:10～14:40 継続的なアート活動や支援方法に対する取り組み (基) —— 長曾我講師
14:40～14:50 休憩
14:50～15:20 アンケート —— 大山貴明
15:20～15:30 アンケート、主催者挨拶、質疑応答
15:35～16:30 質疑応答、終了

講座②
アート活動の先にある障害のある方の未来とは?

2025
2/19 水 | 13:30～16:30

講師 樋口 健二 (九州障害者アートサポートセンター)
石丸 敬郎 (KAGAC KAGAC)
樋口 誠 (一般社団法人暮らし工房)

タイムスケジュール 進行——大山貴明 (KADAC)
13:30～13:35 受付
13:35～13:40 主催者あいさつ
13:40～14:00 九州の障害者アート支援と展望 (基) —— 樋口講師
14:00～14:30 障害者活動と今後の展望 —— 樋口講師
14:30～14:40 休憩
14:40～15:15 障害者活動と今後の展望 —— 石丸講師
15:15～15:30 アンケート、主催者挨拶、質疑応答
15:35～16:30 質疑応答、終了

会場・アクセス
アムアホール
(しょうとろ学園隣 アムアの森内地下1階)
鹿児島県鹿屋市古野町4022-1

会場・アクセス
山崎児童センター
鹿児島県鹿児島市中央区山崎1-1-1
鹿児島県鹿児島市中央区山崎1-1-1
鹿児島県鹿児島市中央区山崎1-1-1
(徒歩約10分)

Google map

参加対象
障害福祉事業所関係者、自治体関係者、学生、アート活動に興味のある方など

定員
各日50名
定員満了・先着順

参加無料

主催 KADAC (鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター) 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●関係者のネットワークづくり [継続的なアート活動や支援について学べる場「芸術活動の進め方1月」1/6～1/18 「芸術活動の進め方2月」1/6～2/15] ●参加する機会の確保 [鹿児島県内の障害のある方の作品展、11/1～12/1] ●情報収集・発信 [障害者支援事業所等における芸術活動についてのアンケート、8/1～10/31]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人 Lanka

2011 (平成23) 年3月、特定非営利活動法人 (NPO 法人) として開業。障害のある人の就労支援を目指して活動する就労継続支援B型事業所。障害があっても働きたい、働くことがわからない人でも何かやりたい、そんな思いを持つたくさんの障害のある人を受け入れ、地域との共生を心がけながら、農園芸作業、アート活動、チョコレート製造などを通じた、自立共生を目指している。

沖縄県障害者芸術文化活動支援センター (ricca / りっか)

〒901-0335 沖縄県糸満市米須1818(アートコネクト米須コースト内)

TEL: 098-996-4466 FAX: 098-996-4467

E-mail: info@riccart.jp URL: https://riccart.jp/



Pick Up! 「障害のある人たちの芸術活動のこれからを考える@沖縄」



「障害のある人たちの芸術活動のこれからを考えるセミナー @沖縄」の様子

ねらい 設立初年度であるため、先行事例に学びながら、今後のセンターのあり方を県民と共有する機会を創出したいと考えた。当支援センターの周知も含め、今後の活

動に向けて他分野の方々とのネットワークの構築もめざした。

内容 当支援センターの紹介を始め、今まで行われた沖縄県での取り組みや大阪や奈良、福岡など、各地で先駆的な芸術活動（美術・舞台芸術等）を展開されている方を講師として招いた。講師からは、それぞれの活動事例から、障害のある人たちの芸術活動が社会にどのような影響を与え、どのような変化が生まれたか等をお話いただいた。また、今後の沖縄県での障害のある人たちの

芸術活動の可能性について、参加者と語り合う場を設け、新たなネットワーク構築を行った。参加者数は計109名で、そのうち会場参加は83名、リモートでの参加は26名であり、対面とリモートのハイブリットで開催した。参加者のアンケートでは、セミナーの内容がニーズや期待に合っていたとの回答が8割以上あり好評であった。

今年度の課題と目標

今年度、沖縄県で初めて支援センターが設置された。まずは、設立されたことを県民に認知していきたいと思う。メディアやマスコミへの露出を図ることで、認知度の向上をめざす。また、今後の課題としては、文化芸術活動に関心のある

学生が関われる場の構築や、県内5圏域（北部・中部・南部・石垣・宮古）での継続的な表現活動ができる場の確保、県内5圏域の団体との継続的なネットワークの形成、県内各地区での障害のある人たちに対しての鑑賞支援や、発表の場の創出等が挙げられる。

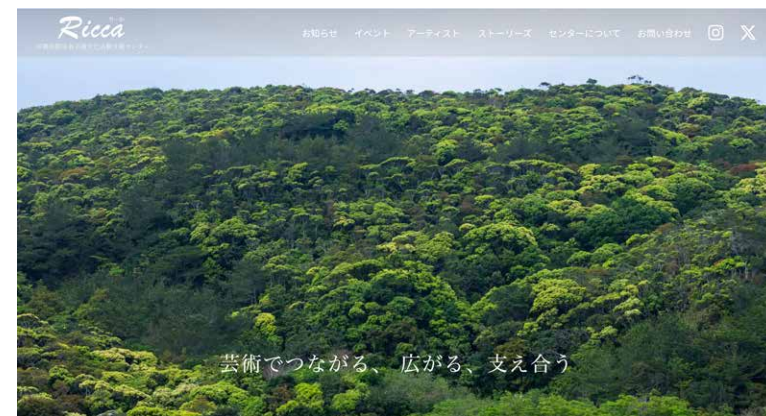
今年度の成果と展望

今年度は「障害のある人たちの芸術活動のこれからを考える@沖縄」と「わったーアート展」を同時開催することができた。また、ニュース報道と新聞掲載により、認知度が向上したと感じている。福祉施設向けアンケート

も実施し、ニーズを把握することができた。次年度、さらに認知・周知の向上と、求められる役割を充足したいと考えている。



左／鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター企画の講座「芸術活動の進め方」への参加風景
右／開設したホームページ画面



実施一覧

●相談支援 [相談窓口、1/27～3/31] ●人材育成 [障害のある人たちの芸術活動のこれからを考えるセミナー @沖縄、3/22] ●関係者のネットワークづくり [沖縄県ネットワーク会議 1/22～3/28 (合計4回)] ●参加する機会の確保 [わったーアート展、3/22] ●情報収集・発信 [ホームページ開設・電話回線設置、2/7～3/31] [Webアンケート(福祉施設対象) 2/13～3/7] [鹿児島県芸術文化活動支援センター視察、2/19～2/20]

支援センター運営団体

社会福祉法人トゥムヌイ福祉会

社会福祉法人トゥムヌイ福祉会は沖縄県糸満市にあり、現在、就労B型を2拠点・生活介護1拠点・放課後デイ2拠点・相談1拠点、2025(令和7)年度事業開始予定の就労B1拠点の全7拠点を運営している。親亡き後のわが子のために、親の会が中心になってきた法人で、理念である「生き甲斐のある生涯を支援する」を実践している。



連携事務局の取り組み

連携事務局

E-mail : welfare@arts-npo.jp URL : <https://arts.mhlw.go.jp/>



支援センター、広域センターを横断的にサポートする事務局として、連携事務局が設置されている。2024（令和6）年

今年度の課題と目標

2024（令和6）年度は、45都道府県に46の支援センター、全国7ブロックに広域センターが設置され、支援の枠組みの整備は広がり、全都道府県設置も間近である。

令和4年度文部科学省生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究「障害者の生涯学習活動に関する実態調査」によると、今後増やしたい手段・場所、内容として33.6%の障害当事者が「文化芸術活動」を挙げるなど、障害者の文化芸術分野への需要は高まっている。

また、令和4年度文化庁障害者等による文化芸術活動推進事業「障害者による文化芸術活動の推進に関する実施状況調査」では「障害者による文化芸術活動は、障害者の個性や能力の発揮、社会参加などの成果につながる」かについて、文化芸術活動を継続的にを行っている団体の67.8%が「とてもそう思う」32.2%が「まあそう思う」と回答していて、芸術団体側の理念的理解は進んでいる。

しかし、令和3年度障害者総合福祉推進事業「全国の障害者による文化芸術活動の現状分析に関する研究」によると、障害者文化芸術活動の機会を提供する事業の頻度

今年度の成果と展望

「センター間のコミュニケーションの活性化、連携の強化」「支援体制の強化」においては、情報交換ミーティング、広域センターミーティング、全国連絡会議の開催を通じて活発な情報交換が行われた。第24回全国障害者芸術・文化祭の開催地・岐阜県で開催した全国連絡会議での開催内容も、地域に根ざした取り組みや地道な活動等を紹介し、各センターが取り入れやすい心がけた。「基本計画における連携体制の模索」においては、関係団体へ本事業に関する情報提供や広報協力等を行った。「支援センター、広域センターによる評価」においては、アンケートを実施し「活動する上で必要な知識やノウハウを得ることができた」等の項目で高い満足度を得られた。

度は、特定非営利活動法人アートNPOリンク（美術分野）、株式会社precog（舞台芸術分野）が協働で運営した。

や情報量等に地域差があり、十分な支援や情報が届かないことなどの課題が残されている。

こうした共生社会に向けた諸政策を整理したものが、「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」（以下、「第2期計画」）である。ここでは(1)障害者による幅広い文化芸術活動の更なる促進や展開が必要であること、(2)障害者が文化芸術に親しみ、参加する機会等の充実が必要であること、(3)地域における障害者による文化芸術活動の推進体制の構築が望まれることが示されている。これらは連携事務局の課題の中心でもあり、「障害者による文化芸術の活動割合」を「2025年度までにコロナ禍前に回復、2027年度まで更なる向上」とした、文化庁文化芸術推進基本計画（第2期）指標検討のための有識者会議での事務局素案の方向性とも合致するものである。以上を踏まえ、今年度は「センター間のコミュニケーションの活性化、連携の強化」「支援体制の強化」「基本計画における連携体制の模索」「支援センター、広域センターによる評価」を目標に掲げ活動した。

障害者芸術文化活動支援センターの設置都府県が増え、各センターからは企画にとどまらず運営上の課題も、連携事務局に持ち込まれることが増えた。直接的な相談支援は業務に含まれないものの、事実上、初歩的な相談支援担当者に対するスーパーバイザーの立場になることも多い。本事業の相談支援体制全般を見た場合、連携事務局の存在は大きいものと自認している。

今後も均一化した情報やノウハウの提供にとどまらない支援体制を構築するため、共通で理解しておくべき理念や知識、技術の情報交換、意見交換など、各センターとの連携を継続して維持・発展させる必要がある。

また、第2期計画を始めとした障害者文化芸術活動に関

する施策全般に関して、文化施設、芸術文化団体等への浸透は道半ばであり、各地の支援センターとの連携が強く結ばれている地域は限られている。今後は障害福祉、

芸術文化の両分野の知見を持った人材の育成を目標として取り組みを進めていきたい。

事業概要	
ア 広域センター等に対する支援	●広域センターミーティング（年3回） ●情報交換ミーティング（年4回）
イ 全国連絡会議の実施	●全国連絡会議（年3回）
ウ 全国の情報収集・発信	●パブリシティ・メディアタイアップによる情報発信 ●全国の取り組みを紹介する企画取材と記事掲載 ●手話・字幕付事業紹介動画の制作と公開 ●事業紹介パンフレットの制作 ●SNS（facebook）の運用、情報提供窓口の開設等
エ 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等	●支援センター・広域センターへの取材、会議参加等による情報収集 ●ウェブサイト改修、報告書作成
オ 障害者団体、芸術団体等との連携	●本事業ウェブサイトの取材を通じた障害者団体・芸術団体とのネットワーキング ●情報収集活動を通じた関係事業や団体との連携

1. 広域センター等に対する支援

広域センターミーティング

広域センターを対象にしたオンラインミーティングを開催した。各ブロックでの近況報告や、特徴的な活動の紹介、情報不足やノウハウ不足の補完、事業の連携や協働の促進など双方向・多方向の全国ネットワークの構築を目指した。

〔参加者〕

広域センター、連携事務局、厚生労働省

〔開催形態〕

オンライン会議ツールを使用

〔第1回〕広域センターミーティング

日時—— 2024年5月14日（火）13時～15時

参加者—— 22人

内容—— 昨年度の振り返り、今年度の事業計画の共有

〔第2回〕広域センターミーティング

日時—— 2024年9月25日（月）10時～12時、
10月29日（火）15時～17時

参加者—— 20人

内容—— 令和6年度障害者総合福祉推進事業「障害福祉施設における障害者による文化芸術活動に関する実態把握の在り方に関する研究」に関連するかたちで、障害福祉サービス事業所を対象に実施予定のアンケートについて意見交換を行った。

〔第3回〕広域センターミーティング

日時—— 2025年1月22日（火）10時～12時

参加者—— 22人

内容—— 今年度の取組報告、第3回全国連絡会議に向けての調整

情報交換ミーティング

支援センター、広域センター、都道府県担当課を対象に、地域を越えた情報交換の場として開催した。令和4年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」の成果物である「障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブック」を用いて、センター運営に関する情報交換を行った。

〔参加者〕

広域センター、支援センター、都道府県担当課、
連携事務局、厚生労働省

〔開催回数・形態〕

全4回、オンライン会議ツールを使用

〔第1回〕関係者のネットワークづくり

日時—— 2024年8月29日（水）10時30分～12時

参加者—— 45人

〔第2回〕相談支援

日時—— 2024年9月20日（金）10時30分～12時

参加者—— 48人

〔第3回〕支援人材の育成

日時—— 2024年11月26日（火）10時30分～12時

参加者—— 41人

〔第4回〕参加する機会の確保

日時—— 2025年1月29日（水）10時30分～12時

参加者—— 31人



情報交換ミーティングの様子

【レポート】

支援センター、広域センターを主な対象とし、地域を越えて交流の機会として、オンラインミーティングを設けた。各回のテーマは、関係者のネットワークづくり、相談支援、支援人材の育成、参加する機会の確保とした。

いずれの回も前半は、本事業のウェブサイトに掲載している発行物を参考テキストとして用いた。2022（令和4）年度に障害者総合福祉支援事業「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」の一環として発行された『障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブック』のテキストを各センターの活動の基礎にあるものとして確認した。そのうえで具体的な事例について、2023（令和5）年度の同事業「障害者による文化芸術活動の幅広い活動を支援するための現状調査と研究」の成果物である『障害者による文化芸術活動をもっと広げる8つの取組事例集』を参照した。

各回後半は、オンライン会議のブレイクアウトルーム機能を用い、多岐にわたるディスカッションを行った。

第1回では、ネットワークができたことで生まれた事業や、既存事業の継続・発展に役立ったことについての共有のほか、行政（都道府県の担当課）との関わり方（報告義務、協働の関係づくり）に関する情報交換、アンケート調査等を行う際の、福祉施設や団体と

2. 全国連絡会議の実施

支援センター、広域センター、都道府県担当課が集まり、事業実施にかかわる連絡事項や留意事項を伝達、確認した。また、事業の実施に必要な基礎知識や専門的知見を全体で共有する講義・研修プログラムを企画、開催した。

【参加者】支援センター、広域センター、都道府県担当課、連携事務局、厚生労働省

【開催形態】オンライン会議ツールおよび対面開催。
当日の欠席者に対しては記録動画を公開

第1回

日時：2024年6月17日（月）13時30分～15時15分

開催形態：オンライン（zoom）

参加者：67人　視聴回数：78回

【議題】

- ① 障害者芸術文化活動普及支援事業について（厚生労働省）
- ② 障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブックの活用について（NPO法人ドネルモ）

つながっていない人たちへのアプローチ、ニーズ把握の方法等についてディスカッションを行った。

第2回は前半の相談支援のレクチャーを引き継ぎ、専門的な相談内容（分野、著作権など）に関する対応はどのようにしているか、当事者からの相談を増やす工夫、相談に対するハードルを下げるために行っていることは何か、相談対応が終わった後の関わり方に関する情報交換を行った。

第3回では、支援人材に関するディスカッションを行った。支援人材の育成を行った後の展開、人材定着に関する議論のほか、芸術文化が専門でない支援者に対してどのように興味や好奇心を持ってもらうのがよいのか、法人代表や運営者、管理者など上層部の理解を得るにはどうしたらよいかといった支援センターから出された課題への対応方法を話し合った。

第4回は、参加する機会の確保がテーマとなった。一つの事業を想定した際に、参加対象者をどうするのかについて議論をした。ターゲットを絞るのか、オープンに参加できるようにするのか、どのような参加のあり方にニーズがあるかといった話し合いがなされた。また、視覚障害、聴覚障害のある人の参加機会の創出についても議論が進んだ。

【レポート】

第1回全国連絡会議では、厚生労働省 障害者文化芸術計画推進官の森真理子氏より、障害者芸術文化活動普及支援事業について全体説明があった。障害者文化芸術活動推進有識者会議の資料を参考にして、第2期計画で整理された課題のもと、支援センターの推進状況や、取組促進に向けた今後の対応方針を着実に進めていくことが紹介された。

参加者からは「全国的狀況などを把握することができて、有意義だった」「年々進捗していると感じた。これからも事業を進めていくことで、社会全体で多くの知らない人に認知・評価してもらえと思う」「支援センターの現在の状況を自分のセンターと比較しながら聞いた」「本県では、今年度が文化芸術に係る次期計画の策定年度であり、第2期計画期間における取組方針などを参考にしながら進めていきたい」等の声があった。

次に、NPO法人ドネルモから、過去に発行された支援センター運営に関連する冊子の紹介を行い、「障害者芸術文化活動支援センター運営サポートブック」の各章で取り上げられている内容が示された。あわせて、今後開催を予定している情報交換ミーティングにおいて、より深い意見交換を予定している旨の説明を行ったほか、オンライン会議のブレイクアウトルーム機能を用いた交流の機会

を設けた。

この内容について、参加者からは「今年度より支援センターの業務に携わるようになった。サポートブックでイメージをつかむことができた」「都道府県職員版のガイドブックがあるといい」「グループワークで他地域の具体的な話が聞けてよかった」「前任者から引き継がれていなかったもので、読み込んで手引きとして使いたい」等のコメントが寄せられた。

第2回

日時：2024年10月24日（木）16時30分～18時、

25日（金）13時30分～16時30分

開催形態：対面（シンポジウムのみ後日記録動画を公開）

会場：長良川国際会議場

今年度は、「清流の国ぎふ」文化祭2024（「第39回国民文化祭」および「第24回全国障害者芸術・文化祭」）が開催される岐阜県で開催した。

（1）交流会

前半は岐阜県のある東海・北陸ブロック内で行われている、美術・舞台芸術のそれぞれの取り組みについて、実演を交えた報告や話題提供を行った。後半は、グループごとに分かれて、情報交換の機会とした。

参加者からは「登壇された方々のパフォーマンス、支援する人たちの想いを知ることができ、私たちがふだん行っている障害福祉サービスでの支援にも通ずるものがあり大変参考になった」「支援する人、当事者、中間支援と、異なる立場の方々が出て、それぞれから話を聞くことができ、より自分たちの活動を振り返る機会になった」等の意見があった。

【話題提供】二村元子（岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASCぎふ〕）、伊藤一輝（クラフトマンいっき）、川上宏二（ワークサポートみやこ）、山口光（あしよげぶセンター〔愛知県障害者芸術文化活動支援センター〕）、まなみんぴかりん（認定特定非営利活動法人がパイ）、村林真哉（特定非営利活動法人希望の園）、かしわ哲（特定非営利活動法人ハイテンション）

【進行】坂野健一郎（東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター）、小川智紀（連携事務局／アートNPOリンク）
当日参加者：49人



第2回全国連絡会議 交流会の様子

（2）シンポジウム

「障害者による芸術文化活動を広げるネットワークづくり～岐阜県内の事例より」（一般公開）

岐阜県美術館では、今年度5年目になるアートコミュニケーション事業の一環で、アートコミュニケーター「～ながラー」の育成に努めている。また、可児市文化創造センター ala では、社会的孤立という社会課題に対してアートで地域につながりを創る人材「まち元気リンクワーカー」の多彩な活動が注目を集めている。また、岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASCぎふ〕では、アートの力を活用して、社会とまじわる場をつくり、障がいのある人の表現と社会参加の可能性を広げることを、ともに目指す「tomoniアートサポーター」による活動が広がりを見せている。こうした岐阜県内での障害者による芸術文化活動の実践について、美術館、劇場、支援センターの立場からそれぞれ紹介を行った。

その後のディスカッションでは、障害者を始めとする芸術文化にふれる機会の創出のために必要な担い手に関する各担当者の思いや、サポーター活動の地域への展開に焦点を当て、議論を深めた。参加者からは「人材育成の取り組み方について、具体的事例が参考になった。本県のネットワークでどのように生かしていくか、考えさせられる時間だった」「いずれの事例も人材育成をシステム化し、丁寧に接しておられる様子が伺え、参考になった」「県内のバスのサイネージで広報されているのも実際に見ることができ、県民を巻き込む周知力に感動した」等の声が寄せられた。

【登壇】二村元子（岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASCぎふ〕スタッフ）、近藤優紀（岐阜県美術館普及業務専門職）、半田将仁（可児市文化創造センター ala 事業制作課 主査）、大澤寅雄（連携事務局／NPO法人アートNPOリンク理事長）

当日参加者：60人　視聴回数：71回



第2回全国連絡会議 シンポジウムの様子

（3）分科会

【分科会1】
一緒に始める新しい挑戦－福祉施設におけるアート活動の実践

「アート活動をはじめようとする事業所のファーストステップに伴走する企画」の活動紹介を行った。また、その過程や結果の中で生まれた福祉・芸術分野のネットワークや人材育成について議論した。

参加者からは「想像以上に事業の団体に寄り添っていて、真似できないと感じた。金銭的な支援だけでなくカタチにしていけることが大事だと感じた」との感想があった。

【登壇】岡村忠弘、平谷尚大（以上、中国・四国Artbrut Support Center passerelle）、原田幸子（チャイルドハウスひなたぼっこ）
当日参加者：17人

【分科会2】
みんなでつくる展覧会
ー継続した関わりの中で見えてきたこと
福祉施設、行政、専門家、作家等からなる県内ネットワークである、埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±0の活動を通して、みんなでつくる展覧会の作り方やその中で生まれてきたネットワーク、継続した関わりの中で見えてきたことについて考えた。

「自分たちが作品展を行ううえで参考になった」「大変面白かったので、今度はもう少し時間を取って話を聞きたいと思った」といった感想が、参加者から挙がった。

【登壇】宮本恵美、小嶋芳維（以上、南関東・甲信障害者アートサポートセンター、埼玉県障害者芸術文化活動支援センター「アートセンター集」）
【聞き手】大澤寅雄（連携事務局／NPO法人アートNPOリンク）
当日参加者：16人

【分科会3】
日常の振る舞いから生まれる舞台芸術体験ワークショップ
岐阜ろう劇団いぶき代表・河合依子氏による演劇ワークショップを体験した。身体表現が持つコミュニケーションの可能性を体験し、障害種別や障害の有無にかかわらず、相手の伝えたいことを受け取る時に必要な「見ること、そして想像すること」について議論した。参加者からは「コミュニケーションの基礎を改めて学ぶことができた。目を見て対話すること、周りを見渡す時間を大切にしたいと思う」といったコメントがあった。

【ファシリテーター】河合依子（岐阜ろう劇団いぶき）
【進行】兵藤茉衣、田澤瑞季（以上、連携事務局／株式会社precog）
当日参加者：12人



分科会の様子

第3回

日時：2025年3月13日（木）13時～15時
開催形態：オンライン（Zoom、YouTubeライブ）
当日参加者：85人　視聴回数：35回

【議題】

① 趣旨説明

② 令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業に関する報告

テーマ1：芸術文化活動を支援する人材の育成等

【中国・四国ブロック】

香川みんなのアート活動センター KAGAWAMOVES（香川県）
中国・四国Artbrut Support Center passerelle（パスレル）

【近畿ブロック】

国際障害者交流センター ビッグ・アイ（大阪府）
障害とアートの相談室

【北海道・北東北ブロック】

福祉とアーツ北海道（北海道）
アールブリュット推進センター Gently

テーマ2：芸術文化活動に参加する機会の確保

【九州ブロック】

佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC（佐賀県）
九州障害者アートサポートセンター

【東海・北陸ブロック】

富山県障害者芸術文化活動支援センターぱーと◎とやま（富山県）
東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

【南関東・甲信ブロック】

東京アートサポートセンター Rights（ライツ）（東京都）
南関東・甲信障害者アートサポートセンター

【南東北・北関東ブロック】

茨城県福祉部障害福祉課 茨城県福祉部障害福祉課（茨城県）
南東北・北関東ブロック広域センター

【レポート】

第3回全国連絡会議は、各ブロックから広域センター、支援センターの担当者が登壇した。

前半のテーマ「芸術文化活動を支援する人材の育成等」に関連する取り組みとして、中国・四国ブロックからは、香川県・善通寺市総合会館ZENキューブで開催された障害者アート作品展示「ZENキューブでつなごう展×アートデリバリープロジェクト」の報告があった。近畿ブロックでは、国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）で開催された「大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ2024創造のコース」から、主にダンスワークショップについて成果報告があった。北海道・北東北ブロックの取り組みからは、北海道立道民活動センター（かでの2.7）で行われた人材育成講座「はじめの

いっぽ」について詳しい説明があった。

また、後半のテーマ「芸術文化活動に参加する機会の確保」に関連した活動として、九州ブロックからは「スター発掘プロジェクトin佐賀」の様子が報告された。東海・北陸ブロックからはトークと

3. 全国の情報収集・発信

パブリシティ

第2回全国連絡会議（岐阜県での対面開催）への取材誘致を目的にプレスリリースを制作し配信、シンポジウム登壇者への周知協力も仰いだことにより、地元新聞記者の取材・記事が掲載された。

プレスリリース配信

●メディアリスト（516件）、PR Times（300媒体 [10,631媒体の中から最適化]、記者・編集者26,000名以上）

取材掲載媒体

●中日新聞夕刊「障害者の芸術活動を支援　長良川国際会議場で全国会議」11月5（火）日掲載、岐阜新聞「障害者の芸術支援、共有　岐阜市で全国連絡会議」11月7日（火）掲載

プレスリリース掲載媒体

●Rakuten Infoseek News

メディアタイアップ

社会福祉界の専門紙「福祉新聞」と、福祉をたずねるクリエイティブWEBマガジン「こここ」の2媒体とメディアタイアップを行った。

【福祉新聞】

第2回全国連絡会議で開催されたシンポジウムや分科会の様子を紹介する広告記事（7段）を掲載。本事業の最も身近なターゲットである福祉従事者や当事者が閲覧する媒体にて、本事業の取り組みを紹介することができた。

ライター：上條桂子　写真：相模友士郎

掲載日：2月11日（火）　発行部数：50,000部

【こここ】

美術に比べ参加人数の少ない舞台芸術活動の福祉現場における有効性を伝えるため、障害者や障害児とともに舞台芸術や身体表現活動に取り組んできた3者による鼎談記事を制作。舞台芸術の中でも表現方法が自由で正解のないコンテンポラリーな表現を中心に、その魅力を紹介しつつ、本事業で支援センターが取り組んでいる舞台芸術活動を紹介する記事となった。

記事タイトル：「言葉を超えて誰もがつながる「身体表現」の魅力とは？福祉を起点に広がるパフォーマンスアーツ、生きづらさを変える可能性」

URL：https://co-coco.jp/series/interview/performing_arts/

鼎談：中西麻友（NPO法人 芸術家と子どもたち 事務局長）、鈴木励滋（生活介護事業所サービス管理責任者／演劇ライター）、田中真実（連携事務局／NPO法人アートNPOリンク）

掲載日：3月18日（火）

ワークショップ「人材育成講座@とやま」シリーズについて、南関東・甲信ブロックからは東京・江東区で行われた商店街を舞台にした発表の場について、南東北・北関東ブロックからは2年目となった茨城の支援センターの活動を中心にした報告があった。

【掲載日～3月31日（月）のアクセス数等】

View数：596件、facebook投稿1,811リーチ、X投稿7,683リーチ、LINE配信1,045配信／727インプレッション

全国の取り組みを紹介する企画取材と記事掲載

支援センターを取材し、本事業の多様な取り組みを紹介する記事を本事業WEBサイトに掲載した。

記事数：10記事

① 「ありのまま」の豊かさ伝えた『のままとがま展』。展覧会から生まれた、熱意とノウハウを育むネットワーク（富山県）

取材先：米田昌功（富山県障害者芸術活動支援センターぱーと◎とやま、特定非営利活動法人障害者アート支援工房ココベリ代表）、土居彩子（アートディレクター）、荒川裕子（東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センターアドバイザー（舞台芸術部門））

② 福祉と演劇、互いの文化やルールの違いを乗り越えたからこそ 相手への理解が進み、次なる可能性が見えてきた（三重県）

取材先：伊藤美智子（公益社団法人三重県障害者団体連合会常務理事兼事務局長）、近藤穂波（公益財団法人三重県文化振興事業団三重県総合文化センター施設利用サービスセンター施設運営課）

③ 展覧会で、街中で、“ザワメキ”を。長野発の「ザワメキアート」が障害の有無をこえていく（長野県）

取材先：持田めぐみ（社会福祉法人長野県社会福祉事業団 長野県障がい者芸術文化活動支援センター（ザワメキサポートセンター） 主事）

④ 福祉現場の課題を踏まえ、継続的な芸術活動をサポート（岩手県）

取材先：與羽勝則（岩手県障がい者芸術活動支援センターかだであるとセンター長）、加藤瑞己（岩手県障がい者芸術活動支援センターかだであるとスタッフ）

⑤ 日本初の障害者の表現を紹介する民設美術館がつなぐ支援 ―とちぎアートサポートセンターTAM（栃木県）

取材先：梶原紀子（もうひとつの美術館館長）、五味潤仁美（とちぎアートサポートセンターTAM、もうひとつの美術館スタッフ）

⑥ もちよって、分け合って、またもちよる。3つの団体が運営する支援センター「こ・ふぁん」の取り組み（群馬県）

取材先：小柏桂子（NPO法人工房あかね代表）、朝岡研（NPO法人工房あかね理事、アトリエART・ON管理者）、野村裕子（特定非営利活動法人あめんぼ代表）、吉田征雄（群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん 事務局）、多胡宏（版画家、（一社）あったらいいなをカタチに アートサポーター）、相馬義昭（群馬県健康福祉部福祉局障害政策課 社会参加推進係）

⑦ 作品展示の場所をギャラリーの中から街へ広げる！県職員ならではのネットワークを活かした支援センターの挑戦（兵庫県）

取材先：西田勇（兵庫県福祉部ユニバーサル推進課社会参加支援班主幹〔事業担当〕）、呉田知子（ひょうご障害者芸術文化活動支援センター支援員）

⑧ アートの生まれる場の魅力を、世の人々に知ってもらうために活動の輪を広げていく(徳島県)

取材先：西木正（社会福祉法人徳島県社会福祉事業団徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター総括専門企画員）

⑨ 「魂の表現」をすくい取り、育む環境を創造する。アール・ブリュット パートナーズ熊本（熊本県）

取材先：三浦貴子（障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館センター長、アール・ブリュット パートナーズ熊本事務局長）、納富久（障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館センター次長、アール・ブリュット パートナーズ熊本事務局次長）

⑩ 地域のプレイヤーをつなぎ、オーダーメイドの場を創出。おおいた障がい者芸術文化支援センター(大分県)

取材先：横山勝也、明石百夏、立花泰香（以上、おおいた障がい者芸術文化支援センター）

[「取組コラム」Visits数（4月1日～3月31日）]

表示回数：1,748件（前年度比：119.15%）、

アクティブユーザー：878件（前年度比：131.04%）



「取組コラム」ページ

手話・字幕付事業紹介動画の制作と公開

手話を話す方々にも本事業への理解を深め親しみを感じてもらうために、手話・字幕付で本事業を紹介する動画を制作、公開した。手話は聾者の手話パフォーマーが担当し、ナレーションは視覚障害のあるナレーターに依頼した。

公開日：3月13日

手話出演：那須映里、手話監修：那須英彰

ナレーション：ePARA Voice／関場理生

映像制作：SETENV

掲載ページ表示回数：522回

アクティブユーザー数：367件（3月13日～3月31日）

パンフレット制作と配布

本事業内容の概要と全国の広域／支援センターを紹介するパンフレットを作成。前年度に引き続き、音声読み上げコード（Uni-Voice機能）を付与した。2025（令和7）年1月に沖縄県の設置が決まり、沖縄県の情報を更新したものも制作した。

配布：10月／3月 部数：4,000部（広域／支援センター各50部、支援センター設置都道府県所轄課各30部、未設置県所轄課各10部、連携事務局100部、厚生労働省200部、他予備）

パネルデータの制作

前年度、展覧会等のイベント会場で本事業を説明するパネルが欲しいという声があったため、各センターが印刷して使用できるパネルデータを制作・WEBサイトにてデータを公開した。

公開時期：8月

SNS（facebook）の運用

広域／支援センターのタイムリーな活動情報を収集し発信するほか、事例紹介記事やメディアタイアップ記事、全国連絡会議の開催告知や事業関連刊行物の紹介等の情報も即時的に発信を行い、本事業の一般的な認知向上につなげた。

投稿期間：4月1日～3月31日

投稿回数：282回（1月平均23.5回）

閲覧者数：5.7万人 リーチ：7,157(前年比97.2%)

コンテンツでのインタラクション：2,177(前年比76.7%)

リンククリック：565(前年比95%)

3月31日時点のフォロワー数：1,496(前年比31人増)

情報提供窓口の開設

本事業WEBサイトに障害者の芸術活動に関わる本事業関係団体以外からの情報提供を呼びかける窓口を開設、本事業SNSにて発信した。

情報提供窓口開設期間：4月1日～3月31日

情報提供件数：31件、団体数：26団体

4. 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等

支援センター・広域センターへの取材、会議参加等による情報収集

2021（令和3）年度から継続して本事業ウェブサイト「取組コラム」掲載記事制作のために、多彩な取り組みを行っている広域センター、支援センターの職員へのインタビューを行った。

ウェブサイト改修

既存の「関連リンク」ページの位置付けを見直し、障害者芸術文化活動普及支援事業の支援センター運営を行ううえで、参考になる資料や本事業について知っていただくための資料、外部WEBリンクをまとめたページとして、情報を更新。毎年、本事業に新規に参画する職員が、本ページを閲覧すれば必要な情報を取り出せるページとした。

5. 障害者団体、芸術団体等との連携

本事業ウェブサイト「取組コラム」記事の制作を通じて障害福祉施設、公共文化施設、教育機関など、関係団体とのネットワークを広げた。また、障害者の芸術文化活動に関する情報提供窓口の開設に伴い、障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワークの加盟団体、文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」委託団

連携事務局運営団体について

特定非営利活動法人
アートNPOリンク（美術分野）
〒220-0004

神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル地下1階
TEL：045-325-0414 FAX：045-325-0414
E-mail：info@arts-npo.jp
URL：https://arts-npo.jp/



株式会社 precog
（舞台芸術分野）
〒162-0801

東京都新宿区山吹町358番地 小磯大竹ビル202
TEL：03-3528-9713
E-mail：info@precog-jp.net
URL：https://precog-jp.net/



アートNPOが多様な価値を創造し、社会を動かす力を持つ社会的な存在であるとの認識を下に、この力を広く社会にアピールするための中間支援組織。市民自治の理念に基づき、アートと社会の橋渡しを通して、幅広く領域を越えたNPOと連携し、豊かな市民社会を創出する役割を担う。社会に向けて提言、他セクターとのパートナーシップ、情報収集・発信・研究調査、地域密着型のミニフォーラム開催等を行っている。

アートプロジェクトの企画・運営を行う制作会社。活動テーマを“横断と翻訳”とし、近年は“アクセシビリティ”（アクセスのしやすさ）と“インクルージョン”（包摂）にも力を入れ、プロジェクトの同時代性や新たな事業展開を追求し続ける。アーティストやクリエイター、そしてさまざまな分野の専門家と協働し、芸術体験と観客を鑑賞でつなぐだけでなく、国際交流・福祉・地域活性・教育普及など多角的なアプローチによって「新しい価値」を生み出し、“表現”の未来をつくる。

数値で見る実績

本事業の活動について、施策の推移や傾向を確認し次年度以降の事業内容の参考とするため、連携事務局は支援センター・広域センターに対して事業終了時に調査を行い、数値データを集約した（対象期間：2024年4月1日以降の各センターの事業開始日から2025年3月31日まで 対象：53センター）。

センター数の推移

今年度は、支援センター 46ヶ所、広域センター 7ヶ所の合計53ヶ所がセンターを運営した〔図表1〕。昨年度から新たに加わったのは北海道、沖縄県の支援センターである。なお、埼玉県には複数の支援センターが設置されている。

今年度注力した事業内容 （支援センターのみ回答）

支援センターが、今年度もっとも注力した事業は「芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保」で、1位としたのは29支援センターだった〔図表2〕。この設問では施策の推移・傾向を見るために3位までを選択式で尋ねており、順位に応じて重みづけた得点で確認できる。

過年度分の数値データもあわせて掲出した。事業成果は数値の増減のみで判断することができない点に十分留意したうえで、以下の通り概観する。

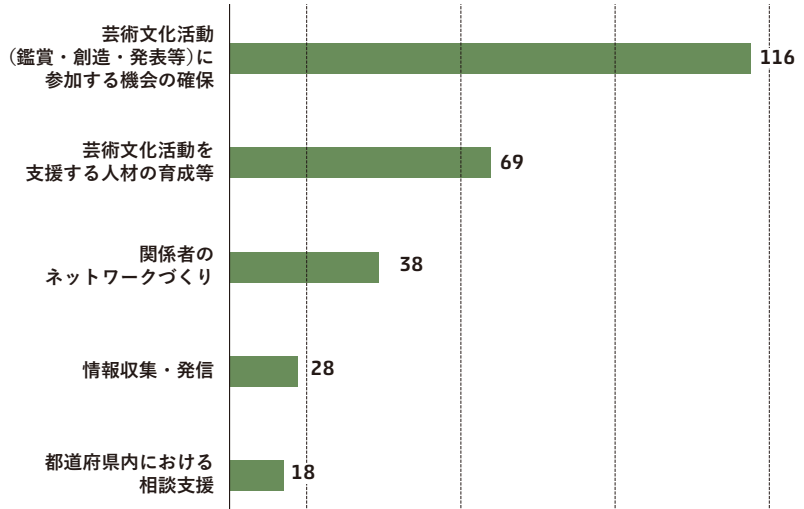
その結果、支援センターは「芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保」「芸術文化活動を支援する人材の育成等」「関係者のネットワークづくり」の順で、事業に注力したことが分かる〔図表3〕。

相談支援

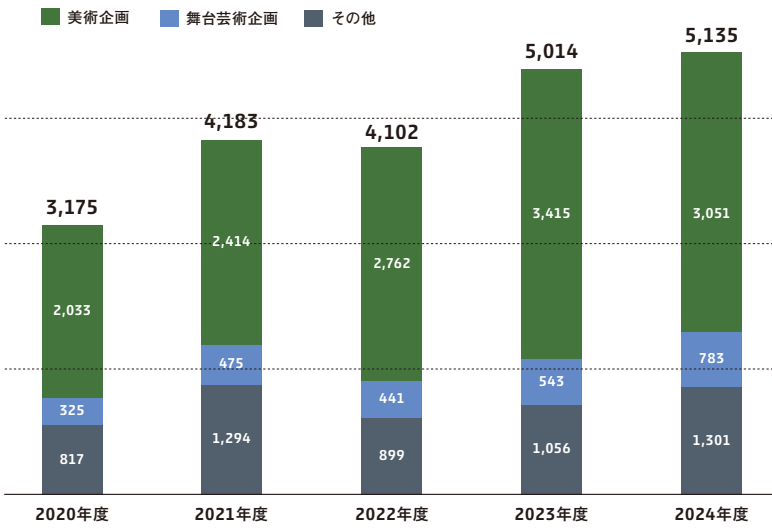
障害のある当事者や支援者、家族等から寄せられた芸術文化活動に関する今年度の相談件数は5,135件で、過去5年で増加傾向にある〔図表4〕。

今年度の相談を相談者の属性で見たと、件数の集計では「障害者」が1,333件で1,440回と最も多い。一方で、回数の集計では「障害福祉関係者」3,526回で最多となっている〔図表5〕。なお、相談件数は寄せられた相談につき1件とカウントしている。また、相談回数は電話やメール等の相談対応ごとに1回とカウントしている。

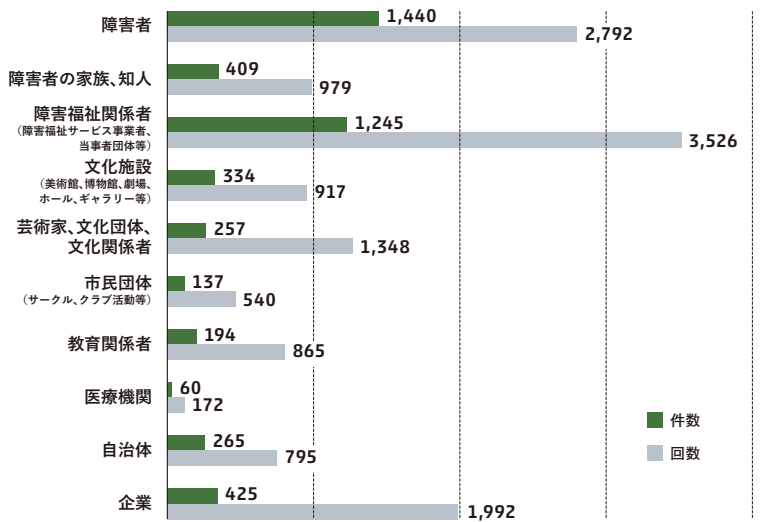
〔図表3〕今年度注力した事業内容（単位：ポイント）



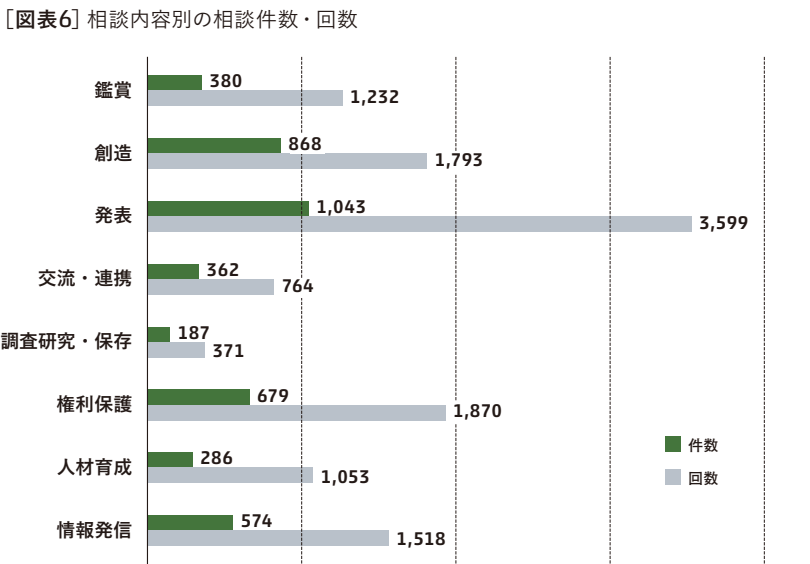
〔図表4〕相談支援件数の推移（単位：件）



〔図表5〕相談者属性別の相談件数・回数



今年度の相談の内容をみると、最も多かったのが「発表」に関する相談の1,043件で3,599回であった。件数では、次いで「創造」「権利保護」の順に多くなっている。回数では、次いで「権利保護」「創造」の順となっている〔図表6〕。



美術企画

今年度の展覧会や創作ワークショップ等の美術企画への来場者は213,768人となった。企画に出展・参加した障害者

数は11,232人だった。この5年間は、増加傾向が続いている〔図表7〕。

〔図表7〕美術企画の来場者数、出展・参加した障害者数の推移（単位：人）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
来場者数	48,464	116,691	118,390	169,367	213,768
障害者の出展者数	4,944	7,176	6,799	9,700	11,232

舞台芸術企画

今年度の舞台公演や身体表現のワークショップ等の舞台芸術企画への来場者は22,511人となった。企画に出演・

参加した障害者数は、2,130人だった〔図表8〕。

〔図表8〕舞台芸術企画の来場者数、出演・参加した障害者数の推移（単位：人）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
来場者数	9,257	13,493	18,263	15,188	22,511
障害者の出演者数	1,065	653	956	1,255	2,130

研修会・講座等

今年度は、支援に必要な知識や技術、ノウハウを学ぶ講座や実践研修を298回実施し、参加者数は9,955人となった〔図表9〕。

〔図表9〕研修会・講座等の実施回数・参加者数の推移

	実施回数（単位：回）	参加者数（単位：人）
2020 年度	175	10,539
2021 年度	253	8,950
2022 年度	210	5,115
2023 年度	277	7,793
2024 年度	298	9,955

情報発信

今年度のテレビ、新聞等のメディアへの掲載、ウェブサイトやSNS等に関する情報発信の取り組みとしては、ウェブサイ

ト投稿数が3,593件、ウェブサイトアクセス数が878,390回、メディア掲載・報道数が426件となった〔図表10〕。

〔図表10〕ウェブサイト投稿数・アクセス数およびメディア掲載・報道数の推移

	ウェブサイト投稿数	ウェブサイトアクセス数	メディア掲載・報道数
2020 年度	2,756	1,072,695	393
2021 年度	3,535	1,606,647	446
2022 年度	3,278	811,120	462
2023 年度	3,249	1,173,013	433
2024 年度	3,593	878,390	426

令和6年度
障害者芸術文化活動普及支援事業 報告書

2025年3月31日

企画・発行
令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業 連携事務局
<https://arts.mhlw.go.jp/>

特定非営利活動法人アートNPOリンク（美術分野）
〒220-0004
神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル 地下1階
E-mail：info@arts-npo.jp TEL：045-325-0414

株式会社precog（舞台芸術分野）
〒162-0801
東京都新宿区山吹町358番地 小磯大竹ビル202
E-mail：info@precog-jp.net TEL：03-3528-9713

連携事務局
大澤 寅雄、小川 智紀
田中 真実、川那辺 香乃
（特定非営利活動法人アートNPOリンク）
中村 茜、兵藤 茉衣、篠田 栞
神田 圭美、星 茉里
（株式会社precog）

デザイン
岡本 健、仙次 織絵（okamoto tsuyoshi+）

編集
大谷 薫子、北沢 理美

印刷・製本
共進印刷株式会社

厚生労働省
「令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業」の
補助を受けて作成しました。

